和会塾　なごらいじゅく

大人向け国語ドリル

改訂第二版

01–28　全四部・二十八回

■□□□ 第一部　いつもの言葉に気づく

□■□□ 第二部　受け取り方をほどく

□□■□ 第三部　言葉を交わす

□□□■ 第四部　自分の言葉を育てる

言葉を読む。相手に届ける。自分の言葉を選び直す。

この本の使い方

取り組み方を選ぶ

気になる回から始められます。一度に終えず、途中で区切ってもかまいません。

小さな稽古　身近な一語や言い回しを、短い場面で考えます。

標準の回　文章を読み、考えたことを説明したり、文を書き直したりします。

立ち止まる回　一つの素材をいくつかの角度から読み、考えを深めます。

自分の経験を使うか、用意された人物や架空の場面で考えるかを選べます。音読や話し合いは任意です。

答えを確かめる

正答のある問い　第 6 回では、窓際に客がいたと判断したら、文章 A のどの言葉が根拠かを確かめます。

書き方を選ぶ問い　第 11 回の要約では、惑星を探す手がかりと、原因を決める前に検討することが、自分の文で伝わるかを確かめます。表現が違っても、必要な内容が伝われば成立します。

書くとき、読み返すとき

字数の指定がある問いでは、句読点やかぎ括弧も一字に数えます。目次の「問題」「解答」には、各回の開始頁を示しています。PDF では頁番号を選ぶと、その頁へ移動できます。

目次

回	題名と回の種類	問題	解答
■□□□	**第一部　いつもの言葉に気づく**		
1	「何でもいい」の中身 小さな稽古	5	95
2	「大丈夫」は、どの大丈夫？ 標準の回	7	96
3	その「ちゃんと」は、どれくらい？ 小さな稽古	11	98
4	似ている言葉は、同じだろうか 小さな稽古	13	99
5	どこから話せば伝わる？ 標準の回	15	100
6	見たことと、感じたこと 立ち止まる回	19	102
7	手が覚えていた場所 標準の回	24	105
□■□□	**第二部　受け取り方をほどく**		
8	何が起きて、何を思ったか 標準の回	28	108
9	「いつも」と言いたくなるとき 小さな稽古	32	109
10	同じ出来事、二つの話 標準の回	34	110
11	説明の道筋をたどる 標準の回	37	112
12	「冷たい」は気持ちだろうか 小さな稽古	40	114
13	短い返事が気になった 立ち止まる回	42	115
14	違和感を急いで消さない 標準の回	47	117

目次　続き

回	題名と回の種類	問題	解答
□□■□	**第三部　言葉を交わす**		
15	聞いてほしい？ 意見がほしい？ 小さな稽古	50	120
16	頼むとき、何を伝えるか 標準の回	52	121
17	読んだことを、自分の言葉で伝える 標準の回	56	122
18	断るとき、どこまで話すか 標準の回	60	124
19	「分かる」と「賛成」は同じ？ 小さな稽古	63	126
20	正しいことを、いつ言うか 立ち止まる回	65	127
21	意見が違うとき、どう話すか 標準の回	69	129
□□□■	**第四部　自分の言葉を育てる**		
22	思い出は、どこから始まる？ 標準の回	73	132
23	「好き」の理由は、あとから見える 小さな稽古	76	133
24	感じに近い言葉を探す 小さな稽古	78	133
25	借りてきた言葉、自分の言葉 標準の回	80	134
26	まだ分からないことを書く 立ち止まる回	83	135
27	削ると見えるもの 小さな稽古	87	137
28	自分の言葉で、小さく結ぶ 標準の回	89	138

参考資料と本文について　142

問題編

■□□□ 第一部　いつもの言葉に気づく

「何でもいい」と言いながら、譲れない条件がある。同じ場所を見ても、言葉によって違う印象が生まれる。第一部では、身近な会話から博物館の仕事、短い随筆へと進み、言葉が何を伝え、何を残すのかを確かめます。

01 第一回　小さな稽古

「何でもいい」の中身

昼休み、二人が食べるものを相談しています。

彩「お昼、何がいい？」
健「何でもいいよ。」
彩「では、カレーにしようか。」
健「今日は辛いものは、ちょっと。」
彩「サンドイッチは？」
健「昨日、パンだったんだよね。」
彩「では、冷たいそば。」
健「今日は温かいものがいいな。」
彩「それは、あまり『何でもいい』ではないのでは。」
健「たしかに。でも、食べたいものが決まっていたわけでもないんだ。」

一　まず受け取る

彩の最後の言葉を読んで、近い感想を一つ選んでください。ここは正誤のない第一印象の欄です。

ア　彩の言うとおりだと思う
イ　健の言いたいことも分かる
ウ　二人とも少しずつ分かる
エ　ほかのことを感じた

選んだもの：＿＿＿＿

二　「何でもいい」は何を表していたか

会話全体から考えて、健の発言に最も近いものを一つ選んでください。

ア　食べる料理を自分では決めず、彩の提案をそのまま受け入れたい
イ　食べたい料理は決まっており、彩に同じ料理を提案してほしい
ウ　食べたい料理は決まっていないが、選ぶときの条件はある
エ　食事の相談を早く終えるため、彩には希望を伝えずにいたい

答え：＿＿＿＿

三　二つの「決まっていない」

「希望」「条件」を一回ずつ使い、二つの違いが分かるように空欄を埋めてください。

（1）食べたい料理が決まっていない。
　　→ 料理の第一（　　）が決まっていない。

（2）どの料理を選んでもよい。
　　→ この場面では、避けたいものなどの
　　（　　）を設けていない。

四　少しだけ具体的にする

健が最初に伝える言葉です。会話に合う言葉を補ってください。

「料理の強い希望はないけれど、今日は（　　）ものがいい。辛いものとパンは避けたいな。」

五　別の場面で使い直す

次から一つ選び、示された条件が伝わる返事を一文か二文で書いてください。複数の表現が成り立ちます。

ア　打合せの日は任せたい。ただし、午前中は難しい。
イ　食事の店は任せたい。ただし、静かに話せる所がよい。
ウ　人数は概数でよい。ただし、前日までに知らせてほしい。

選んだもの：＿＿＿＿

返事

小さなまとめ

　食べたい料理が決まっていなくても、温かいものを食べたいという希望や、避けたいものはあるかもしれません。相手が選ぶために必要な条件を一つ添えると、短い言葉の中身が見えてきます。

02　第二回　標準の回

「大丈夫」は、どの大丈夫？

「大丈夫」は便利な言葉です。その一方で、何について答えたのかは、場面の中に隠れていることがあります。

場面A　家で

母「熱は下がった？」
娘「うん。もう大丈夫。」

場面B　職場で

森「この資料、明日の午前にお渡ししてもよいですか。」
上司「はい、それで大丈夫です。」

場面C　駅で

友人「その荷物、持とうか。」
私「ありがとう。でも、大丈夫。」

場面D　展示室で

来館者「この部屋では、写真を撮ってもよいですか。」
係員「フラッシュを使わなければ、大丈夫です。」

場面Dは架空の施設での会話です。実際の撮影条件は施設により異なります。

一　場面ごとの意味

各場面で「大丈夫」が直接伝えている内容に最も近いものを一つずつ選んでください。

ア　示された条件を守れば、その行為をしてもかまわない
イ　心配するほどの体調の問題は、今はないと答えている
ウ　人に手を借りなくても、自分でその荷物を扱える
エ　提案された期限に資料を渡すので差し支えない

A：＿＿　B：＿＿　C：＿＿　D：＿＿

二　省略された内容を補う

場面Bの「それ」が指す内容を、渡す物と時期が分かるように書いてください。

三　近い言葉を区別する

「可能」「許可」「支障」「不要」から、各文に合う語を一つずつ選んでください。

（1）荷物は自分で運べるので、一人での運搬は（　　）だ。

（2）管理者から撮影してよいと認められ、（　　）を得た。

（3）予定どおりに進める妨げがなく、作業に（　　）はない。

（4）自分で持てるので、運ぶ手助けは（　　）だ。

続いて、次の文を読みます。

> 「撮影の許可は得たが、カメラの電池が切れている。」

「許可を得た」と「撮影が可能だ」を、この場面で同じ意味だといえますか。違いが分かるように、理由を一文で書いてください。

四　返事の意味と、実際の状態

> 甲「顔色がよくないようですが、大丈夫ですか。」
> 乙「大丈夫です。」

この返事だけから、乙が本当に苦しくないと断定できますか。判断と、その理由を一文か二文で書いてください。

五　同じ返事の前後を見る

次の会話では、「今日はもう大丈夫です」の意味が異なります。それぞれ「大丈夫」を使わずに言い換えてください。

> **会話 1**
> 係「追加の椅子を運びましょうか。」
> 担当「全員座れました。今日はもう大丈夫です。」

担当の返事

会話 2
同僚「休んでいた間の作業を引き受けましょうか。」
私「ありがとう。今日はもう大丈夫です。一人で進められます。」

私の返事

「今日はもう大丈夫です」だけが切り離されて届いたら、何を一つ尋ねれば、意味を確かめられるでしょうか。自分の質問を一文で書いてください。

確かめる質問

六　言葉だけでは決まらないもの

担当者「修正した資料を送りました。これで大丈夫でしょうか。」
受け手「大丈夫です。」

このやり取りから読み取れる範囲として、最も適切なものを一つ選んでください。

ア　修正した資料は、確認を求めた範囲で受け入れられた
イ　受け手は資料の細部まで読み、改善の余地がないと判断した
ウ　受け手は返事を書く時間がなく、承諾を短く伝えた
エ　修正前の資料にも、受け手は特に問題を感じていなかった

答え：＿＿＿＿

問六のやり取りだけでは確かめられないことを、一つ書いてください。

七　意味が分かる返事をつくる

次の A〜C から一つ選んでください。個人的な事情を詳しく書く必要はありません。

A　会話の中にとどまる

駅での場面 C の返事を、気遣いへのお礼と、手伝いが必要かどうかが伝わる一文か二文に直す。「大丈夫」を残してもかまいません。

B　用意された場面で考える

「来週の集まり、参加できそう？」と聞かれた。参加はできるが、開始から三十分ほど遅れる予定である。「大丈夫」を使わずに返事を書く。

C　自分の言葉を一つだけ見る

自分が「大丈夫」と言う場面を一つ挙げ、省略していた内容を一つ補って書く。A か B に替えてもかまいません。

選んだもの：＿＿＿＿

返事または言い換え

小さなまとめ

　直前に何を尋ねられたかを見ると、「大丈夫」の中身が読めます。ただし、返事の意味が読めることと、話し手の体調や気持ちまで確かめられることは別です。必要なときには、何について答えているのかを一言添えられます。

03　第三回　小さな稽古

その「ちゃんと」は、どれくらい？

次の三つの指示を読んでください。

①「会議室を、ちゃんとしておいてください。」
②「資料は、早めに送ってください。」
③「届いた箱は、適当に置いておいてください。」

一　人によってずれやすい言葉

①〜③で、聞き手が判断に迷う主な理由として最も近いものを一つ選んでください。

ア　同じ作業を頼むときも、指示には必ず専門的な言葉が要るから
イ　話し手と聞き手とで、基準や任された範囲が異なることがあるから
ウ　短い指示では、頼まれた作業よりも話し手の気持ちが優先されるから
エ　具体的な条件を示すには、作業の経過を初めから説明する必要があるから

答え：＿＿＿＿

二　「ちゃんと」の中身を見えるようにする

①の話し手が望むのは、次の三点でした。すべてを伝える指示に書き換えてください。二文に分けてもかまいません。

・机を口の字に並べる
・各席に資料を一部ずつ置く
・開始十分前までに終える

三　「早めに」は何時までか

会議は金曜日の午後三時です。木曜日の午前中に資料を確認したい人が頼みます。送信の期限が明確で、その希望にも合うものを一つ選んでください。

ア　できれば木曜日のうちに送ってください
イ　木曜日の早い時間に送ってください
ウ　木曜日の午前十時までに送ってください
エ　会議の前日までには送ってください

答え：＿＿＿＿

四　任せてよい範囲

届いた箱は、あとで全員で仕分けます。今、話し手が伝えたい条件は「通路をふさがないこと」だけです。その条件を示し、ほかの置き方は任せる指示を一つ選んでください。

ア　あとで仕分けるので、空いている所へ置いてください
イ　箱が崩れないよう、きれいにまとめて置いてください
ウ　ほかの荷物と同じ場所へ、向きをそろえて置いてください
エ　通路をふさがない場所なら、置き方は問いません

答え：＿＿＿＿

五　相手が動きやすい指示をつくる

次から一つ選び、必要な条件を二つ以上、自分で決めて書き換えてください。作業の内容・量・期限・場所などから、相手が迷いそうな点を選べます。

ア　「部屋をきれいにしておいて」
イ　「少し多めに用意して」
ウ　「近いうちに返事をください」

選んだもの：＿＿＿＿

書き換え

加えた条件を一つ挙げ、それがないと何に迷いそうかを一文で書いてください。

小さなまとめ

曖昧な言葉には、互いに分かっている基準を、短い言葉で伝えられる便利さがあります。すべてを細かく決める必要はありません。「どこまでは条件で、どこからは任せるのか」が分かると、短い指示でも、必要なことが伝わります。

04　第四回　小さな稽古

似ている言葉は、同じだろうか

展示しない時間の仕事

博物館では、文化財の傷みを抑えるため、光の強さや展示期間を調整することがある。展示されていない時間も、文化財を残す営みの一部である。

たとえば、古い地図を扱う場面を考えてみよう。地図を番号付きの箱に入れ、どこに置いたか、いつ出し入れしたかを記録する。地図を「保管する」と言うときは、こうした置き場所や出し入れの管理に目が向く。

同じ地図の色あせや傷みを抑えるため、光や温度、湿度を調整する。それを「保存する」と言うときは、資料の状態を保ち、あとまで残すことに目が向く。

もっとも、保管の仕事にも、傷つけたり失ったりしないように守ることが含まれる。「保管」と「保存」は別々の作業を指すとは限らず、同じ仕事を異なる重点から呼ぶこともある。

地図の例は、一般的な保存の考え方をもとにした架空の場面です。

一　どこに目が向く言葉か

本文では、二つの語の重点をどのように説明していますか。それぞれ二十字程度で書いてください。

保管

保存

二　場面に合わせて選ぶ

「保存」「保管」から、伝えたい重点により合う語を一つずつ選んでください。理由も短く書いてください。

（1）忘れ物を、持ち主が受け取りに来るまで受付で（　　）する。伝えたいのは、誰がどこで預かっているかである。

理由

（2）地域の祭りの映像を、次の世代も見られるように（　　）する。伝えたいのは、記録をあとまで残す目的である。

理由

三　置き換えると、何が変わるか

ア「地図は収蔵庫で保管している。」
イ「地図は収蔵庫で保存している。」

収蔵庫は、博物館などが資料を収める場所です。この二文は、同じ仕事を指すこともあります。重点の違いを一文か二文で説明してください。

四　別の分野で使ってみる

博物館以外の場面を考え、「保存」か「保管」を使って一文を書いてください。物を預かる場面や、記録を残す場面でもかまいません。複数の答えが成り立ちます。

選んだ語と、その語で伝えたい重点：

小さなまとめ

　似た言葉は、指す仕事が重なっていても、目を向けるところが少し違います。置き換えられるかだけでなく、その語で何を伝えたいかを確かめられます。

05　第五回　標準の回

どこから話せば伝わる？

　説明するとき、起きた順にすべて話せばよいとは限りません。相手がまず知りたいことによって、言葉の順序は変わります。

一　遅れる連絡を組み立てる

午前十時からの打合せへ向かっている人が、進行を担当する上司へ急いで連絡します。次の情報があります。

ア　電車が十五分ほど遅れている
イ　現在は午前九時四十二分である
ウ　到着は午前十時七分ごろになる見込みである
エ　配布資料は共有フォルダに入っている
オ　同僚の田中さんが先に説明を始められる
カ　遅延情報を確認したのは午前九時四十分である

（1）「開始に間に合うか」をまず知らせるため、最初に伝えるとよい情報を一つ選んでください。

答え：＿＿＿＿

（2）到着見込み・理由・先にできる対応を残すとき、確認した細かな時刻は省けます。ア〜カのどれですか。

答え：＿＿＿＿

（3）次の三つを、今回の連絡に合う順に並べてください。複数の順序が成り立ちます。選んだ理由も一文で書いてください。

①遅れる理由　　②到着見込み　　③先にできる対応

順序：＿＿ → ＿＿ → ＿＿

理由

二　相手によって必要な情報は変わる

同じ遅刻について、次の三人へ伝えます。ア〜カから、各人に特に必要な情報を二つずつ選んでください。同じ情報を別の相手に選んでもかまいません。選んだ理由を、相手の役割に触れて短く書いてください。

ア　到着予定時刻
イ　配布資料の保存場所
ウ　来客を待たせる時間の見込み
エ　田中さんにお願いしたい説明の範囲
オ　電車が遅れた路線名
カ　遅延情報を確認した時刻

A　打合せを進行する上司　　選ぶ情報：＿＿・＿＿
理由

B　受付で待っている来客　　選ぶ情報：＿＿・＿＿
理由

C　先に説明を始める田中さん　選ぶ情報：＿＿・＿＿
理由

三　長い説明を二文にする

> 今朝はいつもより少し早く家を出たのですが、駅に着いたところで電車が止まっていて、しばらく待ってから別の路線へ回ろうとしたものの、そちらも混んでいて、いま移動しているところです。たぶん十時七分ごろに着くと思います。

上司へ短く伝えるため、到着見込みを先にした二文、合わせて六十〜九十字にまとめてください。理由は一つにまとめ、現在移動中であることも残します。

四　小さな失敗を訂正する

担当者が、取引先へ古い版の資料を送ってしまいました。すぐに気づき、正しい版を送り直します。

次の四文を並べ替え、相手が内容をつかみやすい連絡にしてください。一つの順序だけが正答ではありません。

ア　先ほど送付した添付ファイルは、古い版でした。
イ　失礼いたしました。
ウ　正しい版を、このメールに添付いたします。
エ　先ほどのファイルは使用せず、こちらをご確認ください。

順序：＿＿ → ＿＿ → ＿＿ → ＿＿

その順序で、どの情報を先に知らせられるかを一文で説明してください。

五　不足している情報を見つける

次の集まりは、日時も参加者も変わらず、場所だけが変わります。変更前の案内は参加者に届いています。

> 明日の集まりは、会場が変更になりました。よろしくお願いします。

会場へ向かう人のために、最も先に補う情報を一つ選んでください。

ア　変更後に向かう会場の場所
イ　会場変更を決定した時刻
ウ　変更後の会場にある設備
エ　変更前の会場を選ぶ理由

答え：＿＿＿＿

会場は「東館二階・第二会議室」へ変わります。不足情報を補い、二文以内の連絡を書いてください。

六　利用者に必要な案内を書く

架空の図書館の作業記録です。来館予定の利用者に知らせる案内を作ります。

・七月二十日は、資料の保存環境を点検する。
・閉館時刻を、通常の午後八時から午後六時へ変える。
・開館は、通常どおり午前九時である。
・返却ポストは、午後六時以降も利用できる。
・返却された本は、翌朝の処理まで館内で保管する。

（1）三文以内で案内を書いてください。最初の文で日付と閉館時刻の変更を伝え、点検という理由と、閉館後も利用できるものを残してください。

（2）案内から省いてよい情報を一つ挙げ、今回の利用者にとって省いてもよい理由を書いてください。

七　順序を選ぶ理由

この回全体の考え方に最も合うものを一つ選んでください。

ア　説明の不足を防ぐには、どの相手にも情報を同じ順でそろえる
イ　説明に納得してもらうには、結論より先に理由を述べる
ウ　説明を短くするには、相手に尋ねられた情報だけを残す
エ　役立つ説明にするには、相手の目的に応じて情報の順を選ぶ

答え：＿＿＿＿

小さなまとめ

「相手は、まず何を知れば動けるか」を考えると、残す情報と後へ回す情報が見えてきます。経過を詳しく知りたい相手もいます。いつでも同じ順にするのではなく、目的に合う順を選べます。

06　第六回　立ち止まる回

見たことと、感じたこと

午後四時、雨の降る日に、小さな喫茶店へ三人が入りました。同じ店内について書かれた三つの文章を読みます。

文章 A

入口の右側に、二人掛けのテーブルが四つ並んでいた。窓際の二卓には客がいて、一人は本を読み、もう一人はカップを両手で包んでいた。カウンターの端には、洗い終えたグラスが六つ伏せてあった。奥の時計は四時十分を指していた。天井のスピーカーから、ピアノ曲が小さな音で流れていた。

文章 B

店に入ると、外の雨音が一枚の扉の向こうへ退いた。窓際の二人は、それぞれ別の時間の中にいるようだった。カップを包む手も、本の頁をめくる指も急がない。ピアノの音は、店の空気を静かに均していた。

文章 C

店内は活気に乏しく、どこか取り残されたように見えた。窓際の客は長居をしているらしく、店員も気にしていないようだった。カウンターに並ぶグラスからは、仕事がひと段落して手持ち無沙汰になった店の様子がうかがえた。

一　最初の印象

最も店へ行ってみたいと感じた文章を一つ選ぶか、「どれでもない」としてください。正誤のない問いです。気になった言葉も一つ残してください。

選んだ文章：＿＿＿＿　　気になった言葉：

二　四つの働きに分ける

この回では、表現を次の四つの働きから考えます。

観察　目や耳などで直接確かめられること
印象　その場や物が、自分にどう感じられたか
評価　よい・悪い、望ましい・物足りないなどの判断
推測　直接見えていない事情を、手がかりから考えたこと

次の表現の中心となる働きを書いてください。重なっていると思うものは、二つ挙げ、短い理由を添えてもかまいません。

（1）二人掛けのテーブルが四つ並んでいた。　（　　）

（2）それぞれ別の時間の中にいるようだった。（　　）
（3）店内は活気に乏しい。（　　）
（4）窓際の客は長居をしているらしい。（　　）
（5）ピアノ曲が小さな音で流れていた。（　　）
（6）店員は手持ち無沙汰になったようだ。（　　）

重なりについて書く場合の理由

三　本文から確かめられること

冒頭の説明と三つの文章から、確かめられることを二つ選んでください。

ア　店内には空いているテーブルが二卓ある
イ　窓際の二卓には客がいた
ウ　三人が店へ入った日は、店の外で雨が降っていた
エ　洗い終えたグラスは六人の客が使った物である
オ　店内ではピアノの生演奏が行われている

答え：＿＿・＿＿

四　同じ事実に何が加わったか

> 文章Ａ「カウンターの端には、洗い終えたグラスが六つ伏せてあった。」
> 文章Ｃ「カウンターに並ぶグラスからは、仕事がひと段落して手持ち無沙汰になった店の様子がうかがえた。」

（1）文章Ｃで加わった内容を二つ選んでください。

ア　グラスが伏せて置かれているという観察
イ　仕事がひと段落したという推測
ウ　グラスがカウンターにあるという観察
エ　店員が手持ち無沙汰になったという推測

答え：＿＿・＿＿

（2）文章Ｃの説明について、最も適切なものを一つ選んでください。

ア　伏せたグラスの数から、その日の仕事が終わったと分かる
イ　具体的な物を挙げた説明なので、店員の事情まで確かめられる
ウ　可能性としては成り立つが、別の事情でも同じ状態になりうる
エ　文章Ａには事情がないので、文章Ｃの説明は必ず誤りである

答え：＿＿＿＿

（3）グラスが伏せてある別の事情を一つ考えてください。本文にない内容を加える「可能性の例」です。本文に反しない範囲で書きます。

五　評価から、確かめられる内容へ戻す

「店内は活気に乏しい」の代わりに、そう感じる手がかりになりそうな事実を、文章Aから一つ選んで書いてください。事実を新しく作らないことを条件とします。

六　どの事実を選ぶか

同じ店の紹介を二通り書きます。次のア〜キから、それぞれ三つの事実を使ってください。同じ事実を両方に使ってもかまいません。

ア　二人掛けのテーブルが四つある
イ　窓際の二卓に客がいる
ウ　一人は本を読んでいる
エ　一人はカップを両手で包んでいる
オ　グラスが六つ伏せてある
カ　ピアノ曲が小さな音で流れている
キ　店の外では雨が降っている

紹介1　静かに過ごせそうな店として書く

選ぶ事実：＿＿・＿＿・＿＿

二文か三文の紹介

紹介2　自分には少しさびしく感じられる店として書く

選ぶ事実：＿＿・＿＿・＿＿

二文か三文の紹介

どちらかの紹介で使わなかった事実を一つ挙げ、外した理由を短く書いてください。

七　近い描写語を比べる

ア「静かな店」　　イ「さびしい店」

（1）アでは主に音や人の動きの少なさに、イでは書き手が受けた感じに目が向きます。アをそのままイに置き換えると、紹介の印象はどう変わりそうですか。一つの答えには決まりません。

（2）「落ち着いた店」と「活気に乏しい店」も、同じ場面から生まれうる表現です。どちらかを選び、本文にある手がかりと、別の人ならどう見るかを分けて書いてください。最初の感じ方を消す必要はありません。

選んだ表現：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

本文にある手がかり

別の人ならどう見るか

八　書き手の位置を見る

文章 B と文章 C の違いとして最も適切なものを一つ選んでください。

ア　B には比喩があるが、書き手の感じ方が示されるのは C だけである

イ　B は比喩で印象を示し、C は評価や見えない事情の推測を示している

ウ　B も C も A の事実を別の語で示しており、見方には違いがない

エ　C はグラスという具体物を挙げるため、B より事実だけに近い

答え：＿＿＿＿

九　読み手として確かめる

C を読み「よくない店かもしれない」と感じたとします。次に何を見たり尋ねたりすれば、その感じ方の手がかりを確かめられるでしょうか。一つ書いてください。

十　外側のものを描写する

次の架空の待合室を描写します。

- 壁は白く、木の長椅子が二脚ある。
- 丸い時計が十一時二十分を指している。
- 窓の外で、自転車のベルが一度鳴る。
- 机の上に、折り目のついた案内冊子が三冊ある。

A〜C から一つ選んでください。どの方法でも、この回の学びになります。

A　観察だけで書く。与えられた情報だけで二〜四文にする。

B　印象を一つ加える。観察と、どう感じられたか一つを二〜四文にする。

C　同じ事実を二通りに書く。二つ以上の同じ事実から「落ち着く感じ」と「心細い感じ」を各二文で描く。人の有無など、情報にない事実は足さない。

描写　選んだものに丸　A／B／C

小さなまとめ

　見たことと感じたことは、どちらか一方だけが大切なのではありません。感じたことには、その人がその場をどう受け取ったかが表れます。ただし、それを事実として伝えるときには、どこまで見えていて、どこから考えを足したのかを分けられます。分けることは、感じ方を捨てることではありません。

07　第七回　標準の回

手が覚えていた場所

次の随筆を読んで、あとの問いに答えてください。

白いカップの縁が欠けたのは、冬の終わりだった。洗い終えて水切りかごへ置くとき、隣の皿に軽く当たった。乾いた音がして、縁に米粒ほどのくぼみができた。

指でなぞるだけなら、ほとんど分からない。それでも口をつけるたびに、欠けたところが唇へ触れた。痛いほどではない。ただ、飲むたびにそこだけが先に分かる。私は数日迷ってから、そのカップを食器棚の奥へ移した。

白地に細い青線が一本あるだけの、特別高価でも珍しくもないカップだった。引っ越して間もないころ、駅前の店で二つ買った。片方はずいぶん前に割れ、残った一つを、朝のコーヒーにも夜の白湯にも使っていた。

翌朝、私は新しい灰色のカップを棚から出した。ところが次の日も、その次の日も、扉を開けた手は、いったん右奥へ向かった。そこに白いカップはない。目で見れば分かっているのに、手のほうが先に、いつもの場所を探してしまう。

棚には、カップ一つ分の空白が残った。正確には、空白などない。灰色のカップを少し右へ寄せれば、棚はすぐ埋まる。それでも私は、しばらくそこを詰めなかった。何も置かれていない幅が、使い終えた言葉のあとの間のように見えた。

春になって、白いカップを棚から出した。飲み物には使わず、窓辺で小さな匙を立てることにした。青い線は少しかすれ、欠けた縁には午後の光が細くたまった。

遊びに来た友人が、それを見て言った。

「欠けているのに、まだ使っているんだね。」

「まだ場所があるから。」

私はそう答えた。けれど、言ってから、少し違う気がした。カップの置き場所が残っていたのではない。残っていたのは、扉を開けたあとに右奥へ伸びる手の動きや、持ち上げる前から知っている重さのほうだったのかもしれない。

手は、持つものがなくなってからも、しばらくその重さを覚えている。

私は答えを言い直さず、カップの青い線に午後の光がたまるのを見ていた。

一　本文に書かれていること

本文の内容に合うものを一つ選んでください。

ア　白いカップは、引っ越す前から朝と夜に使い続けていた

イ　白いカップの欠けは、指でなぞるとすぐ分かる大きさだった

ウ　灰色のカップは、白いカップを見た友人が選んで贈った

エ　白いカップは、朝のコーヒーにも夜の白湯にも使っていた

答え：＿＿＿＿

二　カップを奥へ移した理由

「私は数日迷ってから、そのカップを食器棚の奥へ移した」とあります。直接の理由を、本文に即して二十〜三十字で書いてください。

三　手のほうが先に知っていた

「目で見れば分かっているのに、手のほうが先に、いつもの場所を探してしまう」に表されたこととして、最も適切なものを一つ選んでください。

ア　棚の奥の見えにくさを補うため、手でカップの位置を確かめていた

イ　いつもの場所にないと知りながら、繰り返してきた手の動きが残っていた

ウ　灰色のカップを使うたびに、白いカップとの重さの違いを比べていた

エ　カップを奥へ移したのを忘れて、もとの場所にあると考えていた

答え：＿＿＿＿

四　「空白」の二つの意味

（1）「棚には、カップ一つ分の空白が残った」の「空白」は、目に見える意味ではどのようなものですか。場所と広さが分かるように書いてください。

（2）書き手にとって、その空白は何を感じさせますか。「使い終えた言葉のあとの間」を手がかりに、四十〜六十字で説明してください。

五　比喩の働き

「何も置かれていない幅が、使い終えた言葉のあとの間のように見えた」という比喩の働きとして、最も適切なものを一つ選んでください。

ア　すぐに埋めなかった棚の幅を、言葉のあとに残る余韻に重ねる
イ　棚にできた一杯分の幅を、物の大きさと比べて正確に示す
ウ　カップを使わなくなり、友人との会話まで避け始めた気持ちを示す
エ　灰色のカップを右へ動かし、以前の習慣を終える必要を訴える

答え：＿＿＿＿

六　題名を考える

（1）「手が覚えていた場所」という題名が本文に合う理由を、三十〜五十字で書いてください。

（2）別の題名をつけるなら、どのようなものにしますか。複数の答えが成り立ちます。

別の題名

七　最後を読む

書き手が友人への答えを言い直さなかった理由は、本文から一つに決められません。本文の言葉を一つ手がかりにし、どのように読めるかを一文か二文で書いてください。想像であることが分かる表し方にします。

手がかりにした本文の言葉

その言葉から考えたこと

八　距離を選んで書く

A〜C から一つ選んでください。自分の思い出を書かなくても取り組めます。

A　文章の中にとどまる

白いカップが「飲む道具」から別の役割へ変わったことを、本文に即して二文で説明する。

B　暮らしの動作を書く

手が場所や重さを覚えていそうな物を一つ挙げ、動作を二文で書く。架空の物や人物でもよく、詳しい思い出は書かない。

C　物の特徴だけを書く

本文の白いカップを、感情を表す語を使わず、色・形・傷・光のうち三つを入れて二文〜三文で描写する。

選んだもの：＿＿＿＿

記述

□■□□ 第二部　受け取り方をほどく

同じ待ち時間にも、同じ行事にも、いくつかの受け取り方があります。第二部では、日常の記録を比べ、星の明るさから惑星を探す説明文へ進みます。何が示され、どこから解釈や推測が加わるのかを、感じたことも残しながら確かめます。

08　第八回　標準の回

何が起きて、何を思ったか

土曜日、悠と麻衣は午後二時に駅の西口で待ち合わせました。悠は五分前に着きましたが、二時になっても麻衣は見えません。

午後二時六分　麻衣「ごめん。二時十五分ごろに着く見込みです。」
午後二時二十分　麻衣はまだ来ておらず、遅れる理由は書かれていない。
午後二時二十四分　麻衣が西口に着いた。

待っている間、悠はこう記しました。

「また待つことになった。予定は後回しなのだろうか。腹が立つし、途中で何かあったのではと心配でもある。遅れると分かった時点で、理由だけでも知らせてほしかった。」

一　まず受け取る

悠の記録を読んだ第一印象に近いものを選んでください。正答はありません。

ア　悠が腹を立てるのは自然だと思う
イ　麻衣に何か事情がありそうだと思う
ウ　腹立たしさと心配が同時にあるのが分かる
エ　ほかのことを感じた

選んだもの：＿＿＿＿

二　四つの働きを分ける

次の言葉の中心となる働きを、出来事・受け取り・感情・願いから選んで書いてください。

約束の時刻は午後二時だった。（　　）

午後二時二十分になっても麻衣は来ていなかった。（　　）

私との予定は後回しなのだろう。（　　）

腹が立った。（　　）

途中で何かあったのではないか。（　　）

心配だった。（　　）

理由だけでも早く知らせてほしかった。（　　）

出来事はこの場面で確認できること、受け取りはそこに加えた意味や可能性です。感情は感じたこと、願いは望んでいたことに目を向けます。

三　混ざった一文をほどく

悠が待っている間に、次のように書いたとします。

> 麻衣は二十分も来なかった。私との約束を軽く見ているから、私は大切にされていない。

（1）「二十分も」という感じ方を、時刻で表した出来事へ戻し、一文で書いてください。

（2）麻衣の態度や二人の関係について、悠が推測した部分を二つ、上の文からそのまま抜き出してください。

抜き出す部分

（3）元の悠の記録にある感情を二つ、願いを一つ書いてください。

感情二つ／願い一つ

四　どこまでが場面から言えるか

麻衣の説明を聞く前の場面と、悠の記録から確かめられるものを二つ選んでください。

ア　二時二十分の時点で、悠には麻衣が遅れる理由が知らされていない

イ　麻衣は約束を軽く考え、理由を書かずに到着の見込みだけを伝えた

ウ　悠は予定が後回しかと思い、腹立たしさと心配を言葉にしている

エ　麻衣は悠を安心させるため、理由を書かずに到着の見込みを伝えた

答え：＿＿＿＿＿＿

五　説明が加わったあと

麻衣が着いてから、次の説明を聞きました。

> 麻衣　「乗っていた電車が午後一時五十分ごろ駅と駅の間で止まったの。地下で電波が入らず、次の駅に着いてから連絡した。十五分くらいだと思ったけれど、乗換口も混んでいて遅くなった。ごめん。」

この説明を踏まえた考え方として、最も適切なものを一つ選んでください。

ア　遅れた事情が分かったので、悠が待つ間に感じた心配は読み違いになる
イ　電車が止まったと分かったので、麻衣に故意がなかったことも証明される
ウ　遅れた事情が分かっても、悠が待ったことや感じたことまで消えはしない
エ　到着の見込みが外れたので、二時二十四分の到着記録も直す必要がある

答え：＿＿＿＿＿＿

六　同じ待ち時間を二通りに受け取る

次は、説明を聞く前にありうる受け取り方です。B の「ふだん時間を守る」は、この受け取り方をする人が加えた想定であり、冒頭の記録では確かめられていません。

> 受け取り A　「また待たされた。私との約束は後回しなのかもしれない。」
> 受け取り B　「ふだん時間を守る人だから、途中で何か起きたのかもしれない。」

（1）二つに共通する出来事を一文で書いてください。

（2）A と B がそれぞれ加えた意味や可能性を、一つずつ書いてください。

A／B

（3）二つの受け取り方を確かめるのに役立ちそうな情報を、一つ挙げてください。本文にない情報を、既に分かった事実としては書きません。

七　二文にして伝える

説明を聞いたあとの悠として、麻衣へ伝える二文を書いてください。第一文で待った出来事とその間の感情、第二文で次に望む連絡を示します。悠にありうる表現を考えればよく、自分の経験を書く必要はありません。

小さなまとめ

出来事、受け取り、感情、願いを分けるのは、感情を弱めるためではありません。何が確かで、何を自分が補い、何を望んでいたのかが見えると、感じたことを残したまま次の言葉を選びやすくなります。

09　第九回　小さな稽古

「いつも」と言いたくなるとき

不満が積もると、言葉の範囲も大きくなることがあります。次の三つは、実際に確かめられたことと、その場で出た言葉です。

A　食器　「あなたは、いつも食器をそのままにする。」
直近四日では、火・木・金は流しに残り、水はその日のうちに洗われていた。
B　会議　「みんな、その案に反対だった。」
八人中、反対三人、保留二人、賛成二人。発言しなかった人が一人いた。
C　頼み事　「頼んでも、全然やってくれない。」
先月の三件は、二件が催促後に完了し、一件はまだ終わっていない。

一　範囲を広げる言葉

A〜C のうち、確かめられた範囲よりも大きく言っている語を、それぞれ一つ抜き出してください。

A：＿＿＿＿　B：＿＿＿＿　C：＿＿＿＿

二　不満を薄めずに範囲を直す

A について、直近四日の記録を正確に示し、「使った日のうちに洗ってほしい」という希望も伝える文を一つ選んでください。

ア　直近四日の多くで食器が残ったので、いつも片づけをしないと分かった
イ　直近四日のうち三日は食器が残っていた。使った日のうちに洗ってほしい
ウ　食器が残ることもあるようなので、できる範囲で片づけに気をつけてほしい
エ　食器が三日残ったので、片づけを大切にしない性格だと分かって困っている

答え：＿＿＿＿＿＿

三　人数や件数を残して言い換える

B か C を一つ選び、二文で言い換えてください。第一文には人数または完了状況を、第二文には不満・気がかりや今後の希望を残します。希望は場面に合うものを考えてよく、新しい期限を設ける場合は希望として書きます。

選んだもの：＿＿＿＿

四　対人場面の外でも範囲を確かめる

> 架空の野外観察会の記録
> 十回の開催予定のうち、八回は実施し、二回は雨で中止した。

この十回について、割合を正確に表す報告を一つ選んでください。

ア　毎回実施し、雨の日にも観察を続けた
イ　しばしば中止し、実施したのは二回だった
ウ　実施することはまれで、大半を中止した
エ　大半は実施したが、雨による中止もあった

答え：＿＿＿＿＿＿

五　言葉の強さを記録に合わせる

上の記録を「ときどき実施できたらしい」と書くと、どの情報が伝わりにくくなりますか。「十回のうち八回」を使って、一文で説明してください。

小さなまとめ

　「いつも」と言いたくなるほど、同じ不満が積もっていることがあります。範囲を確かめるのは、その切実さを消すためではありません。何が続き、どこで困り、これから何を望むのかを、相手と具体的に確かめられるようにするためです。

10　第十回　標準の回

同じ出来事、二つの話

地域センターで行われた小さな読み聞かせ会について、担当した佐伯さんと橋本さんが文章を残しました。二人は同じ会に参加しています。

文章A　佐伯さんの記録

午前十時の開始時、用意した写真がスクリーンに映らなかった。橋本さんはすぐに写真なしで絵本を読み始め、私は映写機を確かめた。八分ほどで画面が戻ると、橋本さんはいったん手を止め、写真を見せながら続きを読んだ。子どもたちの視線も画面へ戻り、笑い声が上がった。終了は予定より十分遅い十時五十分になったが、その場で切り替えながら、落ち着いて最後まで進められたと思う。

文章B　橋本さんの記録

午前十時になってもスクリーンに写真が出ず、子どもたちは画面を見たり後ろを振り返ったりしていた。佐伯さんが映写機を調べる間、私は予定を変えて絵本だけを読み始めた。八分ほどで写真が映ったので、読むのを止め、画面を見てもらってから再開した。会は十時五十分に終わった。対応はできたものの、流れが二度に分かれたので、次回は機器の確認と写真を入れる順序を見直したい。

一　まず二つの話を読む

読み終えて、どちらの記録のどの言葉に目が向きましたか。一つだけ残してください。「どちらとも言いにくい」でもかまいません。正答はありません。

二　共通して書かれていること

二つの文章に共通して書かれている内容を、すべて選んでください。

ア　写真が映ったあと、読み聞かせをいったん止めて再開した
イ　開始時にスクリーンへ写真が映らなかった
ウ　橋本さんは写真なしで絵本を読み始めた
エ　佐伯さんは映写機を確かめた
オ　八分ほどで写真が映った
カ　会の間はずっと子どもの笑い声が続いた
キ　不調の原因は事前の確認不足だった
ク　会は午前十時五十分に終わった

答え：＿＿＿＿＿＿

三　「書かれていない」と「なかった」

A だけにある「笑い声」について、二つの記録の関係を適切に読んだものを一つ選んでください。

ア　B が笑い声に触れない以上、二人が同じ場面を見たとは考えにくい
イ　A に笑い声がある以上、B もその場の楽しさを同じ程度に評価している
ウ　B が笑い声に触れないことだけでは、A の記録との矛盾にはならない
エ　B に笑い声がないことから、子どもの様子より機器の不調が事実だと分かる

答え：＿＿＿＿＿＿

四　経緯と評価を分けて比べる

経緯は物事が進んだ道筋、評価はそれをどう捉えたかという判断です。

（1）「八分ほどで写真が映った」と「落ち着いて最後まで進められたと思う」は、それぞれどちらを中心に表していますか。

前者：＿＿＿＿　後者：＿＿＿＿

（2）A から対応への手応えが表れた言葉、B から次回に見直したい点が表れた言葉を、それぞれ一箇所、そのまま抜き出してください。

A

B

五　要約案を点検する

写真が映らない間も二人は協力して読み聞かせ会を続け、十時五十分に終えた。二人とも、機器の不調はあったが進行に課題は残らなかったと評価している。

この案の問題点として、最も適切なものを一つ選んでください。

ア　共通する経緯をまとめながら、二人の評価を一つにして課題を消している
イ　終了時刻だけをまとめながら、その場で対応できたという A の評価を消している
ウ　異なる重点を残しながら、二人が写真なしで読み始めたことを加えている
エ　機器の原因をまとめながら、会の進行を肯定したという B の評価を消している

答え：＿＿＿＿＿＿

六　違いを残して第三者へ伝える

読んでいない人へ、開始時の不調、二人の役割、写真が映ったあとの進行、終了時刻と重点の違いを伝えます。百二十〜百六十字、三文か四文でまとめてください。

七　さらに確かめたいことを選ぶ

次回の準備のために、記録だけでは決まらないことを一つ、二人のどちらかへ尋ねる文を作ってください。その情報が役立つ理由も一文で添えます。

尋ねる文

その理由

小さなまとめ

　同じ出来事を語っても、どの情報を選び、どこに重みを置くかで話の輪郭は変わります。二つの話を比べるときは、まず共通する事実を確かめ、そのうえで選択と強調の違いを見ることができます。

11　第十一回　標準の回

説明の道筋をたどる

次の説明文を読み、文章の中で何が根拠として使われているかをたどります。専門知識は必要ありません。

星の明るさから見えない惑星を探す

〔1〕太陽のように自ら光を出す星を恒星という。遠くの恒星のそばでは、惑星の姿を恒星の光から区別して捉えるのが難しいことがある。そこで、惑星の姿を直接写す代わりに、恒星の明るさの変化を手がかりにする方法がある。

〔2〕地球から見て、惑星が恒星の手前を横切る軌道であれば、その間、恒星から届く光の一部が遮られる。明るさを時間とともに記録すると、わずかに暗くなる変化が表れる。これを使って惑星を探すのが、トランジット法である。

〔3〕減光がほぼ一定の間隔で繰り返されれば、同じ惑星が恒星の周りを回っているという仮説を考えられる。その間隔は、一周にかかる時間を調べる手がかりになる。また、暗くなる割合から恒星に対する惑星の大きさを見積もり、恒星の大きさも用いて惑星の実際の大きさを推定できる。

〔4〕ただし、恒星の表面の暗い部分が、自転によって見え隠れするなど、別の原因でも明るさは変わる。減光を観測しただけで原因を惑星と断定せず、別の望遠鏡や方法による測定も組み合わせ、ほかの説明を検討する。

〔5〕見えている明るさの変化と、その原因を惑星の通過で説明することの間には、確かめる過程がある。何を観測し、どこから推定したのかを区別することが、直接姿を捉えにくい天体を調べる支えになる。

減光：観測される光が弱くなること。自転：天体が自分自身の軸の周りを回ること。本文は一般的な探査方法の説明です。

一　何を手がかりにするのか

トランジット法の説明として、本文に最もよく合うものを一つ選んでください。

ア　惑星が自ら放つ光を集め、恒星を回る姿を直接写す方法
イ　惑星が恒星の光を遮る変化を測り、その存在を探す方法
ウ　恒星が暗くなる理由を決め、その明るさを元に戻す方法
エ　惑星と恒星の色を比べ、明るい方の星を特定する方法

答え：＿＿＿＿＿＿

二　段落の役割をたどる

第二〜第五段落の中心的な役割を、次のア〜エから一つずつ選んでください。同じ記号は一度だけ使います。

ア　方法の原理を、光が遮られる仕組みから説明する
イ　方法を支える考え方を、観測と推定の関係からまとめる
ウ　記録した変化から、さらに調べられることを述べる
エ　一つの原因に決める前に、検討すべきことを示す

第二段落：＿＿　第三段落：＿＿
第四段落：＿＿　第五段落：＿＿

三　観測と仮説と推定を区別する

この問では、観測は機器などで現象を調べて記録すること、仮説は現象を説明するための仮の考え、推定は得られた情報をもとに考えて値や状態を見積もることを指します。次の三つは、どれを中心に表していますか。

（1）望遠鏡で、恒星の周期的な減光を記録した。（　　）
（2）惑星が周回するために減光すると、仮に考えた。（　　）
（3）恒星の大きさと減光の割合から、惑星の大きさを見積もった。（　　）

四　繰り返すことが根拠になる理由

減光の間隔が、惑星が恒星の周りを一周する時間を調べる手がかりになるのはなぜですか。光を遮る動きとの関係を、三十〜五十字で説明してください。

五　推定に必要な条件を読む

惑星の実際の大きさを推定するために、暗くなる割合のほかに必要なものは何ですか。第三段落から六字で抜き出してください。

抜き出し：＿＿＿＿＿＿＿＿

それが必要な理由を、「割合」と「実際の大きさ」の違いに目を向けて、一文で説明してください。

六　留保が担う働き

ここでいう留保は、判断に条件や限界を残し、言い切る範囲を限定することです。第四段落の役割として、最も適切なものを一つ選んでください。

ア　減光には別の原因もあるため、惑星と判断するには検討が要ると示す
イ　減光は恒星だけの現象であるため、惑星を探す方法には使えないと示す
ウ　減光の周期が分かった時点で、ほかの原因を調べる必要はなくなると示す
エ　減光には原因が多くあるため、観測によって確かめることはできないと示す

答え：＿＿＿＿＿＿

七　文章の要点を一文にする

この文章の要点を、五十〜八十字の一文にしてください。何を手がかりに惑星を探すかと、判断の際に注意することを残します。

八　短い速報を直す

> 架空の観測速報案
> 恒星が周期的に暗くなったため、惑星の存在が確定した。

この案を本文に沿って直す考え方として、最も適切なものを一つ選んでください。

ア　周期的な減光から、惑星の存在に加えてその表面の様子も分かるとする
イ　周期的な減光があっても、惑星の存在を考える根拠にはならないとする
ウ　周期的な減光を惑星の手がかりとし、別の原因の検討も必要だとする
エ　周期的な減光を観測したので、暗い部分のある恒星ではないとする

答え：＿＿＿＿＿＿

続いて、観測したことと未確定の判断を分けた速報へ、五十〜七十字の一文で書き直してください。

12　第十二回　小さな稽古

「冷たい」は気持ちだろうか

次の三つは、人の言動を受けて出た短い言葉です。

A　相談のメッセージに「今週は返事が難しいです」とだけ返ってきた。
　——「冷たい。」
B　地域の催しの担当者が、資料を渡して二日前に参加を取りやめた。
　——「無責任だ。」
C　同居人が、相談せずに共有棚の置き場所を変えた。
　——「勝手だ。」

一　感情と相手への評価を分ける

次の言い方を、「話し手の感情・状態」と「相手や行動への評価」に分けてください。この場面での働きに目を向けます。

私は寂しい。（　　）

その返事は冷たい。（　　）

私は困った。（　　）

担当者は無責任だ。（　　）

私は腹が立った。（　　）

相談しないのは勝手だ。（　　）

二　評価の背後にありうるもの

A の話し手にありうる〈感情〉または〈願い〉を、すべて選んでください。実際にそう感じたと確定する問いではありません。

ア　すぐには話を聞いてもらえず、寂しかった

イ　関係が悪くなったのかと、不安になった

ウ　次に話せそうな時期を知らせてほしかった

エ　短く返す相手には、悪意があると決めた

答え：＿＿＿＿＿＿

三　同じ返事を別の語で見る

同じ短い返事を「冷たい返事」とも「簡潔な返事」とも表せます。前者と後者は、それぞれ何に目を向けていますか。「簡潔な返事だが、冷たく感じた」とも言えることを踏まえ、一文か二文で説明してください。

四　評価を消さずに少し詳しくする

A の話し手が「冷たいと感じた」ことを残しつつ、感情と願いを加えた一〜二文を書いてください。複数の答えが成立します。

五　別の評価語をほどく

B か C を一つ選び、実際に起きたこと・話し手にありうる感情・望んでいたことを含む二文か三文に言い換えてください。相手の事情や意図は決めません。

選んだもの：_____

小さなまとめ

「冷たい」「無責任」「勝手」は、感情そのものより、相手や行動への評価です。評価を無理に消さず、「そう感じた」を残したまま、その奥にある感情や願いを言葉にすると、伝えたいことが具体的になります。

13　第十三回　立ち止まる回

短い返事が気になった

職場で、林さんは来週の説明会の案内を作っています。修正版を共有したあと、担当の木戸さんへメッセージを送りました。

午後三時三十二分　林　「来週の説明会の案内、修正版を共有しました。見出しと申込方法を直しています。今日中に一度、確認いただけそうでしょうか。」
午後三時四十一分　木戸　「見ました。明日話しましょう。」

問一〜問七は、この日の二つのメッセージだけを手がかりに考えます。後に出てくる説明を、先に分かっていた情報にはしません。

一　第一印象を残す

木戸さんの返事を見て、最初に浮かびやすい受け取りを一つ選んでください。ここには正答はありません。

ア　案内に問題があるのかもしれない
イ　木戸さんは急いでいるだけかもしれない
ウ　少し冷たい、または怒っているように感じる
エ　特に気にならない
オ　ほかの受け取りが浮かんだ

選んだもの：＿＿＿＿

印象につながった言葉や、書かれていなかったこと

二　記録と推測を分ける

二つのメッセージで確かめられる内容には「記録」、そこに書かれておらず、林さんが補って考えたことには「推測」と書いてください。

木戸さんの返事は、林さんの送信から九分後だった。（　　）

木戸さんは「見ました」と書いた。（　　）

木戸さんは、翌日に話すことを提案した。（　　）

案内には重大な問題がある。（　　）

木戸さんは林さんに怒っている。（　　）

返事には、具体的な修正箇所の説明がない。（　　）

三　推測を加えず二文で記録する

林さんが何をいつ頼み、木戸さんがどう返したかを第一文に、まだ返事からは分からない仕事上の情報を第二文に書いてください。相手の感情は断定しません。

四　ほかの説明と確かめる情報

次の三つは、短い返事だけでは否定できない説明の例です。実際にどれだったかは、まだ決まっていません。

A　会議の直前で、詳しく書く時間がなかった。
B　案内に修正点があり、口頭で説明しようとした。
C　普段から短く返すことが多く、今回も同じ書き方だった。

（1）「午後三時台の予定」「案内と申込フォームの内容」「普段の返事の長さ」は、それぞれどの説明を考える手がかりになりますか。A〜C で答えてください。

予定：____　案内とフォーム：____　普段の長さ：____

（2）「予定が空いていた」と分かった場合、木戸さんが怒っていると決められますか。理由を一文で書いてください。

五　不安と相手の感情は同じか

林さんが返事を読んで不安になった場合の考え方として、最も適切なものを一つ選んでください。

ア　不安が強いほど、木戸さんの怒りを裏付ける根拠も強いと考えられる
イ　怒りの根拠がないなら、林さんが感じた不安も残さず取り消す必要がある
ウ　案内の問題が不明なので、不安につながった言葉を確かめることはできない
エ　林さんが不安を抱いたことと、木戸さんが怒っていたかどうかは分けられる

答え：_____

六　尋ね方は目的で変わる

林さんが返す言葉を比べます。

ア　何か怒っているので、明日話すことにしたのでしょうか。

イ　案内に問題があるため、明日話すということでしょうか。

ウ　承知しました。今日中に直す箇所があれば、そこだけ教えてください。

エ　承知しました。明日は何時ごろお話しできそうでしょうか。

（1）今日中に直す箇所があるかを確かめたいとき、最も合うものを一つ選んでください。

答え：＿＿＿＿

（2）急ぎの修正はないと別に確認でき、明日の時間だけを決めたいとき、最も合うものを一つ選んでください。

答え：＿＿＿＿

（3）アは、まだ確かめていない何を問いの前提にしていますか。一文で説明してください。

七　短い返答を作る

林さんとして、返事を受け取ったことと、今日中に必要な修正があるかだけを尋ねる一文か二文を書いてください。例と違う言葉でもかまいません。

八　翌日の説明で分かったこと

翌朝、木戸さんはこう説明しました。

> 木戸　「昨日は会議の直前で、詳しく書けませんでした。申込締切が、案内本文とフォームで違っていたので、そこは今日直しましょう。ほかは大きな問題ありません。」

（1）翌朝の説明を、実際に示された範囲でまとめているものを一つ選んでください。

ア　会議直前で返事を短くし、案内全体の大きな問題を直すため翌日に話すことにした

イ　会議直前で詳しく書けず、締切の不一致があり、ほかに大きな問題はないと説明した

ウ　会議直前でも詳しく確認し、締切以外の問題もすべて修正済みだったと説明した

エ　会議直前で返事を短くし、林さんへの怒りを抑えて翌日に話すことにしたと説明した

答え：＿＿＿＿＿＿

（2）締切を実際に直すため、なお確かめる必要がある情報を一つ書いてください。

九　最初の受け取りを振り返る

翌朝の説明を読んで、問一での受け取り方を振り返ります。変わった点、残った点、まだ決められない点から一つ選び、一文か二文で書いてください。変わらなかったと書いてもかまいません。

十　距離を選んで整理する

次の A〜C から一つ選んでください。個人的な経験を説明する必要はありません。

A　林さんのためのメモを書く

翌朝の説明を踏まえ、〈確認できたこと〉〈まだ分からないこと〉〈次にすること〉を一つずつ短く書く。

B　別の短い返事を考える

架空の人物が、展示に使う写真の許可を尋ね、「確認しました。扱いは後日相談しましょう」と返された。今日中に利用の可否を決めたい。この人物のために、同じ三点のメモを書く。

C　今日は言葉だけを残す

「印象を残す」「記録へ戻る」「別の説明を考える」「必要なことを尋ねる」から、覚えておきたいものに丸を付ける。文章は書かなくてよい。

選んだもの：＿＿＿＿

A・B のメモ

小さなまとめ

　短い返事に不安になったり冷たく感じたりしても、未熟さの証明ではありません。第一印象を残し、書かれたことへ戻り、相手の怒りや失望を決めず、必要なら確かめる。そうするうちに、最初の受け取り方を見直す余地が生まれます。

14　第十四回　標準の回

違和感を急いで消さない

裕子は、読書会の友人・真帆に随筆集を貸していました。次の日曜日の読書会で、別の人にも貸す予定があります。

五月八日　裕子　「貸している随筆集、次の日曜の読書会に持ってきてもらえる？　そのあと伊藤さんに貸したいんだ。」
五月八日　真帆　「了解。鞄に入れておくね。」
次の日曜日　真帆　「あ、持ってこなかった。いつでもいいって言っていたと思ってた。ごめん。」

裕子は以前のメッセージを見返し、説明がうまくかみ合わないような違和感を覚えました。

一　まず受け取る

この場面を読んだ第一印象に、近いものを一つ選んでください。正答はありません。

ア　真帆は単に忘れたのだと思う
イ　前のメッセージと説明がずれていると思う
ウ　裕子が気にするほどのことではないと思う
エ　理由は不明だが確かめたい点はあると思う
オ　ほかのことを感じた

選んだもの：＿＿＿＿

二　二つの言葉を並べる

返す時期について食い違っている二つの言葉を、前のメッセージと当日の説明から、必要な箇所をそのまま抜き出してください。

前のメッセージ

当日の説明

三　確かめられることと未確定なこと

この場面に示された記録によって確かめられる内容には「確か」、理由や気持ちまでは確かめられない内容には「未確定」と書いてください。

裕子は次の日曜日に本を持ってきてほしいと書いた。（　　）

真帆は「了解。鞄に入れておくね」と返した。（　　）

真帆は当日に本を持ってこなかった。（　　）

真帆は返す約束を完全に忘れていた。（　　）

真帆は「いつでもいいって言っていたと思ってた」と説明した。（　　）

真帆はその場を取り繕うために嘘をついた。（　　）

四　いま言えるところまで書く

前の記録、当日の出来事、食い違った理由が未確定であることを、八十〜百十字の三文でまとめてください。

五　違和感が示しているもの

この場面での違和感の扱いとして、最も適切なものを一つ選んでください。

ア　説明の合わない箇所を、次に何を確かめるか考える手がかりにできる

イ　説明の合わない箇所があるため、真帆の悪意は記録で裏付けられている

ウ　説明の理由がまだ決まらないため、裕子の違和感にも根拠はないと分かる

エ　説明の食い違いが起きたため、本の貸し借りをやめるのが唯一の解決になる

答え：＿＿＿＿＿＿

六　記憶を確かめる問いと行動を決める問い

（1）前のメッセージを示し、真帆がどう覚えていたかを尋ねる一文を書いてください。嘘をついたという前提にはしません。

（2）伊藤さんへの貸し出しを調整するため、いつ本を返せるか具体的に尋ねる一文を書いてください。

七　別の記録でも照合する

架空の地域展示会の案内
準備メモ：「開場は午後一時」
配布チラシ：「開場は午後一時三十分」
担当者の返事：「開場時刻は変更していません」

（1）照合とは、記録などを照らし合わせて確かめることです。三つを照合した時点で確かなことと、まだ決まらないことを、一つずつ書いてください。

確かなこと

まだ決まらないこと

（2）来場者への案内を整えるため、担当者に尋ねる一文を作ってください。

八　見方を増やすことと感覚を消すこと

第二部の結びとして、ここまでの学びに最もよく合うものを一つ選んでください。

ア　別の可能性を考えたなら、最初の違和感は読み違いとして消していく
イ　違和感が残っているなら、相手の説明の不正確さも事実として扱う
ウ　理由がすべて確定するまでは、返却日や今後の貸し方も決めずに待つ
エ　違和感を残しながら、確かなことと未確定を分け、次の確認を選ぶ

答え：＿＿＿＿＿＿

小さなまとめ

違和感は、相手の悪意を証明するものでも、急いで消すべき思い込みでもありません。言葉と出来事のどこが合わなかったのかを見れば、次に確かめたいことが見えてきます。見方を増やすことは、自分の感覚を手放すことではありません。

□□■□ 第三部　言葉を交わす

同じ内容でも、相手が何を求めているか、何から伝えるかによって、言葉の届き方は変わります。第三部では、相談を聞く、仕事を頼む、読んだことを説明する、誘いを断る、異なる意見を伝えるといった場面で、言い方を考えます。

15　第十五回　小さな稽古

聞いてほしい？ 意見がほしい？

莉奈は、家で兄の颯太に、仕事であったことを話しました。

莉奈「今日の説明会で質問にうまく答えられなくて。準備したのに、まだ引っかかってる。」

一　返答の中心を見分ける

四つの返答の中心を、聴く・共感・助言・一緒に取り組むから選んでください。ここでは、話を続けてもらう働きを「聴く」、感情や感覚に近づく働きを「共感」、方法や考えを示す働きを「助言」と呼びます。実際には働きが重なることもあります。

(1)「それは悔しさが残るね。」（　　）

(2)「どの質問が、いちばん引っかかっている？」（　　）

(3)「次は想定質問を先に書き出すといいと思う。」（　　）

(4)「よければ、想定質問を一緒に作ろうか。」（　　）

二　いま求めているもの

莉奈の最初の言葉から、求める返答について言えることを一つ選んでください。

ア　準備の方法について、今すぐ助言してほしいと述べている

イ　質問への答え方を、一緒に作りたいと明らかにしている

ウ　今後は助言を受けず、話だけ聞いてほしいと決めている

エ　話はしているが、どの返答を求めるかまでは述べていない

答え：＿＿＿＿＿＿

三　決めつけずに返す

莉奈の話を受け取り、返答の方向を本人に確かめているものを一つ選んでください。

ア　引っかかっているんだね。もう少し話す？　それとも、意見も聞きたい？

イ　準備して臨んだんだね。次は質問集を作ると、きっとうまく答えられるよ。

ウ　質問が難しかったんだね。今回はもう考えず、次へ進むことにしたらいい。

エ　うまく答えたかったんだね。今日は話を続けず、早く休む方がよいと思う。

答え：＿＿＿＿＿＿

朋恵　「引越しの見積りが二社でずいぶん違うんだ。どこを見ればいいか迷ってる。」
美緒　「今日は、話を聞く方がいい？　それとも一緒に比べようか。」
朋恵　「一緒に見てほしい。追加料金の条件がよく分からなくて。」

四　希望が分かったあと

この会話のあと、美緒が朋恵の希望に直接応える行動を一つ選んでください。

ア　迷った経緯を聞き、落ち着くまでは見積書の比較を後回しにする

イ　二社の条件を並べ、追加料金が生じる場合を一緒に確かめる

ウ　安い方を先に勧め、追加料金については契約した後で確かめる

エ　どちらも長所があると伝え、条件の比較をせず本人の判断を待つ

答え：＿＿＿＿＿＿

五　相談する側から希望を伝える

次の架空の人物から一人選び、相談の始めの一言か二言を書いてください。どちらも、望む返答が相手に分かることを目指します。自分の経験を書く必要はありません。

ア　仕事を続けるか迷っている。今日は決めず、家族に話しながら整理したい。

イ　写真講座を二つ見つけた。友人と日程・費用・内容を比べて選びたい。

選んだもの：＿＿＿＿

小さなまとめ

　相談への返答は、聴く・共感する・助言する・一緒に動く、のどれか一つだけとは限りません。相手の希望を確かめ、途中で返答の仕方を変えることもできます。

16　第十六回　標準の回

頼むとき、何を伝えるか

職場で、同僚に資料の確認を頼みます。元の文と手元の情報を読みます。

「すみません。この資料、なるべく早めに見てもらえますか。」

送り手の手元には、次の情報があります。

・案内文は三ページである
・日付と申込先に誤りがないかを確認してほしい
・木曜日の午後三時までに確認したい
・金曜日の会議で使う
・難しい場合は、確認できる範囲や時刻を相談してよい
・案内文は、送り手自身が一度読み返している

一　相手が判断するための情報

元の一文だけでは不足する、相手が行う作業の内容・分量・時期と目的・返答の仕方を直接示す項目を、すべて選んでください。

ア　確認する箇所
イ　希望する期限
ウ　資料の分量
エ　その期限にする理由
オ　自分が読み返した回数
カ　難しい場合の返し方

答え：＿＿＿＿＿＿

二　丁寧さと明確さを比べる

内容と負担を示し、難しい場合に相談する余地も残した依頼を一つ選んでください。

ア　金曜の会議で使う三ページの案内文です。内容全体を、お手すきの時間に確認していただけると助かります。

イ　金曜の会議で使う三ページの案内文です。日付と申込先を木曜午後三時までに必ず確認していただきたいです。

ウ　金曜会議用の案内文三ページです。日付と申込先を木曜午後三時までに確認できますか。難しければご相談ください。

エ　金曜会議用の三ページの案内文です。どこを見るか判断し、木曜午後三時までに確認結果を返してください。

答え：＿＿＿＿＿＿

地域の催しの準備で、関さんに会場設営を頼みます。依頼する側は、次の情報を持っています。

ア　日曜日の午前九時から九時半までに行う
イ　倉庫の折り畳み椅子二十脚を、集会室へ運ぶ
ウ　午前十時から企画会議が始まる
エ　もう一人が加わり、作業は二十分ほどの見込みである
オ　難しい場合は、金曜日までに知らせてもらう
カ　昨年の催しのポスターは青色だった
キ　椅子を購入したのは八年前である

三　必要な情報を残す

関さんが引き受けられるか判断し、当日動くために必要な情報を五つ選んでください。

答え：＿＿・＿＿・＿＿・＿＿・＿＿

四　地域での依頼を書く

問三で選んだ情報を使い、関さんへの依頼を三文か四文で書いてください。作業できる時間帯、内容、人数と所要時間の見込み、目的、難しい場合の連絡が分かるようにします。

同居する圭と亜希は、家事をできる方が補い合っています。圭は翌朝六時半に家を出るため、次のように書きました。亜希の翌朝の予定は、まだ聞いていません。

> 圭「明日の資源ごみ、お願いできると助かる。ちょっと予定があって。」

五　遠回しな依頼を具体的にする

（1）亜希が引き受けられるか判断するために、元の文からは分からないことを二つ挙げてください。

（2）圭には「玄関横の紙袋二つを、明朝八時までに集積所へ出してほしい」という希望があります。亜希が断ったり相談したりできる依頼を、一文か二文で書いてください。

六　共有していることは省ける

もし前夜に「明日は亜希が資源ごみを出す」と決め、紙袋の場所と集積所を一緒に確かめていたなら、翌朝の短い確認として最も場面に合うものを一つ選んでください。

ア　昨日決めた紙袋二つ、八時までにお願いね。難しくなったら教えて。
イ　昨日決めた資源ごみの場所や出し方を、もう一度最初から説明するね。
ウ　昨日決めた資源ごみだから、予定が変わっても連絡しなくて大丈夫。
エ　昨日引き受けた紙袋二つは、事情が変わってもほかの方法にはできない。

答え：＿＿＿＿＿＿

七　相手が知っていることに合わせて書く

文化センターの広報担当が、森さんに会報の確認を頼みます。

・四月号の二ページ分を確認してほしい
・開催日と申込先の電話番号を見てほしい
・月曜日の正午までに返してほしい
・火曜日に印刷所へ渡す
・難しい場合は、確認できる範囲と返せる時刻を知らせてほしい

（1）初めて一緒に仕事をします。対象・確認箇所・期限と理由・難しい場合の返し方を三文か四文で伝えてください。

（2）対象・確認箇所・印刷日を共有済みだとしたら、期限と難しい場合の返し方を一文か二文でどう伝えますか。

小さなまとめ

　依頼を明確にすることは、命令を強くすることではありません。相手が内容と負担を見積もり、引き受けるか、相談するか、断るかを判断できるよう、必要な情報を伝えることです。

17　第十七回　標準の回

読んだことを、自分の言葉で伝える

版木を残すということ

〔一〕本を印刷する技術は、新しい方法が現れるたびに、古い方法をすぐ押しのけたのだろうか。江戸時代の日本では、活字を使う印刷が行われたあとも、商業出版の中心は木版印刷だった。二つの仕組みを比べると、その理由の一つが見えてくる。

〔二〕木版印刷では、文字や絵をまとめて木の板に彫り、墨をつけて紙に刷る。この板を版木という。一度版木を作れば、同じ内容を何枚も刷れる。版木を保存しておけば、あとから同じ本を追加で刷る「増刷」にも使える。文字の形や絵の配置も、板に残っているからだ。

〔三〕一方、活字による印刷は、木や金属などで作った文字を並べ、印刷する面を組み立てる。この作業を組版という。活字は組み直して別の本にも使える。ただし、刷り終えたあとに活字をばらせば、そのページの配列は失われる。同じ本を増刷する際には、再び文字を選び、並べる仕事が必要になる。

〔四〕同じ本を繰り返し売る出版では、必要なときに増刷できることが大切だった。版木を保存することは、木の板を取っておくと同時に、もう一度刷るための形を残すことでもあった。別の本へ組み替えられる便利さと、同じ本を再び作る便利さは、同じではない。

〔五〕もちろん、当時の印刷法の選択を、この理由だけで説明し尽くせるわけではない。それでも、新旧という順序だけでは見えなかった利点が、何を繰り返し作るのかに目を向けると分かる。印刷の歴史には、技術の仕組みと、本を届ける営みとの結びつきが刻まれている。

一　何を中心に述べる文章か

本文の中心を最もよく表すものを一つ選んでください。

ア　活字は組み直せるため、江戸の出版では木版より広く選ばれた

イ　印刷法の利点は、新旧の順序だけでなく本を作る目的とも関わる

ウ　木版は文字や絵を残せるため、活字より常に優れた方法である

エ　出版では同じ本を作るため、印刷法の仕組みの違いは重要でない

答え：＿＿＿＿＿＿

二　二つの仕組みを短いメモにする

（1）「組版」は何をする作業ですか。第三段落の内容に沿って一文で説明してください。

（2）別の本に使うときの活字の利点と、同じ本を増刷するときの版木の利点を、それぞれ短く書いてください。

活字／版木

三　要約に欠かせない情報を選ぶ

本文全体を紹介する要約に、特に残すべき情報を三つ選んでください。用語を一つずつ説明することが目的ではありません。

ア　江戸では活字の使用後も、木版が商業出版の中心だった

イ　版木に使う木の種類や、板を彫った職人の名前

ウ　版木を保存すると、同じ本を増刷するのに使えた

エ　活字の仕組みを知ると、木版は不要になると分かった

オ　印刷法の利点は、何を繰り返し作るかと結びついていた

カ　当時の印刷法の選択は、一つの理由ですべて説明できた

答え：＿＿＿＿＿＿

四　二文にまとめる

本文を百〜百四十字の二文で要約してください。第一文に江戸の出版での木版の位置と増刷の利点、第二文に活字との違いから分かることを入れます。理由を一つだけに断定しないようにします。

五　一文にまとめ直す

問四を読み返し、本文全体の要点を六十〜八十字の一文にまとめ直してください。木版が使われ続けたこと、その利点、技術を見る観点を残します。

六　短くしたときの変化を点検する

> 要約案「江戸時代は、版木を保存すれば増刷できたため、すべての出版社が活字をやめ、木版だけを使うようになった。」

本文と比べて、この要約案で強められた内容を一つ選んでください。

ア　版木を保存すれば、同じ本を増刷するために使えるという点
イ　江戸の商業出版で、木版が中心となっていたという位置づけ
ウ　活字をばらしたあとには、同じ配列を組み直す仕事がある点
エ　一つの理由で、すべての出版社が活字をやめたとする範囲と因果

答え：＿＿＿＿＿＿

本文がこの強め方を認めていないと分かる箇所を、段落番号と内容で短く示してください。

七　初めて知る人へ説明する

印刷に詳しくない人から「活字は並べ替えられて便利なのに、なぜ木版も使われたの？」と尋ねられました。二つの仕組みを必要な範囲で補い、七十〜百字の二文か三文で説明してください。

八　読み手の疑問に合わせる

展示の準備をする人が「版木は、印刷を終えたあとも、なぜ残しておいたの？」と尋ねました。版木を残す目的が先に分かるように、七十〜百字の二文か三文で説明してください。木材を傷めず保管する方法は、本文に書かれていません。

声に出して説明し、分かりにくかった部分を書き直す取り組みは任意です。筆記だけで、この回を終えられます。

小さなまとめ

　短くまとめるときも、本文にない理由や条件を加えたり、断定を強めたりしないことが大切です。説明し直すときは、読み手が何を知りたいのかを手がかりに、補う言葉と順序を選べます。

18　第十八回　標準の回

断るとき、どこまで話すか

友人から、土曜日の昼食に誘われました。誘われた人には、すでに外せない予定があります。四つの返答を比べます。

A　「誘ってくれてありがとう。土曜日は予定があるので、今回は行けません。」
B　「土曜日は、ちょっと難しいかもしれない。また分かったら連絡するね。」
C　「土曜は家族の通院に付き添って、そのあと薬局と買い物へ行き、帰宅時間も読めないので行けません。」
D　「土曜日は行けません。来週の水曜なら空いているけれど、どうかな。」

一　四つの返答を比べる

次に当てはまるものを A〜D で答えてください。同じ記号を二度使ってもかまいません。

（1）行けないと決まっているのに、結論を保留しているように見えるもの。

（2）予定の具体的な中身を最も詳しく説明しているもの。

（3）会いたい気持ちがあり、水曜が確実に空いていれば、代案として働くもの。

答え：（1）＿＿　（2）＿＿　（3）＿＿

二　短い断りも成立する

この場面での A について、最も適切な説明を一つ選んでください。

ア　事情の内訳を示さないため、参加できない結論は相手に伝わらない
イ　別の日を提案しないため、今後も会うつもりがないことまで確定する
ウ　結論と必要な範囲の理由があり、詳しい私事を加えなくても成立する
エ　感謝は示しているため、参加できない理由を後からすべて説明すべきだ

答え：＿＿＿＿＿＿

同僚から翌週の勤務の交代を頼まれました。頼まれた人には外せない私用があり、交代はできません。予定の中身は職場で話したくないと考えています。ここでは同僚への返答を考えます。

三　言わない部分を残して伝える

（1）相手の勤務調整に必要な結論と、本人が説明するか選べる私的な内容を、一つずつ書いてください。

必要な結論／説明するか選べる内容

（2）結論を明確にし、私的な内容を詳しく書かない返答を、二文か三文で作ってください。

地域の催しで、土曜日の受付を頼まれました。引き受けられない人が、次の文を書きました。

> 「せっかく声をかけてくださったのに、本当に申し訳なく、私も何とかしたいとは思ったのですが、土曜の朝は親戚を駅まで迎えに行き、そのあと家の用事もいくつかあり、何時に戻れるか分からないので、今回は受付を引き受けられません。ご迷惑をおかけして本当にすみません。代わりの方が見つかることを心から願っています。」

四　削っても中心を残す

この返答を、今回引き受けられない結論と、予定があるという理由を残して、二文か三文に書き換えてください。過剰な謝罪や用事の内訳は省けます。代わりの人を必ず探す約束は加えません。

五　代案を示せる条件

本人が実行できることに基づく代案を、二つ選んでください。

ア　会議には出られないが、金曜までに意見を文書で送れる

イ　今回は会いたくないが、誠実に見せるため別の日を約束する

ウ　ポスター全体は作れないが、一ページ分の誤字なら確認できる

エ　紹介できる人を知らないが、代わりの誰かを必ず紹介すると書く

答え：＿＿＿＿＿＿

六　結論が伝わらない返答

本人は既に断ると決めています。相手が返事を待ち続ける可能性を残すものを、A〜C から一つ選び、その言葉を示してください。

A　友人へ　「今回は行けません。誘ってくれてありがとう。」

B　同僚へ　「本日中の確認作業は引き受けられません。」

C　地域の担当者へ　「前向きに検討します。もう少し待ってください。」

答え：＿＿

待たせる言葉

七　関係の異なる場面で書く

次のア〜ウから一つ選び、二〜三文の断りを書いてください。個人的な実例を書く必要はありません。複数の答えが成立します。

ア　友人からの日帰り旅行の誘い。今回は行けないが、別の日はまだ分からない。

イ　同僚から今日中の資料作成を頼まれた。今日は引き受けられない。

ウ　地域の係を半年間頼まれた。継続的な担当は引き受けられない。

選んだもの：＿＿＿＿

小さなまとめ

　断りは、関係を壊すための言葉ではなく、自分が引き受けられる範囲を示す言葉です。結論を明確にしても、理由のすべてを差し出す必要はありません。

19　第十九回　小さな稽古

「分かる」と「賛成」は同じ？

結衣と直人は、週末の外出について話しています。

結衣　「行き先は、その日の気分で決める方が楽しいと思う。」
直人　「僕は前日までに決めたい。土曜は混むし、待ち時間が読めないと落ち着かないんだ。」
結衣　「混むのが心配なのは分かる。でも、全部決めると窮屈に感じる。」

この回では、似ている言葉を、次のように分けて考えます。実際の会話では重なることもあります。

理解　相手の話の内容や理由をつかむ
共感　相手の感情や感覚に近づく
同意　相手の認識や考えを、自分もそうだと認める
賛成　相手の提案や立場を支持する

一　四つを区別する

各文の中心を、理解・共感・同意・賛成から選んでください。ここでは同じ言葉を一度ずつ使います。

（1）「混むと待ち時間が増える、という理由は分かる。」
（2）「予定が決まらないと落ち着かない感じは、想像できる。」
（3）「土曜日は混みやすい、という点は私もそう思う。」
（4）「では、行き先は前日までに決めよう。」

答え：（1）＿＿＿＿　（2）＿＿＿＿　（3）＿＿＿＿　（4）＿＿＿＿

二　一語だけでは決まらない

このあと直人が「分かるよ」とだけ返したとします。その一語から言えることを一つ選んでください。

ア　結衣が予定を決めると窮屈に感じる理由を、直人は十分に理解した
イ　結衣が窮屈に感じる感覚に、直人も同じように共感したと分かる
ウ　直人は自分の希望を変え、行き先を当日に決める案へ賛成した
エ　どの内容を受け取ったのか、提案に賛成したのかまでは確定できない

答え：＿＿＿＿＿＿

三　理解した点と異なる意見を伝える

結衣が「候補を二つに絞り、当日の気分で一つを選びたい」と考えた場合、その立場と直人の理由への理解をともに示す返答を一つ選んでください。

ア　混雑が心配な理由は分かる。だから私の希望はいったん脇に置いて、行き先を決めよう。

イ　混雑が心配な理由は分かる。私は候補を二つにして、当日の気分で選びたい。

ウ　混雑が心配な理由は分かる。でも、予定を決めたがるのは楽しみ方を知らないからだ。

エ　混雑が心配な理由は分かる。二人とも結局は、行き先を当日に決めたいんだね。

答え：＿＿＿＿＿＿

四　別の場面でも理解と異論を伝える

職場の休憩室について、甲は「照明を明るくしたい。資料を読む人がいるから」と言い、乙は「今の落ち着いた明るさを残したい」と考えています。乙の立場から、甲の理由への理解と、自分の異なる立場を二〜三文で書いてください。複数の答えが成立します。

五　尊重は賛成と同じか

この回の考え方に合うものを一つ選んでください。

ア　相手の理由を理解したなら、提案にも賛成する形で返答をそろえる

イ　自分の異論を明確にするなら、相手の理由を確かめる必要はなくなる

ウ　相手の理由を理解しながら、提案には賛成せず異なる立場を示せる

エ　相手への共感を示したなら、二人の希望の違いは言葉にせず残す

答え：＿＿＿＿＿＿

小さなまとめ

「分かる」は、理解・共感・同意・賛成のどこを指すかで意味が変わります。相手の理由を受け取ることと、自分の立場を手放すことは別です。

20　第二十回　立ち止まる回

正しいことを、いつ言うか

香奈は、地域センターで六十分の初心者向けスマートフォン教室を担当しました。参加者は十二人でした。事前の予定と当日の記録は、次のとおりです。

予定　導入五分／説明二十五分／個別練習二十五分／質問五分
当日　映写機の接続に八分かかった。説明の途中にも質問が出た。
終了　予定より十八分遅れた。二人が終了前に退室した。

翌日、香奈は、似た教室を担当したことのある明に話しました。

香奈「昨日の教室、時間をかなり延ばしてしまった。途中で帰った人もいたし、せっかく準備したのに、うまく進められなかった感じが残ってる。来週までに報告と次回案を出さなきゃいけないけど、今日はまず、少し聞いてもらってもいい？」

一　最初に受け取ったもの

香奈の言葉を読んで、最初に気になった箇所を一つ書いてください。正答はありません。

二　記録から確かめられること

記録から確かめられるものを、すべて選んでください。

ア　事前の予定は、六十分をすべて使う組み方だった
イ　映写機を接続する作業には、八分かかった
ウ　途中で退室した二人は、進行の遅れに不満だった
エ　説明の途中にも、参加者から質問が出た
オ　質問が出たため、参加者全員が説明を理解できなかった
カ　教室の終了は、予定より十八分遅れた

答え：＿＿＿＿＿＿

三　希望が分かるところと分からないところ

（1）香奈が会話の初めに求めていることを示す言葉を、香奈の発言からそのまま抜き出してください。

（2）香奈が今後の助言や次回案の検討について、まだ述べていないことを一つ書いてください。

四　指摘と提案と評価を分ける

次の中心を、記録に沿う指摘・改善の提案・根拠のない評価から選んでください。ここでは、いつ言うかとは分けて、内容を点検します。

（1）予定の合計が六十分で、遅れを吸収する余白がない。（　　）

（2）当日は映写機の接続に八分かかっている。（　　）

（3）質問した参加者が、この教室を失敗させた。（　　）

（4）香奈は人前で教える仕事に向いていない。（　　）

（5）次回は説明を減らすか、質問を受ける時間を見直す方法がある。（　　）

五　四つの返答を二つの面から読む

香奈の最初の言葉に対する、明の返答です。

A　「準備した分、うまくいかなかった感じが残るよね。まず昨日のことを聞かせて。」
B　「予定を詰めたことだけが原因だと思う。次は説明を減らし、質問時間を増やそう。」
C　「今日は落ち込まなくていいよ。参加者もきっと気にしていないから。」
D　「昨日の流れを聞かせて。次回案を考える時期も、あとで一緒に決めよう。」

（1）まず話を聞く方向で返しているものを二つ、参加者の気持ちを確かめずに決めているものを一つ選んでください。

まず聞く：＿＿・＿＿　　気持ちを決める：＿＿

（2）B には、記録に沿う着眼点と、言い切りすぎたところがあります。それぞれ何ですか。一文か二文で説明してください。

六　正しさと時機を分ける

明の返答を考えるとき、最も適切なものを一つ選んでください。

ア　内容に根拠があれば、香奈の希望を確かめる前に、必ず最初に指摘する
イ　内容の妥当性と、いまその順序で伝えるかどうかは、別々に点検できる
ウ　今は聞くと選んだなら、後で求められた場合にも、改善点を伝えない
エ　相手が受け取れる順序にすれば、その指摘の内容まで正しいと判断できる

答え：＿＿＿＿＿＿

七　最初の返答を作る

香奈の話を受け取り、今話したいことを確かめ、次回案を検討する時期もあとで相談できる返答を三文か四文で書いてください。決まった定型句を使う必要はありません。

翌日、香奈は明に、もう一度話しかけました。

> 香奈「昨日は聞いてもらえて助かった。今日は次回案を見てほしい。時間内に収めるには、何を変えたらいいと思う？」

八　時機が変わったことを読む

前日と比べ、本文に示された変化を一つ選んでください。

ア　今日は次回案を一緒に見て、変える点への意見を求めている
イ　今日は参加者全員の感想を知り、教室が成功したと確定した
ウ　昨日は原因が不明だったが、今日は一つの原因が確定している
エ　昨日は必要だった次回案を、今日は出さなくてよくなっている

答え：＿＿＿＿＿＿

九　いま求められた助言を選ぶ

記録に沿い、香奈が方法を選んだり相談したりできる返答を一つ選んでください。

ア　説明を半分に減らせば必ず六十分に収まるので、ほかの方法は考えず、削る箇所から決めよう。

イ　退室した人は不満だったはずなので、その人たちへの謝罪を終えてから、次回案を一緒に考えよう。

ウ　昨日は話を聞いたので、今日は前回の予定と記録を振り返らず、新しい内容だけを考えていこう。

エ　予定は六十分ちょうどだね。説明や質問時間を見直す案と、機器を事前に確かめる案を比べてみようか。

答え：＿＿＿＿＿＿

十　必要な指摘を含む返答を書く

翌日の明として、記録で確かめられる点を一つ、改善案を一つ以上示し、香奈が選べる余地を残す返答を三文か四文で書いてください。提案しただけで成功が保証されるとは書きません。

小さなまとめ

内容の正しさと、今その順序で言うことは別です。待つことは、必要な内容を捨てず、受け取れる時機を確かめる選択にもなります。

21　第二十一回　標準の回

意見が違うとき、どう話すか

　みなと交流館には、二十四席の多目的室があります。火曜日の午後六時から八時までの使い方について、話し合いが開かれました。確認できた情報は次のとおりです。

・直近四回の火曜夜は、一回平均十四人が利用した
・一人で読む・作業する人と、数人で話し合う人の両方がいた
・別室の静かな閲覧室は十二席で、四回のうち三回は満席だった
・「話し声で集中しにくい」という意見が四件あった
・「夜に話し合える場所を残してほしい」という意見が三件あった

水野さん　「火曜の夜だけは、多目的室も静かに使う時間にしたいです。閲覧室が満席のことが多く、集中できる時間があらかじめ分かれば利用しやすくなります。」

岡田さん　「会話できる使い方を残したいです。多目的室は交流にも使う部屋で、夜に数人で話せる別の場所は多くありません。声の大きさや席の分け方を工夫する方がよいと思います。」

一　まず二つの意見を受け取る

いまの時点で近いと感じるものを一つ選んでください。正答はありません。

ア　水野さんに近い
イ　岡田さんに近い
ウ　どちらにも近い点がある
エ　まだ決められない

選んだもの：＿＿＿＿

二　共通する目的

二つの発言に共通する目的として、最も適切なものを一つ選んでください。

ア　集中できる時間を優先し、会話をする人には別室の利用を求める
イ　会話の場を優先して、静かな作業は多目的室では行わないと決める
ウ　多目的室を使いやすくするため、先に利用者の全員一致を条件とする
エ　多目的室を利用しやすくするため、それぞれが必要な使い方を考える

答え：＿＿＿＿＿＿

三　記録にあることと判断を分ける

次を、記録にある事実・意見や判断に分けてください。意見が寄せられた事実と、その内容を全員が支持することも区別します。

（1）多目的室には二十四席ある。（　　）

（2）一人で作業する利用者の方が重要である。（　　）

（3）閲覧室は直近四回のうち三回満席だった。（　　）

（4）火曜夜も会話できる利用を残すべきである。（　　）

（5）集中しにくいという意見が四件あった。（　　）

（6）火曜夜を静かにするのが唯一公平である。（　　）

四　根拠が支える範囲

「集中しにくい」が四件、「話し合える場所を残して」が三件という記録から、言えることを一つ選んでください。

ア　意見の件数には差があるが、利用者全体の賛否の割合までは分からない

イ　四件が三件より多いため、全利用者の過半数が静かな利用に賛成している

ウ　七件の意見があるため、四回の利用者は重複のない七人だけだったと分かる

エ　三件より四件が多いため、会話できる場所の必要性は検討から外してよい

答え：＿＿＿＿＿

利用方法を決める前に、さらに確かめたい情報を一つ、その情報が必要な理由とともに書いてください。

五　提案と理由を保って要約する

水野さんか岡田さんの一人を選び、その人の提案と理由を六十〜八十字、一文か二文でまとめてください。あなたが賛成する必要はありません。

選んだ人：＿＿＿＿

六　相手の意見を正確に受けとめ、異論を伝える

岡田さんが異論を述べる返答です。水野さんの提案の範囲と理由を保ち、岡田さん自身の懸念と立場も示しているものを一つ選んでください。

ア　静かに集中したい気持ちは分かります。ただ、多目的室での会話をいつもすべて禁じる案には、交流のためにも賛成できません。

イ　閲覧室が満席になりやすく、火曜夜だけ静かに使いたいのですね。夜に話せる場も少ないので、声や席を工夫して会話を残したいです。

ウ　双方とも理由はあると分かります。静かな時間と会話の時間を一時間ずつに分ければ、必要な調査をせず全員が納得できるはずです。

エ　閲覧室が満席なのは分かります。ただ、水野さんは話し合う利用者を大切にする気がなく、その必要を考えていないのだと思います。

答え：＿＿＿＿＿＿

七　ずれた異論を書き直す

問六のア・ウ・エのずれを、次の三つと対応させてください。記号は一度ずつ使います。

①　相手の提案を、実際より広い禁止へ変える

②　未確認の調整案で、全員の納得まで保証する

③　本人が述べていない意図を決めつける

ア：＿＿　ウ：＿＿　エ：＿＿

続いて、アを書き直してください。水野さんの提案の範囲と理由を保ち、岡田さんの異論を二文で示します。

八　二つの意見を踏まえて書く

この架空の会議について、自分が支持する立場を四〜六文で書いてください。共通する目的、異なる側が重視する点、自分の立場と理由、まだ確かめたいこと、または残る懸念を含めます。どちらかへの賛成、別案、決定を保留する立場も、根拠と条件を示せば成立します。

九　合意しないまま記録する

> 会議末の記録メモ「この日は利用方法を決めず、次回までに、ほかに使える場所と時間帯を調べることになった。」

冒頭の情報と会議末のメモに沿い、二つの提案・理由・未決定の結論を残す記録を一つ選んでください。

ア　閲覧室が満席になった回数が多かったため、静かな利用を望む意見を採用し、火曜夜は会話をしない方針で合意した。

イ　火曜夜を静かに使う案と会話の場を残す案が出た。どちらも利用しやすくする提案で、結論は調査のあとに持ち越した。

ウ　集中する時間の確保と会話の場を残す提案が出た。閲覧室の混雑と話し合える場所の少なさが理由で、結論は調査後に持ち越した。

エ　静かな利用と会話できる利用の意見が分かれた。まだ決めないため、それぞれが理由にした記録は不要として省くことにした。

答え：＿＿＿＿＿＿

小さなまとめ

相手が何を提案し、なぜそう考えたかを確かめたうえで、自分の意見を伝えられます。目的が同じでも判断が分かれるときは、それぞれの理由を残すと、話し合いを続ける手がかりになります。

□□□■ 第四部　自分の言葉を育てる

一つの場面をどこから書き始め、どの言葉で残すか。第四部では、思い出の入口、好みの手がかり、色や光の描写を比べ、言葉や文章の組み立て方を選び直します。

22　第二十二回　標準の回

思い出は、どこから始まる？

同じ経験でも、文章の入口は一つではありません。初めて陶芸教室へ行った日のことを、四通りに書き始めています。

A　先月、私は友人に誘われ、初めて陶芸教室に参加した。
B　机の上の土は、切り分けた羊羹のように四角かった。
C　「力を抜く方が、形は立ちます」と講師が言った。
D　親指を押すたび、器の縁が片側だけ低くなった。

一　まず入口を受け取る

続きが気になるものを一つ選び、最初に目が向いた言葉を一つ書いてください。正答はありません。

選んだもの　＿＿＿　　目が向いた言葉　＿＿＿＿＿＿＿＿

二　どこへ光が当たるか

書き出しで最初に見せているものと、そこから広げやすい内容を考えます。次の説明に合う書き出しを A〜D から一つずつ選んでください。

（1）いつ、何をしたか　（2）講師の短い言葉
（3）土の形や見え方　（4）作り手の手の動き

答え　（1）＿＿　（2）＿＿　（3）＿＿　（4）＿＿

三　入口から先を考える

四つの書き出しについて、本文に沿う説明を二つ選んでください。

ア　A では全体の説明が先なので、そのあと一場面を描くことはできない
イ　D では手の動きと縁の変化に目が向き、その先は別の場面にも移れる
ウ　B では土の形を描くため、あとに手触りや講師の言葉を入れると焦点が定まらない
エ　C では講師の言葉から入るが、その言葉をどう受け取ったかは後で書ける

答え：＿＿＿＿＿＿

四　要約から一場面へ近づく

　初めて陶芸を体験した。難しいところもあったが、最後には楽しかった。

使える情報を二つ選び、陶芸の一場面を二〜四文で書いてください。どの二つを結びつけるかによって、描かれる場面が変わります。

・土は冷たかった　　・回転台はゆっくり回った　　・器の縁が片側だけ下がった
・講師が湿らせた海綿を渡した　　・できた器は少しゆがんでいた

地域農園の収穫日の一場面です。

　木箱に赤いトマトと青いトマトが並んでいる。午後五時の鐘が鳴る。
　手袋の親指に赤い汁がつく。隣の人が「小さい方が甘いこともあります」と言う。
　作業を終えた人が、木箱を軒下へ運ぶ。

五　同じ場面の入口を変える

農園の場面から、入口の異なる書き出しを二つ作ります。音、物、発言、動きなどから選び、それぞれ一文か二文で書いてください。

書き出し一

書き出し二

一と二では、読み手が先に気づきそうなものがどう違いますか。

六　題材との距離を選んで試す

ア〜ウから一つ選び、書き出しを一文か二文で作ってください。最初に見せたいものも、一言添えます。

ア　自分の小さな経験。初めて道具を使った、予定より早く着いた、など。

イ　架空の経験。初めて降りたバス停で、帰りの時刻表を探す人。

ウ　陶芸教室または地域農園。ここまでの文でまだ使わなかった細部から始める。

題材と書き出し

最初に見せたいもの

小さなまとめ

　思い出を書くとき、経験の全部を最初から説明する必要はありません。時点、物、言葉、音、動きのどこから入るかを選ぶと、その文章で残したいものが少しずつ見えてきます。

23　第二十三回　小さな稽古

「好き」の理由は、あとから見える

同じ人が、夜十時ごろの台所について三通りに書きました。

A　私は、夜十時ごろの台所が好きだ。

B　洗い物が終わると、換気扇の低い音だけが残る。布巾を掛け、湯のみを伏せると、流しの銀色が少し広く見える。

C　その時間なら電話が鳴ることが少なく、翌朝の弁当箱を並べても途中で手を止めずに済む。

一　気になった言葉を拾う

A〜C のうち、好みの中身が伝わったものを一つ選び、気になった言葉を書いてください。正答はありません。

選んだもの　＿＿＿　　気になった言葉　＿＿＿＿＿＿

二　具体的に何を書いているか

B と C が主に書いているものを、一つずつ選んでください。

ア　換気扇の音や、片づいた流しの見え方

イ　途中で手を止めず、作業を続けられること

ウ　台所の広さや、設備にかかった費用

B　＿＿＿　　C　＿＿＿

折り畳み傘を気に入っている二人の文章です。

文章一　濃い緑の布は、開くと光を少しだけ通す。雨粒が細かく当たると、頭の上で乾いた音が続く。

文章二　骨が八本あっても軽く、濡れたあとに布をまとめやすい。玄関の細い箱へ入るので、置き場所にも困らない。

三　傘を気に入った手がかり

二つの文章の違いを最もよく表すものを一つ選んでください。

ア　一は布の見え方を述べ、二は傘を買うまでの経緯を述べる

イ　一は光や音を描き、二は扱いやすさや収まり方を伝える

ウ　一は雨の強さを説明し、二は軽さが生まれる仕組みを解説する

エ　一は傘を置く場所を示し、二は雨が布を打つときの音を描く

答え：＿＿＿＿＿

四　特徴から書いてみる

湯飲み・椅子・パン・散歩道・楽器の音から一つ選び、「好き」を使わずに二文か三文で書いてください。形、音、手触り、使う動きのうち、書きたいものを選べます。架空の物や場面でもかまいません。

選んだものと、その特徴

五　好きという言葉を戻す

問四の文に、どんなところが気に入っているかを示す一文を足してください。「好き」を使う場合も、前の文とつながるようにします。

小さなまとめ

　「好き」は、悪い言葉でも、取り除くべき曖昧語でもありません。いったんその言葉を使わずに、物や動きや便利さを見てみると、自分の「好き」が何を含んでいたかを、あとから言い足せることがあります。

24　第二十四回　小さな稽古

感じに近い言葉を探す

架空の絵「雨上がりの石段」を三人が描写しました。同じ絵のどこに目を向けたか、言葉からたどります。

A　雨上がりの石段の上に、鮮やかな朱色の傘が一つ開いている。
B　石段の奥の空は淡い青で、手前の手すりは鈍く光っている。
C　軒下には畳んだ傘が一本立ててある。石段の下の路地はひっそりとしている。

一　目が向いたところを比べる

A・B・Cから、色が際立つ箇所、弱い光り方を描いた箇所、場所の静けさを感じさせる箇所を、それぞれ短く抜き出してください。

色の際立ち／光り方／場所の様子

二　色と光の言葉を分けて読む

AとBについて、最も適切な説明を一つ選んでください。

ア　「鮮やか」は色の濃さだけを示し、「淡い」は光が弱いことだけを示す
イ　「淡い青」は空が狭く見えることで、「鈍く」は手すりの色名を示す
ウ　「鮮やか」は色の際立ちを示し、「鈍く」は光り方の弱さを示す
エ　「鮮やか」と「鈍く」は、ここではどちらも傘の色合いを示す

答え：＿＿＿＿＿＿

三　一語を替えて読み比べる

「鮮やかな朱色」を「濃い朱色」に、「ひっそりとしている」を「静かだ」に替えます。何に目が向きやすくなるか、二組のうち一組を選び、一文か二文で書いてください。

四　言葉に合う描写を選ぶ

次はこの絵の描写の候補です。物の配置や様子から「ひっそり」とした印象を伝える文を一つ選んでください。

ア　石段の広さが分かるように、段を一つずつ数えた

イ　雨上がりの空の淡い青と、赤い傘との色の差が大きい

ウ　ぬれた手すりの表面に、白い光が細い筋になって伸びた

エ　路地には人影がなく、軒下の傘だけが壁に寄りかかっている

答え：＿＿＿＿＿＿

五　絵の一角を描く

この絵の石段・傘・空・手すり・路地から二つ以上選び、六十五〜九十字の二文か三文で描写してください。「鮮やか」「淡い」「鈍い」「ひっそり」から一語を使うか、描写に合う別の語を選びます。A〜C と矛盾しない細部は想像で補ってもかまいません。

選んだ語が、どんな感じを伝えているか確かめます。同じ部分でも、違う語が合うことがあります。

25　第二十五回　標準の回

借りてきた言葉、自分の言葉

　よく使われる表現には、短く広く届くという働きがあります。まず、小さな喫茶店の広告を読みます。

> 毎日に、小さな余白を。
> 朝七時から十時まで営業。六席。飲み物は持ち帰りもでき、注文から五分ほどで受け取れます。

一　標語の働きを読む

「毎日に、小さな余白を。」の役割として最も適切なものを一つ選んでください。

ア　店で過ごす時間の印象を、短い言葉にして届ける
イ　店を利用できる時刻を、幅のある言い方で知らせる
ウ　注文にかかる時間を、具体的な数を省いて示す
エ　店で過ごせる時間の長さを、客に約束する

答え：＿＿＿＿＿＿

二　利用を判断するための情報

出勤前に飲み物を買い、店内で飲まずに持って行きたい人がいます。その人が利用できるかを考える情報を、すべて選んでください。

ア　営業時間
イ　受け取りまでの時間の目安
ウ　標語が作られた時期
エ　持ち帰りの可否

答え：＿＿＿＿＿＿

標語と案内は、同じ広告の中で違う働きを持ちます。印象を表す言葉に、読む人がどう行動するかを決めるための情報を添えられます。

読書会へ初めて参加する人に向けた、自己紹介の下書きです。

> 　私は、人とのつながりを大切にしながら、自分らしく成長していきたいと思っています。

書き手が実際に伝えたいことは、次の三点です。

・月に一度、地域の読書会へ参加している
・初参加の人が話しやすいよう、答えを急がず質問を二つほど用意する
・自分は多く話すより、人の話を聞く方が落ち着く

三　広く使える言葉の中身を確かめる

自己紹介の下書きから、この人の行動や関心を読み手が具体的に思い浮かべにくい表現を二つ抜き出してください。

四　書き手の情報に沿う表現

上の三点に最もよく沿う自己紹介を一つ選んでください。

ア　月に一度、地域の読書会に参加しています。初参加の方に声をかけ、私から意見を二つ伝えて話を進めています。

イ　月に一度、地域の読書会に参加しています。初参加の方が話しやすいよう質問を用意し、ゆっくり話を聞きます。

ウ　月に一度、地域の読書会に参加しています。毎回二つの質問に答えてもらい、意見を一つにまとめる係をしています。

エ　月に一度、地域の読書会に参加しています。質問は初参加の方から受け、自分の考えを先に説明するようにしています。

答え：＿＿＿＿＿＿

五　抽象語に具体的な中身を添える

「人とのつながりを大切にしたい」を残し、その人にとって何をすることなのかが見えるよう、二文か三文の自己紹介を書いてください。

地域の連絡方法についての意見文です。

> 地域のつながりを大切にし、誰もが情報を得られる町にするため、充実した情報発信を目指すべきです。

書き手が言いたいのは、「行事の案内をウェブだけにせず、集会所の紙の掲示も残したい。掲示を見て予定を知る住民がいるから」ということでした。

六　言いたい範囲を保つ

書き手の提案と理由に最もよく沿う文を一つ選んでください。

ア　紙の掲示を中心にしたい。ウェブの案内を使う住民は減っているからだ。

イ　案内をウェブへまとめたい。行事情報を探しやすくするためである。

ウ　ウェブに加えて紙の掲示を残したい。掲示で予定を知る住民がいるからだ。

エ　掲示の場所を増やしたい。今の集会所だけでは全員に情報が届かないからだ。

答え：＿＿＿＿＿＿

七　自分が伝えたい範囲へ整える

アかイを選び、二〜四文を書いてください。広く使われる言葉を残す場合は、具体的に何を指すかをすぐ近くに書き添えます。書いたあと、残した語か言い換えた語を一つ挙げ、理由を書いてください。

ア　職場での自己紹介。「何事にも挑戦し、常に成長したい」と書いた。実際に心がけたいのは、分からない点を早めに尋ね、作業を期限までに終えること。

イ　修理店を選ぶ理由。「安心できる店」と書きたい。入口に段差がなく、修理前に費用の見込みを説明してくれる。

書き直した文

語の選択と理由

小さなまとめ

　自分の言葉は、誰も使ったことのない言葉ではありません。よく知られた表現も、自分が示したい範囲や経験に合えば使えます。合わないときは、禁止するのではなく、中身を足す、範囲を狭める、別の言葉に言い換えることができます。

26　第二十六回　立ち止まる回

まだ分からないことを書く

次の文章を読みます。結論を探す前に、並んでいる場面と言葉を確かめてください。

新しい窓

駅前の図書館が建て替えられ、五月に新しい建物が開いた。入口の段差はなくなり、通路は車椅子と人がすれ違える幅になった。南側の大きな窓から、午後の光が書架の端まで届いている。

古い図書館には、玄関まで三段の階段があった。棚と棚の間は狭く、夏は扇風機の風が届く席から埋まった。返却口へ本を落とすと、奥で鉄の板に当たる音がした。私は仕事帰りに何度も通ったが、使いやすい建物だったとは言いにくい。新しい図書館を見て、前より楽になったと思う。あの不便さへ戻してほしいとは思わない。

最初に新館で本を返した日、私は自動扉を出たあと、横断歩道を渡って旧館の前まで歩いた。建物は工事用の柵で囲まれ、壁から「市立図書館」の文字が外されていた。文字のあった場所だけ、周りより白かった。

なくなってすっきりした不便さと、もう使わない入口を惜しいと思う感じが、同じところに並んだ。懐かしいとは思う。けれど、戻りたいわけではない。惜しいのが建物なのか、仕事帰りに角を曲がった道順なのか、それとも返却口の音なのかは、まだ分からない。

信号が青に変わった。新しい図書館の窓に空が映っていた。私は本を返したばかりなのに、鞄の中へ手を入れ、返却する本が残っていないかを一度確かめた。

一　最初に残ったもの

読み終えた直後に残った言葉、場面、感じを一つ書いてください。正答はありません。

二　本文に書かれていること

本文から確かめられるものを、すべて選んでください。

ア　新しい図書館の入口には段差がないと書かれている。

イ　書き手は、古い図書館を元のまま戻してほしいと思っている。

ウ　書き手は、新しい図書館の方が使いやすいと感じている。

エ　旧館の壁から、図書館を示す文字が外されている。

オ　書き手が旧館へ歩いた理由は、返却口の音を聞くためだった。

答え　＿＿＿＿＿＿

三　同時にある感覚を読む

（1）書き手が、新館の便利さを受け入れながら旧館に関わる何かを惜しむことが分かるように、二つの感じを一文か二文で説明してください。

（2）「懐かしい」と「戻りたい」を分けている連続した二文を、第四段落から抜き出してください。

四　言い切れる範囲

書き手が言えることと、まだ決めていないことの関係として、最も適切なものを一つ選んでください。

ア　旧館を懐かしく思う気持ちから、不便さも取り戻したいと分かる
イ　新館の使いやすさを感じているため、旧館への惜しさは消えたと分かる
ウ　何を惜しむかが分からないため、新館への感じ方もまだ述べられていない
エ　新館への感じ方は述べているが、何を惜しむかは候補を残している

答え：＿＿＿＿＿＿

五　結びの働きを比べる

末尾を次のように変えたとします。A〜D の働きを、①〜④から一つずつ選んでください。

A　古いものにこだわらず、新しい環境を受け入れることが大切なのだと分かった。
B　私が惜しんでいるのは、建物よりも、そこへ通った道順なのかもしれない。
C　何を惜しんでいるのか、今はまだ決められない。
D　信号が青に変わった。私は鞄の中から手を抜き、新しい図書館の窓を見た。

①　今の時点での考えを示す
②　教訓を確定する
③　未確定の範囲を明示する
④　具体的な場面に戻る

答え　A＿＿　B＿＿　C＿＿　D＿＿

六　付け足した結論の強さを読む

本文に次の段落を足すと、語りはどう変わりますか。最も適切なものを一つ選んでください。

> 　この経験から、変化を恐れてはいけないと学んだ。過去を手放し、いつも前を向いて進むことが大切だ。新しい図書館とともに、私も成長していきたい。

ア　戸惑いを乗り越えるという教訓で、本文に残っていた迷いを解消する
イ　新館と旧館の設備の違いを補い、建物が変わった経緯を詳しくする
ウ　建物や音を惜しむ可能性を増やし、判断できない範囲を広げる
エ　本文に出てきた物と動きだけを残し、読み手を元の場面へ戻す

答え：＿＿＿＿＿＿

七　結びを二つ作り、比べる

「新しい窓」の別の結びを、各一文か二文で作ってください。続いて、どちらか一つについて、何を示し、何を未確定のまま残したかを書きます。

一　今の時点で言えそうなことを示す

二　本文にある物や動きへ戻る

選んだ結びが示すことと、残すこと

八　実用の記録でも範囲を分ける

次の架空の記録を読み、起きたこと、まだ分からないこと、次に確かめることを分けて書いてください。

　共同で作る案内資料は、金曜日の正午までに印刷所へ送る予定だった。担当の美奈から原稿が届いたのは土曜日の午前十時で、入稿は月曜日へ延びた。遅れた理由は、まだ確認していない。

起きたこと

まだ分からないこと

次に確かめること

九　距離を選んで書く

ア〜エから一つ選びます。イ・ウは二〜四文で、はっきり伝えることと、言い切らずに残すことを選びます。

ア　問七の結びを一つ読み返し、何を言い切らずに残したかを一言書く。
イ　架空の小さな迷いを書く。例として、使っていた椅子を別の部屋へ移した場面。
ウ　色・重さ・距離・温度のうち二つを使い、相反する感じを書く。
エ　今日は書かず、本文の中で残したい言葉か場面に印を付ける。

小さなまとめ

　まだ分からないことを書くとは、何も述べないことではありません。確かめられること、同時にある感覚、今は決められない範囲を分ければ、結論を急がずに文章を結べます。必要な事実や責任まで曖昧にしないことも、その一部です。

27　第二十七回　小さな稽古

削ると見えるもの

言葉の多い短文を読みます。削れる箇所と、削ると失われるものの両方を見ます。

午後の公園で、私は古くて年月を感じさせる木のベンチに腰を下ろして座った。長い年月のために古び、表面には細かなひびが入っていた。

右端だけは、何度も手が触れたのか、淡く滑らかに光っていた。その小さな光を、私はなぜか残したいと思った。遠くでボールが一度はね、風に木の葉が揺れた。

一　重なっているところを見つける

元の文で、腰を下ろす動きと、木が古びたことを重ねている箇所を、それぞれ一組ずつ抜き出してください。

腰を下ろす動き／木が古びたこと

二　三つの削り方を比べる

A　古いベンチに腰を下ろした。右端だけが淡く滑らかに光っていた。遠くでボールが一度はねた。

B　ベンチの右端だけが淡く滑らかに光っていた。私はなぜか、その光を残したかった。

C　ベンチがあった。右端が光っていた。

右端の光の質を保っているものを、A〜C から二つ選んでください。二つの違いを、残した細部に触れて一文で書いてください。

三　一語を削ったときの変化

「その小さな光を、私はなぜか残したいと思った。」から「なぜか」を削ると、最も直接変わるものを一つ選んでください。

ア　光が小さいことを示す描写
イ　残したいと思った人が誰か
ウ　理由がつかめないという語りの調子
エ　その光を残したいという願い

答え：＿＿＿＿＿＿

四　残したい細部を選んで整える

重複を減らし、光の質か周囲の気配を中心に、二〜四文へ整えてください。残した語句を一つ挙げ、それが何を伝えるかを一言添えます。

推敲した文

残した語句と働き

小さなまとめ

　削ると、重複や中心から離れた説明が見えます。同時に、ためらい、具体性、余韻まで消えることがあります。短さを目標にせず、何を残す文章なのかを選びます。

28　第二十八回　標準の回

自分の言葉で、小さく結ぶ

四百字から六百字程度の文章を一つ作ります。題材を選び、何を残すかを考え、初稿を一度書き上げてから言葉や順序を選び直します。

一　題材を選ぶ

次から一つ選んでください。ア〜オは、実際の経験や考えをもとにしても、架空の人物の場面を考えてもかまいません。

ア　長く使っている物
イ　心に残る小さな会話
ウ　好きな場所や時間
エ　少し見え方が変わったもの
オ　まだ分からないこと
カ　下の架空の人物と場面

選んだもの　＿＿＿＿＿＿

紗江と時計店

紗江は、仕事帰りの毎週水曜日、商店街の時計店の前で午後六時二十分のバスを待つ。時計店は今月末で閉店する。店頭の丸時計は、いつも七分進んでいる。

紗江は以前、一度だけ腕時計の電池を替えてもらい、店主に「これなら、まだしばらく使えます」と言われた。

最後の水曜日、シャッターは半分下り、ガラス戸に「四十七年間ありがとうございました」と紙が貼られている。バスが来る直前、店主が丸時計を壁から外す。ブレーキの音がし、紗江は声をかけずに自分の腕時計を見る。

使う情報は選べます。書き進めるために、場面に合う細部を補ってもかまいません。

二　使えそうな言葉を集める

選んだ題材について、使えそうな要素を短く書き留めます。書きやすい欄から使い、あとから必要なものを選びます。

場面や時点／説明しておきたいこと

物・場所／音・色・手触り

人の言葉／動き／まだ決めないこと

三　残すものと、入れないもの

今の時点で、読み手に最も残したいものを一つ書きます。今回は省くことや、まだ書くか決めていないことがあれば、一つ記します。

残したいもの

今回は入れないもの

四　書き出しを二つ試す

同じ題材について、入口の異なる書き出しを二つ試してください。出来事の説明、物、音、言葉、動きのどこからでも始められます。

書き出し一

書き出し二

五　書き出しと結びを考える

書き出しを一つ選び、先に見せたいものに触れながら、選んだ理由を書きます。続いて、中ほどに書きたいことと、結びの候補を短く記します。

選んだ入口と、その理由

中ほどに書きたいこと

結びの候補

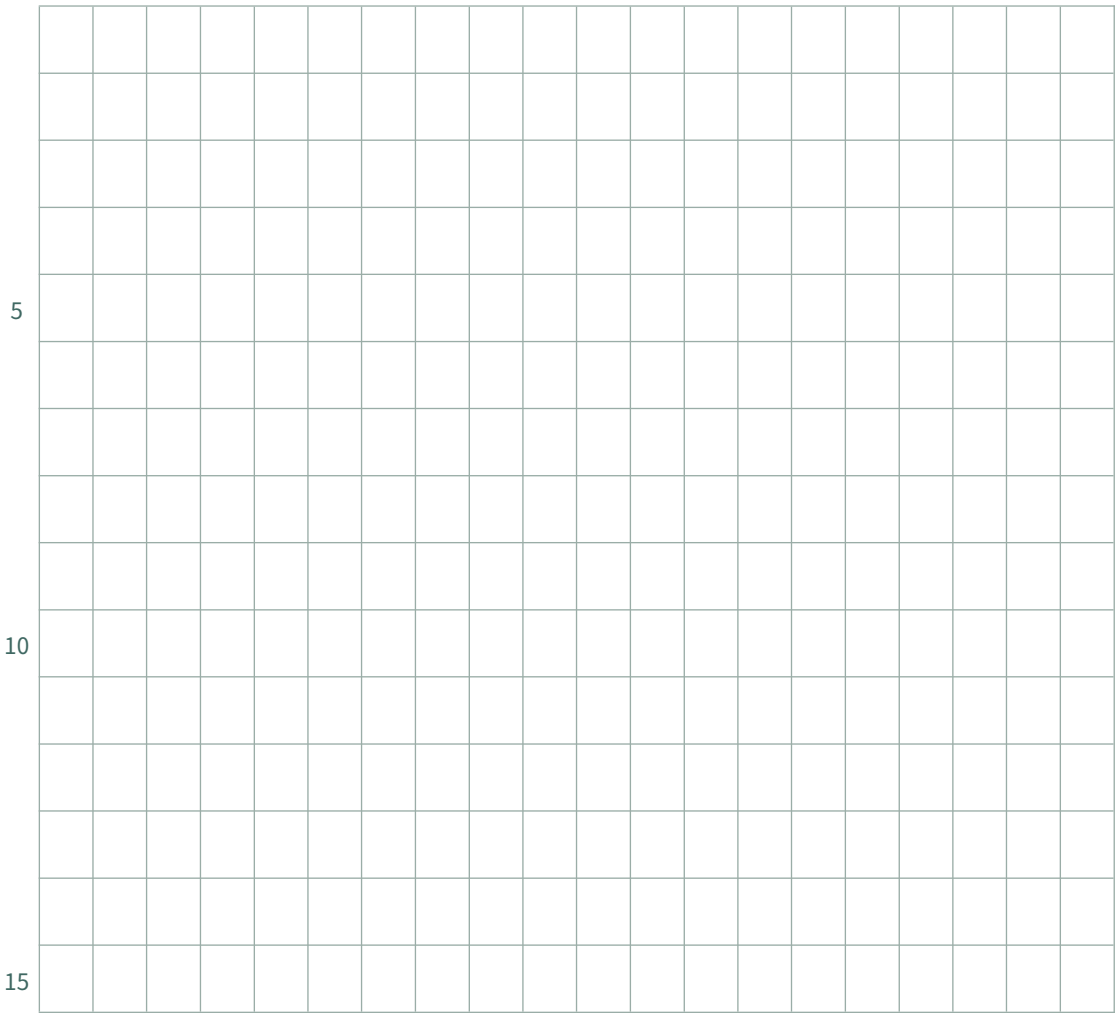
考えを示す、まだ決められない範囲を言葉にする、前に出てきた場面へ戻る。文章に合う結びを選び、書きながら変えてもかまいません。

> **書く途中で戻れる稽古**　書き出しを変えるなら第 22 回・問五。気持ちを言い切らずに結ぶなら第 26 回・問七。削ると消えるものを考えるなら第 27 回・問三。

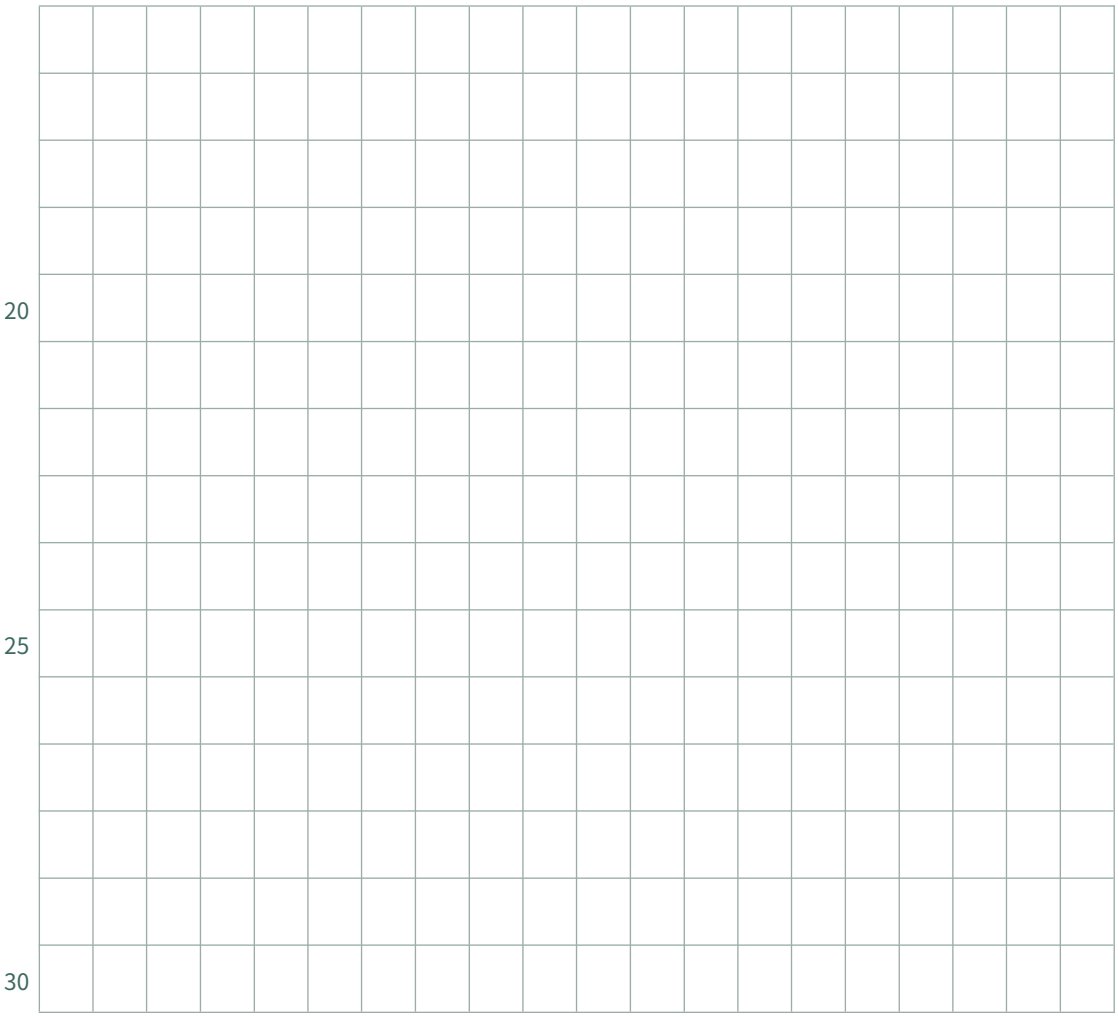
六　初稿を書く

四百〜六百字を目安に、いったん最後まで書きます。続く見開きに一行二十字、全三十行の原稿欄があります。句読点やかぎ括弧も一字として使い、段落の改行に必要な空きも見ながら書き進めてください。

初稿欄　1〜15 行



初稿欄　16〜30 行



七　残す箇所と直す箇所

初稿を読み返します。残したい箇所と、もう一度選び直したい箇所に印を付け、行番号か語句をメモしてください。

残したい箇所／直したい箇所

八　一か所以上を推敲する

削る・足す・言い換える・順序を変える、から一つ以上を試してください。初稿に直接書き込む場合は、変えた理由を記します。

推敲後の一部

何を変え、なぜ変えたか

九　書き上げた文を確かめる

自分の文章に当てはまる項目へ印を付けてください。

□ 選んだ題材が文章の中で見える

□ 具体的な場面や言葉が、文章の中心と結びついている

□ 抽象的な表現を使った部分は、その中身がある程度伝わる

□ 残したものと、省いたものの関係を考えた

□ 結論を書くかどうかを考え、どこで文章を結ぶかを選んだ

□ 推敲で、一つ以上の言葉や順序を選び直した

任意の小さな紹介。初めて読む人へ向け、題材と、文章で残したものを一文か二文で紹介できます。

小さなまとめ

最初に浮かんだ言葉は、間違いではありません。それを残すか、削るか、足すか、動かすかを選び直したとき、文章はそのときの自分に少し近づきます。完成とは、二度と変えない形に固定することではありません。

解答・考え方

■□□□ 第一部　いつもの言葉に気づく

第一回　「何でもいい」の中身

一　まず受け取る

正答はありません。彩の言葉にうなずく、健の事情も分かる、二人のずれが面白いなど、最初に目を向けるところは人によって違います。あとで読み直すために、最初の感想を残しておけます。

二　「何でもいい」は何を表していたか

正答： ウ

健は「食べたいものが決まっていたわけでもない」と話す一方、辛いものとパンを避け、温かいものを望んでいます。特定の料理の第一希望がないことと、選ぶ条件がないこととは異なります。

アは「そのまま受け入れる」が後の発言に合いません。イは食べたい料理が決まっているとする点で反対です。エの「相談を早く終えるため」という目的は、会話には書かれていません。

三　二つの「決まっていない」

正答： (1) 希望　(2) 条件

料理の第一希望は、積極的に選びたい料理です。条件は、候補を選ぶときに必要とする事柄です。温かいことのような希望も、選ぶ際には条件になります。この会話では、辛いものやパンを避けるという制約もあります。制約とは、選択や行動の範囲を狭める条件のことです。

四　少しだけ具体的にする

正答例： 温かい

「料理の強い希望はないけれど、今日は温かいものがいい。辛いものとパンは避けたいな。」

「温かい」という積極的な希望はあります。健の希望が全くない、とまとめると会話を単純にしすぎます。決まっていないのは、具体的に食べたい料理です。

五　別の場面で使い直す

解答例

ア「午後なら日程はお任せします。午前中は難しいです。」

イ「場所はお任せしますが、静かに話せる店だと助かります。」

ウ「人数は概数でかまいませんので、前日までにお知らせください。」

成立の条件は、それぞれ〈日程を任せるが午前は難しい〉〈店を任せるが静かに話せる所がよい〉〈概数でよいが期限がある〉の二点を残すことです。「いつでも」「どこでも」を使わなくても、条件が伝われば成立します。

この回で確かめたこと

曖昧な返事には、決めていないことと、決まっている条件が混じることがあります。短い返事にどんな条件が含まれているのか、もう少し尋ねて確かめられます。

第二回　「大丈夫」は、どの大丈夫？

一　場面ごとの意味

正答： A＝イ　B＝エ　C＝ウ　D＝ア

A は「熱は下がった？」への返事なので、体調についての応答です。ここで分かるのは、娘が問題はないと答えたことです。実際の体調の詳細まで保証するものではありません。

B では、資料を渡す期限について提案を受けています。エの「提案された期限」が直接の話題です。C では荷物を持つ手助けを断っているため、自分で扱えるという意味に読みます。D は、撮影してよいかという問いに、フラッシュを使わないという条件を付けて許可しています。

「都合がよい」「差し支えない」だけなら、B と D のどちらにも使えることがあります。ここでは、何が話題かまで具体的にした選択肢で区別しています。話し手の内面ではなく、直前の問いと返事の関係を読む問題です。

二　省略された内容を補う

解答例： 森が、資料を明日の午前に渡すこと。

「明日の午前」だけでは時期しか示しません。「資料を渡す」という行為も含めれば、提案全体を受けていることが分かります。敬語の形は変えてもかまいません。

三　近い言葉を区別する

正答： （1）可能　（2）許可　（3）支障　（4）不要

可能は、そのことができる、または起こりうることです。この例では運べることを指します。許可は、申し出た行為をしてよいと認められることです。支障は、進めるうえでの妨げです。不要は、必要としないことです。「できる」「してよい」「妨げがない」「要らない」は重なる場面があっても同じではありません。

理由の例： 撮影してよいとは認められても、電池が切れたカメラで撮影できるとは限らないから。

この場面では「許可」と「可能」は同じ意味だとはいえません。撮影してよいと認められているかと、実際に撮影できるかを区別しています。語の違いを説明できれば、電池を交換するなどの解決策まで書く必要はありません。

四　返事の意味と、実際の状態

正答： 断定できない。

理由の例： 「大丈夫です」と答えても、遠慮していたり、苦しさを詳しく伝えていなかったりする可能性があるから。

可能性を挙げることと、乙は実際に遠慮したと決めることは違います。確認できるのは返事の言葉です。体調や意図は、その言葉だけでは確定しません。

五　同じ返事の前後を見る

会話１の例： 「全員座れたので、追加の椅子はもう必要ありません。」

会話２の例： 「ありがとう。今日は自分で作業を進められます。」

会話１は追加の椅子が不要だという返事、会話２は作業を自分で行えるという返事です。会話２を「手助けは必要ありません」と言い換えることもできます。そう受け取れるのは、「一人で進められます」という説明があるからです。

質問の例： 「何について、もう大丈夫という意味ですか。」

「椅子はもう要らないということですか」のように、一つの意味を仮に示して確かめても成立します。相手が訂正できる聞き方にします。

六　言葉だけでは決まらないもの

正答： ア

修正資料の確認を求められて「大丈夫です」と答えているので、その確認の範囲で資料を受け入れたと読めます。資料にあらゆる改善の余地がない、という保証まではしていません。

イの「細部まで」「改善の余地がない」は、この返事からいえることを超えています。ウの時間のなさ、エの修正前への評価も書かれていません。短い返事は、承諾の範囲と、相手の満足度や事情を分けて読めます。

確かめられないことの例： 細部まで満足しているか。／どの程度詳しく読んだか。／今後さらに修正を求めるか。

実際にどう感じていたかは、返事だけではまだ分かりません。不満があると決めつけることもできません。

七　意味が分かる返事をつくる

Ａの例： 「気遣ってくれてありがとう。自分で持てるので、手伝いはなくても大丈夫です。」

お礼と、手助けを必要としない理由が伝われば成立します。「大丈夫」を残しても、その前に中身が示されていれば曖昧さは小さくなります。

Ｂの例： 「参加できます。ただ、開始から三十分ほど遅れて到着する予定です。」

参加できることと、遅れる時間の両方を残します。到着時刻を新たに決める必要はありません。

Ｃの例： 場面「依頼の期限を尋ねられたとき」／補う内容「その期限までに資料を仕上げられます」。

C も、省略した内容を一つ補えれば成立します。自分の体調や私的な事情を詳しく書くことは求めていません。

第三回　その「ちゃんと」は、どれくらい？

一　人によってずれやすい言葉

正答： イ

「ちゃんと」の完成状態、「早めに」の期限、「適当に」で任せる範囲が共有されていないと、同じ指示を違って受け取ることがあります。

アの専門語は必須ではありません。ウのように、短い指示で常に気持ちが優先されるともいえません。エは、必要な条件だけを示せることを見落としています。

二　「ちゃんと」の中身を見えるようにする

解答例： 「会議室の机をロの字に並べ、各席に資料を一部ずつ置いてください。開始十分前までに終えてください。」

〈机をロの字に〉〈各席に一部ずつ〉〈開始十分前まで〉の三点があれば成立します。「机を並べる」だけでは形が、「資料を置く」だけでは数や場所が不足します。語順や文の分け方は変えられます。

三　「早めに」は何時までか

正答： ウ

木曜午前十時という期限なら、その午前中に確認したい希望に合い、送る側にも、いつまでに送ればよいかが分かります。アとエでは木曜の夜に届く場合もあり、イの「早い時間」では、何時までかがまだ曖昧です。

ただし、午前十時という時刻が事実として初めから決まっていたわけではありません。この問題では、選択肢の中で、希望に合い、期限が明確なものを選んでいます。実際の依頼では、送る側に可能かどうかも相談できます。

四　任せてよい範囲

正答： エ

通路をふさがないことを示し、それ以外は問わないと伝えています。アは、空いた場所でも通路をふさぐ可能性を残します。イとウは、まとめ方や向きなど、今回示された目的にはない条件を加えています。

この場面の「適当に」には、細かな置き方を任せる働きがあります。語だけを見て、いつでも雑に扱う指示だと決めることはできません。

五　相手が動きやすい指示をつくる

解答例

ア「床の物を棚へ戻し、机の上を空けてください。午後五時までにお願いします。」

イ「参加予定の十人分に加え、予備を二つ用意してください。」

ウ「水曜日の午後三時までに、参加できるかどうかを返信してください。」

これらの時刻や人数は、解答例を書くために決めたものです。本文から読み取った数値ではありません。内容・量・期限・場所などの条件が二つ以上あり、その指示に矛盾がなければ成立します。

条件を加えた理由の例：「水曜午後三時まで」という期限がなければ、相手はいつ返せば間に合うか判断しにくいから。

「詳しいほどよい」ということではありません。相手が迷いそうな点を見つけ、任せてよい範囲も残しているかを見ます。

第四回　似ている言葉は、同じだろうか

一　どこに目が向く言葉か

保管の解答例：資料の置き場所や出し入れを管理すること。

保存の解答例：資料の状態を保ち、あとまで残すこと。

本文の二、三段落を手がかりにします。保管の例では〈場所・出し入れの管理〉、保存の例では〈状態を保って残す目的〉を捉えられれば成立します。

これは二つの語を、この場面での重点から比べた説明です。「保管なら傷みに配慮しない」とするのは、最後の段落に反します。また、「保存は長期、保管は短期」「保存はデータ、保管は実物」と期間や対象だけで分けることもできません。

二　場面に合わせて選ぶ

重点により合う語：（1）保管　（2）保存

（1）の理由例：持ち主が取りに来るまで、受付が物を預かって管理することを伝えたいから。

（2）の理由例：記録を失わず、次の世代が利用できるよう残す目的を伝えたいから。

（1）でも物を傷めない配慮は必要です。（2）でも、映像を収めた媒体をどこで管理するかに目を向ければ「保管」といえます。この問いでは、後ろに示した「伝えたい重点」に合わせて語を選んでいます。もう一方の語が、どの文脈でも誤りだという意味ではありません。

三　置き換えると、何が変わるか

解答例：アは地図をどこで管理しているかに、イは地図の状態を保って残していることに重点がある。

両方の文に「収蔵庫で」とありますが、語の働きは全く同じではありません。同時に、温湿度を整えた収蔵庫で地図を管理する同じ仕事を、どちらの語でも説明できることがあります。「保管は場所だけ、保存は状態だけに関わる」と、きっぱり分けないことが大切です。

四　別の分野で使ってみる

保管の例：「会場で預かった傘は、入口の傘立てで保管しています。」

重点の例： 預かった物の管理場所を知らせたい。

保存の例： 「祖父が録音した祭りの音を、あとでも聞けるように保存する。」

重点の例： 記録を失わず、のちにも利用できるよう残したい。

成立の条件は、〈博物館以外の場面〉〈選んだ語に合う対象や目的〉〈自分が伝えたい重点〉の三点です。上の文は架空の例であり、自分や家族の経験を書く必要はありません。

読んだ内容について

展示の期間や明るさを調整するのは、文化財の傷みを抑え、公開と保存を両立させるための方法です。展示しない時間にも管理の仕事があると分かると、「保存」を、ただ倉庫へ置くことだけでは説明しきれない理由も見えてきます。

第五回　どこから話せば伝わる？

一　遅れる連絡を組み立てる

（1）正答：ウ　（2）正答：カ

開始に間に合うかを知りたい上司には、到着見込みが直接必要です。電車の遅れが十五分でも、打合せへの遅刻が十五分とは限りません。今回の到着見込みは十時七分ごろです。

遅延情報を確認した九時四十分という細かな時刻は、今回残すと指定した情報ではありません。現在の時刻イも、文脈によっては省けます。（2）は、何を省くかを一つに絞れるよう、「確認した細かな時刻」と範囲を示した問いです。

（3）の例： ②→①→③。到着見込みで開始への影響を知らせ、理由を短く述べてから、先にできる対応を伝えるため。

別の例： ②→③→①。上司が進行方法をすぐ選べるよう、到着見込みの次に代わりの対応を伝えるため。

順序だけで一律に正誤を決めません。たとえば①→②→③でも、理由を短くし、到着と対応がすぐ分かるようにする説明があれば成立します。ただし、この場面で理由を長く並べ、開始に間に合うかを最後まで知らせない組み立ては目的に合いません。

二　相手によって必要な情報は変わる

代表例： A＝ア・イ　B＝ア・ウ　C＝イ・エ

A は到着まで進行をどうするかを判断するため、到着見込みと資料の用意を知ると動きやすくなります。B には、いつ着くか、あとどのくらい待つかが直接関わります。C には、資料がある場所と、頼まれる説明の範囲が必要です。

A でア・エを選ぶ、C でア・エを選ぶなども、その役割に即した理由があれば成立します。B のアとウは内容が重なりますが、時計で分かる到着時刻と、今からどれだけ待つかを分けて知らせる意味があります。ほかの情報も、具体的な役割上の必要性が説明できれば検討できます。

路線名や確認時刻は、この設定の三人には直接の必要性が示されていません。「正解の記号を二つ暗記する」のでなく、受け手が何を判断するかと結びつけます。

三　長い説明を二文にする

解答例： 到着は午前十時七分ごろになる見込みです。電車の停止や別路線の混雑で遅れており、現在は打合せの場所へ向かって移動しています。

〈到着見込みが先〉〈遅れの理由〉〈現在移動中〉を残し、二文、六十〜九十字に収めます。「ごろ」「見込み」を消して到着時刻を確定させないことにも注意します。早く家を出たことや、駅に着いてからの細かな順序は省けます。

別の表現でも、重要な三点と不確実さが保たれていれば成立します。「電車が十五分遅れた」と書くのは、この連絡文にはない数字を持ち込むため、この要約では避けます。

四　小さな失敗を訂正する

順序の例： ア→イ→ウ→エ。古い版を送った事実を先に知らせ、謝罪したあと、正しい版と使ってほしいファイルを示す。

別の例： イ→ア→ウ→エ。まず謝り、すぐに何を訂正するかを説明する。

ウから始め、正しい版を添付したことを先に伝える書き方もできます。相手が古い版を使わずに済むこと、どのファイルを確認するかが分かることを確かめます。単一の並び順の暗記を目的にした問いではありません。

五　不足している情報を見つける

正答： ア

場所だけが変わり、日時などは既に伝わっている設定です。新しい会場が分からなければ、参加者は向かう先を決められません。変更決定の時刻、設備、元の選定理由は、今回の移動に先立って必須の情報ではありません。

連絡の例： 「明日の集まりは、会場を東館二階の第二会議室へ変更します。日時はお知らせしたとおりです。」

会場名を含み、二文以内であれば成立します。「日時は同じ」という確認を加えず、一文にすることもできます。初めての参加者に行き方が必要なら、その案内は別に補います。

六　利用者に必要な案内を書く

（1）の例： 「七月二十日は、閉館時刻を午後八時から午後六時へ変更します。資料の保存環境を点検するためです。返却ポストは午後六時以降も利用できます。」

三文以内で、最初に〈日付・閉館時刻の変更〉があり、点検の理由と返却ポストが残れば成立します。開館時刻が通常どおりであることを、文の数を増やさずに加えてもかまいません。

（2）の例： 翌朝まで返却本を館内で保管すること。利用者が来館や返却の予定を決めるのに、館内の一時的な管理方法までは要らないため。

第四回の「保存」「保管」が別の場面で出てきます。保存環境は資料の状態を保つ条件、保管は返却本を処理まで預かり管理する仕事に目が向く語です。ここでも、二つの語の働きが重なることはあります。

七　順序を選ぶ理由

正答： エ

アは相手や目的による違いを消し、イはいつも理由から述べるものとしています。ウは尋ねられていなくても必要な情報を落とすことがあります。実用的な連絡では結論を先に伝えると役立つ場面が多い一方、経過や理由を先に知りたい場合もあります。

第六回　見たことと、感じたこと

一　最初の印象

正答はありません。配置や数が分かるA、比喩が印象に残るB、活気の乏しさを感じさせるCなど、どこに引かれるかは違います。「どれでもない」も成立します。

二　四つの働きに分ける

中心となる働きの例：（1）観察　（2）印象　（3）評価または印象　（4）推測　（5）観察　（6）推測

（1）は数と配置、（5）は耳で確かめた音の様子です。観察にも、何に注目したかという選択はあります。観察を、書き手の立場が全くない文章という意味にはしていません。

（2）の「別の時間の中」は、時計で確かめた時間の違いではなく、書き手が受けた印象を比喩にしたものです。（4）の長居の時間、（6）の店員の手持ち無沙汰は、その場面で直接確かめた事情としては示されていません。

（3）の「活気に乏しい」は、活気が足りず物足りないという判断を含めば評価です。書き手の寂しさが表れた言葉と捉え、印象とする説明も成り立ちます。「乏しい」という程度の判断に、どんな基準が含まれるかを言葉にできれば、二つの働きを挙げてもかまいません。

三　本文から確かめられること

正答： イ・ウ

イは文章Aの「窓際の二卓には客がいて」、ウは冒頭の雨の日という説明と文章Bが根拠です。アは、窓際以外の二卓が空いているとは書かれていません。エは六つのグラスを何人が使ったかが不明です。オはスピーカーから音楽が流れており、店内の生演奏とは読めません。

書かれていないことは、ただちに反対の事実を意味しません。窓際以外が空席だと分からないからといって、満席だと分かるわけでもありません。

四　同じ事実に何が加わったか

（1）正答：イ・エ　（2）正答：ウ

文章Aのグラスの配置から、Cでは「仕事がひと段落」「手持ち無沙汰」という事情を加えています。アとウは元の観察にもある情報です。

（2）のアはグラスの数から仕事の終了まで決め、イは具体物を挙げれば事情まで確認できるとしています。エも逆向きの断定です。Aに事情が書かれていないことは、Cの可能性をすべて否定する根拠にはなりません。

（3）の例： このあと来る客に備え、洗ったグラスを乾かしているのかもしれない。

別の例： 忙しくなる前に、洗い物をまとめて済ませたのかもしれない。

いずれも、本文にない事情を補った可能性です。実際にそうだったと断定せず、グラスが伏せてあることと両立する説明なら成立します。

五　評価から、確かめられる内容へ戻す

解答例： 窓際の二卓に客がいて、一人は本を読み、もう一人はカップを両手で包んでいた。

別の例： 天井のスピーカーから、ピアノ曲が小さな音で流れていた。

どの事実が「活気に乏しい」という感じにつながるかは人によります。ただし、事実として書く情報はAにあるものを使います。「ほかの席は空いていた」「誰も話していなかった」「店員が何もしていなかった」は、本文からは確かめられません。

この書き換えで、店全体の評価が証明されるわけではありません。評価の手がかりを、他の人にも確かめられる形で一つ示したことになります。

六　どの事実を選ぶか

紹介1の例： ウ・エ・カ

窓際では、一人が本を読み、もう一人がカップを両手で包んでいる。ピアノ曲が小さな音で流れ、私には急がず過ごせそうな店に感じられる。

紹介2の例： イ・オ・キ

雨の午後、窓際の二卓には客がいて、カウンターにはグラスが六つ伏せてある。私には、どこかさびしい店に感じられる。

紹介2の例でも「二卓にだけ客がいる」「空席が残る」とは書いていません。同じ事実から違う印象を述べることはできますが、印象を支えるために未確認の事実を作ってはいけません。

成立の条件は、選んだ三つの事実を使い、新しい事実を加えず、二文か三文で書くことです。音楽にさびしさを感じるなど、例とは別の組合せでも成立します。その時間の印象だけで、いつもそのような店だと決めつけないことにも注意します。

使わなかった事実と理由の例： 紹介2では、カップを両手で包む動作を使わなかった。その動作から自分は温かさや落ち着きを感じ、今回は雨とグラスに目を向けたかったから。

七　近い描写語を比べる

（1）の例： 「静か」は穏やかさにもつながるが、「さびしい」に替えると、人の気配が乏しく、物足りない感じが強くなりやすい。

「静か」にいつでも好意が含まれるわけでも、「さびしい」が必ず否定なのでもありません。何を感じさせるかを、今回の紹介に即して説明します。

（2）の例：「落ち着いた店」を選ぶ。手がかりは、本を読む客と小さな音のピアノ曲。別の人は、同じ音や動きの少なさを物足りなく感じるかもしれない。

別の見方を示しても、最初の印象を誤りとする必要はありません。また、別の人が実際にそう感じたと断定することもできません。

八　書き手の位置を見る

正答：イ

Bの「別の時間の中」「空気を静かに均していた」は比喩を用いた印象です。Cは「活気に乏しく」という判断や、「長居」「手持ち無沙汰」という推測を前に出しています。

アはBにも感じ方がある点を落としています。ウは同じ事実に加えられた意味の違いを消しています。エは、具体物を挙げることと、観察だけを書くことを混同しています。

九　読み手として確かめる

例：店員が実際に客へどう接し、どのような作業をしているのかを見る。

別の例：この時間帯だけの様子か、別の時間にも同じなのかを確かめる。

本文にない情報を、次に何で確かめるかが書ければ成立します。「本当によい店なのか」とだけ書くより、接客、音、人の動きなど、何を確かめるのか具体的に書きます。感じ方を取り消すことや、店のよさを証明することは求めていません。

十　外側のものを描写する

Aの例：待合室の壁は白く、木の長椅子が二脚ある。丸い時計は十一時二十分を指し、窓の外で自転車のベルが一度鳴った。机には折り目のついた案内冊子が三冊ある。

Bの例：白い壁の待合室には木の長椅子が二脚あり、時計は十一時二十分を指している。自転車のベルが一度聞こえ、私には室内の静けさが少し揺れたように感じられた。

Cの例　落ち着く感じ：白い壁の待合室には木の長椅子が二脚あり、丸い時計は十一時二十分を指している。私には、白い壁と木の椅子の取り合わせが、落ち着いて待てるような感じを与えた。

Cの例　心細い感じ：白い壁の待合室には木の長椅子が二脚あり、丸い時計は十一時二十分を指している。私には、その白さが、待つ時間の長さを思わせるように感じられた。

Cでは、同じ事実と時刻を用い、受け取った印象だけを変えています。人がいない、冊子だけが残された、時計が止まった、といった未提示の事実は足していません。

第七回　手が覚えていた場所

一　本文に書かれていること

正答： エ

三段落目に「朝のコーヒーにも夜の白湯にも使っていた」とあります。アは引っ越す前とする時期が違い、イは「ほとんど分からない」に反します。ウの贈り主については書かれていません。

二　カップを奥へ移した理由

解答例： 飲むたび、欠けた縁が唇に触れて気になったから。

別解例： 口をつけるたび、欠けたところが唇へ触れたから。

〈飲むたびに〉〈欠けたところが唇に触れる〉を捉え、二十〜三十字で書きます。「気になった」は、そこだけ先に分かるという描写に即した言い換えです。怪我をした、危険だと分かったなどの新しい出来事は加えません。

三　手のほうが先に知っていた

正答： イ

目では分かっていても、扉を開けた手がいつもの右奥へ向かう、という前後の描写が根拠です。長く続けた動作が、意識して選ぶより先に出る感覚が表れています。

アの見えにくさ、ウの使うたびの比較は書かれていません。エは、なくなったことを分かっているという本文の説明に反します。

四　「空白」の二つの意味

（1）の例： 白いカップを置いていた、棚の右奥のカップ一つ分の幅。

ここでの右奥は、手が向かった、もとの置き場所です。白いカップは飲み物に使わなくなり、別に食器棚の奥へ移されています。

（2）の解答例：長く使ってきたカップの感触が残り、言葉のあとの間のように、すぐ別の物で埋めずにおきたい余韻。

別解例： カップはそこになくても、使い慣れた動作や重さの感じが残っていて、すぐには詰めたくない間。

四十〜六十字で、〈カップを使っていたときの習慣や感覚が残る〉〈すぐ別の物で埋めなかった間や余韻〉を結びつけます。灰色のカップを寄せれば物理的には埋まるのに、そうしないことが手がかりです。喪失の悲しみだけに意味を固定する必要はありません。

五　比喩の働き

正答： ア

物が置かれていない幅を、言葉を使ったあとの間に重ね、数値では説明しきれない余韻を感じさせます。イは比喩を寸法の説明に狭め、ウは会話を避けたという出来事を加え、エは棚をすぐ詰めなかった描写と反対の教訓にしています。

六　題名を考える

（1）の解答例：カップがいつもの場所になくなったあとも、手に残った動きや重さの感覚が文章の中心だから。

別解例： 目ではカップがないと分かっていても、手は慣れた置き場所を探し、使っていた時間を残しているから。

三十〜五十字で、〈カップがないと分かること〉と〈それでも手に残る動き・場所・重さ〉の関係を説明します。本文の語を並べるだけでなく、題名が何を中心にするかが分かれば成立します。

（2）の例： 「カップ一つ分の間」／「右奥へ伸びる手」／「残っていた重さ」／「午後の光がたまる縁」

本文のどこへ目を向けるかによって題名は変わります。感動や教訓を示す題名でなくてもかまいません。

七　最後を読む

ここは、本文に合う可能性を考える問いです。理由を一つに決める正答はありません。

例1　手がかり：「言ってから、少し違う気がした」。考えたこと：自分でも、まだ感じに合う言葉を選びきれず、無理に言い直さなかったのかもしれない。

例2　手がかり：「カップの青い線に午後の光がたまるのを見ていた」。考えたこと：さらに説明するより、その場にあるカップと光を見ていたかったのかもしれない。

「友人に説明しても無駄だと思った」「質問を聞いていなかった」などは、本文に十分な手がかりがありません。書き手の気持ちを想像する問いでも、言葉の根拠が必要です。どちらの例も、本文から考えられる解釈の一つです。

八　距離を選んで書く

A の例： 白いカップは、欠けてから飲み物に使われなくなった。その後は窓辺で小さな匙を立て、別の形で使われている。

役割の変化が本文に即しており、二文であれば成立します。「使い物にならなくなった」と全用途を否定すると、後の使い方と合いません。

B の例： 毎日使う鍵を取ろうとすると、手は先に上着の右ポケットを探す。違う上着の日にも、同じ場所へ伸びてしまう。

これは架空の動作の例です。物と手の動きがつながり、二文で書かれていれば、個人的な思い出は不要です。

C の例： 白地に細い青線が一本あり、縁の一部が米粒ほど欠けている。かすれた線と小さなくぼみに、午後の光が細くたまっている。

色・傷・光を使っています。本文の特徴を三つ取り入れ、感情語を使わず二文〜三文で描ければ成立します。

第一部の終わりに

同じ言葉の中身を確かめることと、説明しきれないものを、急いで一つの意味に決めないことは、両方できます。白いカップのあとの幅を、どんな言葉で残すか。ここでは答えを一つにそろえず、余韻を残して第一部を結びます。

□■□□ 第二部　受け取り方をほどく

第八回　何が起きて、何を思ったか

一　まず受け取る

正答はありません。腹立たしさ、心配、麻衣の事情への想像など、最初に浮かんだものを残す問いです。後の問題で区別を学んでも、ここでの受け取りを消す必要はありません。

二　四つの働きを分ける

正答： 上から、出来事・出来事・受け取り・感情・受け取り・感情・願い。

「何かあったのではないか」は、心配につながる考えです。何か起きたこと自体が、この時点で確かめられているわけではありません。一方、悠が心配を感じたことは、本人の記録に表れています。出来事に関する推測と、感情を抱いたことを分けます。

三　混ざった一文をほどく

（1）の例： 午後二時二十分になっても、麻衣は西口に来ていなかった。

約束の時刻と、その時点でまだ到着していないことを示します。「長すぎる」「軽く見ている」は加えません。

（2）の正答：「私との約束を軽く見ている」「私は大切にされていない」

抜き出しは上の文の表記と一致させます。前者は麻衣の態度について、後者は二人の関係について悠が推測したことです。場面の事実として確定した内容ではありません。

（3）の正答例：腹が立つ、心配だ／遅れると分かった時点で、理由だけでも知らせてほしかった。

元の記録を尋ねているので、ここではそこに書かれた二つの感情を答えます。「寂しい」などを加えるのは、ありうる感情を創作する別の課題になります。

四　どこまでが場面から言えるか

正答： ア・ウ

アは二時二十分時点の情報、ウは悠の記録に根拠があります。イとエは、麻衣が理由を省いた意図を決めています。同じ短い連絡でも、予定を軽く考えたのか、心配させまいとしたのかは、言葉だけからは確定できません。

五　説明が加わったあと

正答： ウ

麻衣は電車の停止や連絡できなかった時間について説明しました。悠が待ち時間をどう受け取ったかを見直す手がかりになりますが、待った出来事やその間に抱いた感情は残ります。アは心配を抱いたことまで読み違いとし、イは説明からわざと遅れたのではないことまで証明されたとしています。エの到着時刻は、原因の説明が加わっても変わりません。

六　同じ待ち時間を二通りに受け取る

（1）の例： 午後二時二十分になっても、麻衣が西口に来ていなかった。

（2）の例： A は約束を後回しにされた可能性、B は普段の行動から外れた何かが途中で起きた可能性を加えている。

（3）の例： これまでにも遅刻が続いていたか。／麻衣が普段は時間を守る人か。／その時間帯に交通の遅延情報が出ていたか。

A と B の差は、同じ待ち時間に何を結びつけるかにあります。追加情報で一方が考えやすくなることはありますが、情報を一つ得ただけで相手の意図が必ず決まるとは限りません。

七　二文にして伝える

解答例： 二時二十分になっても来なかったので、腹が立ったし、何かあったのかと心配もした。次に遅れるときは、連絡できる状況なら、理由と到着の見込みを教えてほしい。

別解例： 待っている間は、約束を後回しにされたのかと感じて、腹が立っていた。電波が入らないときは難しいけれど、次に連絡できたときには遅れる事情も一言添えてほしい。

二文で、待った出来事・悠の感情・次の連絡への願いが伝われば成立します。別解は「後回し」を感じ方として示し、故意にそうしたという事実にしていません。麻衣を許す、感謝するなど、特定の反応は求めません。

第九回　「いつも」と言いたくなるとき

一　範囲を広げる言葉

正答： A「いつも」　B「みんな」　C「全然」

A には洗われた日が一日あり、B では反対したのは八人中三人です。C には催促後に完了した二件があります。言葉どおりの「すべて」「全員」「まったくない」という範囲は、記録の内容と合いません。B の保留二人と発言のなかった一人を、反対にも賛成にも勝手に加えないことにも注意します。

二　不満を薄めずに範囲を直す

正答： イ

イは三日という範囲と、片づけてほしい時期の双方を示します。アは四日の記録から「いつも」へ再び広げています。ウは確認済みの回数と希望の時期をぼかし、エは片づけの状況から性格まで決めています。言い方を弱くすること自体が目標ではありません。

三　人数や件数を残して言い換える

B の例： 八人のうち反対は三人、保留と賛成は二人ずつで、一人は発言しなかった。私には反対意見が強く印象に残ったので、懸念の中身をもう少し聞きたい。

C の例： 先月の三件は、二件が催促後に終わり、一件はまだ終わっていない。催促する負担があるので、今後は進み具合を知らせ、残りも今週中に終えてほしい。

B は人数と話し手の印象を、C は完了状況と今後の希望を分けています。C の「今週中」は新たに考えた希望であり、既に合意していた期限ではありません。不満や気がかりは別のものでも、記録と矛盾せず二文で伝われば成立します。

四　対人場面の外でも範囲を確かめる

正答： エ

「大半」は全体のうち大きな部分を占めることです。八回の実施と二回の中止をともに残せます。アは二回の中止を消し、イは実施と中止の回数を逆にし、ウも割合を逆にしています。

「しばしば」「まれに」には、あらゆる場面に共通する一定の回数や割合があるわけではありません。母数や期間によって受け取りも変わるため、正確な数量が必要な報告では回数を添える方法が役立ちます。

五　言葉の強さを記録に合わせる

解答例： 十回のうち八回は実施しているのに、「ときどき」では実施が少なかったようにも読め、記録の割合が伝わりにくい。

実施の多さと、「らしい」が付け加える不確かさに目を向けられます。この教材では記録が示されているので、「十回のうち八回実施した」と明示できます。強めすぎる場合だけでなく、必要以上にぼかした場合にも、記録から離れることがあります。

第十回　同じ出来事、二つの話

一　まず二つの話を読む

正答はありません。「落ち着いて最後まで」「見直したい」など、自分の目が向いた言葉を残す問いです。A の手応えと B の課題意識の、どちらに目が向いてもかまいません。

二　共通して書かれていること

正答： ア・イ・ウ・エ・オ・ク

A の「いったん手を止め、写真を見せながら続きを読んだ」と B の「読むのを止め、画面を見てもらってから再開した」がアの根拠です。開始時の不調、二人の役割、八分ほどで写真が映ったこと、十時五十分の終了も共通します。

カは A の一時点の笑い声を「会の間ずっと」へ広げています。キの確認不足は、B が今後確認を見直したいと書いたことから補った原因です。改善案があることと、それが今回の原因だと確認されたことは別です。

三　「書かれていない」と「なかった」

正答： ウ

A は笑い声が上がった場面を選んでいます。B がそれを記さないことだけでは、笑い声を否定したとは言えません。アは記述の省略を見た場面の違いへ、イは A の記述を B の同じ評価へ広げています。エは、詳しく書かれたものほど確かな事実だとしていますが、そう判断する根拠はありません。

四　経緯と評価を分けて比べる

（1）の正答：前者は経緯、後者は評価。

前者は途中で生じた変化、後者は佐伯さんが進行をどう捉えたかを示します。評価も書き手の記録の一部ですが、時刻や行動の記録とは働きが異なります。

（2）の解答例：A「落ち着いて最後まで進められたと思う」／B「次回は機器の確認と写真を入れる順序を見直したい」

抜き出しでは本文の語句をそのまま使います。A の「その場で切り替えながら」なども、対応への手応えと結びつけられれば成立します。B の「流れが二度に分かれた」は課題の認識を示しますが、今後何を見直したいかまで答えるなら「見直したい」を含む箇所が明確です。

五　要約案を点検する

正答： ア

B は進行が二度に分かれたことを課題とし、次回の機器確認と写真の順序を見直そうとしています。共通の出来事をまとめても、この差を消せません。イは A の評価を消したとする点、ウは役割を二人の同じ行動とする点、エは原因を述べたとし B の評価を肯定にそろえる点がずれています。

六　違いを残して第三者へ伝える

解答例： 読み聞かせ会では、開始時に写真が映らず、橋本さんが絵本を読み始め、佐伯さんが映写機を調べた。八分ほどで写真が映り、読み聞かせをいったん止めて再開し、午前十時五十分に終えた。佐伯さんはその場で対応できた点を、橋本さんは進行の途切れと次回の準備の課題を重く見ている。

別解例： 午前十時の開始時、写真が映らなかったため、橋本さんが絵本だけを読み、佐伯さんが映写機を確かめた。八分ほどで写真が映ると、読み聞かせを一度止めてから続け、十時五十分に終えた。佐伯さんは切り替えて進められたと捉え、橋本さんは進行の分かれ方や機器確認、写真の順序を見直したいと考えている。

必要な経緯と二人の重点を保ち、三文か四文、指定字数内なら成立します。「映写機を直した」とは書かれていないので、「調べた」「確かめた」とします。「八分ほど」を正確に八分と断定せず、機器不調の原因や全員の満足も加えません。

七　さらに確かめたいことを選ぶ

解答例： 橋本さんへ「次回は、どの場面で写真を見せると読み聞かせの流れを保ちやすいと考えていますか」。理由は、写真を入れる順序を見直すという記録から、具体的な準備を考えたいから。

別解例： 佐伯さんへ「映写機を確かめた際、何が原因だったか分かりましたか」。理由は、今回の記録には原因が書かれておらず、次回の点検項目を決める手がかりにしたいから。

原因も担当者の落ち度も、記録だけでは確かめられないことを踏まえて質問します。「原因が分かっていない」という返答もありえます。記録の不足を見つけることは、書き手の誤りを見つけることと同じではありません。

第十一回　説明の道筋をたどる

一　何を手がかりにするのか

正答： イ

第二段落では、手前を横切る惑星が恒星の光の一部を遮り、記録上の明るさが下がると説明しています。アは直接写す方法へ置き換え、ウは原因を先に決めたうえで明るさを戻す目的を足し、エは本文にない色の比較を述べています。

二　段落の役割をたどる

正答： 第二段落＝ア　第三段落＝ウ　第四段落＝エ　第五段落＝イ

第二段落は光が遮られる仕組み、第三段落は周期と大きさに関して分かること、第四段落は別の原因の検討を示します。第五段落は、それらを観測と推定の関係としてまとめています。

第三段落の「また」は、減光の間隔から一周の時間を調べる話に、暗くなる割合から大きさを調べる話を加えています。第四段落の「ただし」は、それまでの方法の有効性を消すのではなく、判断に必要な条件を添えています。接続する言葉と、段落の働きを一緒に読むと道筋が見えます。

三　観測と仮説と推定を区別する

正答： （1）観測　（2）仮説　（3）推定

（1）は観測した変化の記録、（2）はその変化を説明する仮の考え、（3）は情報を使った大きさの見積もりです。推定は当てずっぽうと同じではありません。どの情報や条件に基づくのかを確かめることで、その推定を検討できます。仮説も、まだ説明として検討する段階であり、根拠なしの思いつきと一括りにはしません。

四　繰り返すことが根拠になる理由

解答例： その惑星が一周して再び恒星の手前を横切るたびに光を遮り、減光が繰り返されるから。

別解例： 同じ惑星が恒星の周りを回るなら、一周するごとに前を通り、同じように光を遮るから。

〈一周する動き〉と〈再び手前を横切って光を遮ること〉の関係を示します。「一定だから一周の時間が分かる」だけでは、間隔と動きがどう結びつくかを説明できていません。これは惑星で説明する場合の仕組みであり、周期的なら原因が必ず惑星だという答えにはしません。

五　推定に必要な条件を読む

抜き出しの正答：恒星の大きさ

理由の例： 暗くなる割合からは恒星に対する惑星の大きさが分かるので、実際の大きさを求めるには基準となる恒星の大きさが必要だから。

比べる相手の大きさが分からなければ、比率だけで実寸は決まりません。本文の「恒星に対する」と「実際の」をつなぐことが要点です。数式を使う必要はありません。

六　留保が担う働き

正答： ア

第四段落は、暗い部分の見え隠れなどでも明るさが変わることを挙げています。別の説明を検討してから判断する必要があります。イは方法そのものを否定し、ウは周期の発見だけで検討を終え、エは確認する過程を無意味にしています。いずれも本文の範囲を越えます。

七　文章の要点を一文にする

解答例： 恒星の明るさが下がる変化を手がかりに、直接見えにくい惑星の存在や大きさを調べられるが、別の原因もあるため、観測と推定を分けて検討する必要がある。

別解例： 惑星の姿を直接写さなくても、恒星が暗くなる割合や間隔から存在や性質を調べられるが、その原因を惑星と判断する前に、別の説明も検討することが大切だ。

二つの要素を一文でつなぎます。原理の説明だけで終わらず、第四・第五段落の限界と確かめる過程を残します。逆に、注意だけを述べて、どのような方法なのかを消さないようにします。

八　短い速報を直す

選択の正答：ウ

周期的な減光は惑星の可能性を考える根拠になりますが、速報案の「確定した」は判断を強めすぎています。アは表面の様子を足し、イは根拠としての働きを消し、エは別の原因を既に除いたことにしています。

書き直しの例： 恒星が周期的に暗くなる変化を観測し、周回する惑星の可能性を考えているが、原因の特定にはほかの説明の検討も必要である。

〈周期的な減光を観測した〉ことと、〈原因をまだ特定していない〉ことを分けます。単に「確定」を「多分」に替えるだけでなく、何が分かり、何を検討する段階かを示すと伝わります。速報は架空の例であり、実際の研究発表を引用したものではありません。

第十二回　「冷たい」は気持ちだろうか

一　感情と相手への評価を分ける

正答： 上から、感情・状態／評価／感情・状態／評価／感情・状態／評価。

「寂しい」「困った」「腹が立った」は、ここでは話し手に生じた感じや状態を表します。「冷たい」「無責任」「勝手」は、相手の応答や行動に与えた評価です。冷たい水の温度など、語が異なる対象に使われるときは別に考えます。

二　評価の背後にありうるもの

正答： ア・イ・ウ

アとイは感情、ウは願いとして場面に合います。三つすべてが実際に生じたとは限りません。エも話し手が抱く考えとしてはありえますが、相手の内面についての断定であり、この問で選ぶ〈感情・願い〉ではありません。短い返事から悪意の有無は決まりません。

三　同じ返事を別の語で見る

解答例： 「冷たい」は配慮や親しみが足りないと受け取ったことに、「簡潔」は返事が短くまとまっていることに目を向けており、両方を同じ返事に使える。

「簡潔」と書けば冷たくないと証明できる、という関係ではありません。伝え方の短さを評価することと、関係の中でどう感じたかは両立します。好ましい言葉へ言い換えることだけを目標にしません。

四　評価を消さずに少し詳しくする

解答例： 返事が「今週は返事が難しいです」だけだったので、私は冷たいと感じ、寂しくなった。今週が無理でも、次に話せそうな時期を知らせてほしかった。

別解例： 今週は難しいという短い返事を冷たく感じて、関係が変わったのかと不安になり、いつなら相談できそうか一言添えてほしいと思った。

一文か二文で、冷たいと感じたこと、場面に合う感情、願いが残れば成立します。別解の「関係が変わったのか」は不安につながる考えとして示し、関係が実際に悪化したと断定していません。

五　別の評価語をほどく

B の例： 担当者が資料を渡して催しの二日前に参加を取りやめ、準備が間に合うか不安になった。資料の受け渡しだけで済ませず、残る仕事や引継ぎも相談してほしかった。

C の例： 共有棚の置き場所が相談なしに変わり、驚いて困った。場所を変える前に、使う人同士で相談してほしかった。

感情と願いは、課題として考えた可能性です。B について「資料を渡さなかった」、C について「棚を捨てた」など、本文と違う出来事へ変えません。担当者に事情があった可能性を考えても、引継ぎについて尋ねる言葉は残せます。

第十三回　短い返事が気になった

一　第一印象を残す

正答はありません。「明日話しましょう」に問題や怒りを感じる人も、単に今は時間がないと読む人もいます。あとから印象が変わっても、最初に何を手がかりにそう感じたかを残します。

二　記録と推測を分ける

正答： 上から、記録・記録・記録・推測・推測・記録。

九分後という内容は、三時三十二分と四十一分から計算できます。「明日話しましょう」は翌日の会話の提案です。何時に何を話すか、実際に会話が行われたかまでは決まりません。「重大な問題」「怒っている」は、返事に書かれていない判断です。修正箇所が示されていないことは、文面を見て確かめられます。

三　推測を加えず二文で記録する

解答例： 林さんが午後三時三十二分に説明会案内の修正版を今日中に確認してほしいと頼むと、木戸さんは九分後に「見ました。明日話しましょう」と返した。具体的に直す箇所や、今日中に対応が必要かどうかは、返事には示されていなかった。

別解例： 午後三時三十二分、林さんは見出しと申込方法を直した案内の確認を依頼し、木戸さんは午後三時四十一分に見たことと翌日話すことを伝えた。返事だけでは、どこについて話すのかは分からない。

頼んだこと・時刻・実際の返答が第一文に、未回答の仕事上の情報が第二文にあれば成立します。相手の気持ちを推測する文へ変えないことが条件です。

四　ほかの説明と確かめる情報

（1）の代表的な対応：予定＝A　案内とフォーム＝B　普段の長さ＝C。

予定は時間的な事情、書類の比較は話したい修正点、普段の返事は書き方の習慣を考える手がかりになります。現実には一つの情報が別の説明にも関わり、複数の事情が同時に成り立つこともあります。

（2）の例： 予定が空いていたことだけでは、修正点を口頭で話したかった可能性や、普段の書き方の可能性が残るので、怒っているとは決められない。

A の説明に合わない情報が加わっても、それだけで怒りが裏付けられるわけではありません。「A でないなら怒りだ」という二者択一にしないことが要点です。

五　不安と相手の感情は同じか

正答： エ

林さんの不安は、林さんが抱いた感情です。木戸さんが怒っていたかどうかには、別の根拠が必要です。アは不安の強さを相手の感情の証拠とし、イは相手の怒りが不明であることから林さんの感情を取り消しています。ウも、感じ方につながった言葉を確かめることまで不可能にしています。

六　尋ね方は目的で変わる

（1）の正答：ウ　（2）の正答：エ

ウは今日中の修正の有無、エは明日話す時間を尋ねています。イは問題があることを前提に理由を尋ねるため、いま知りたい作業の範囲が明確になりません。敬語の丁寧さだけでなく、何を質問の前提にし、何を答えてもらうかを比べます。

（3）の例： 木戸さんが怒っていることを、既に分かった理由として問いの前提にしている。

「怒っているので」と言うと、相手が怒っていることを前提にしてしまいます。相手の感情について尋ねること自体を一律に禁じるのではなく、この場面では根拠がなく、仕事上の確認点からも外れています。

七　短い返答を作る

解答例： 確認ありがとうございます。今日中に直す必要がある箇所があれば、その点だけ先に教えていただけますか。

別解例： 承知しましたが、今日中に対応すべき修正があるかどうかだけ、お知らせいただけますか。

受け取ったことと、今日中に必要な修正の有無が分かれば成立します。相手の感情や問題の大きさは決めつけず、急ぎの修正があるかに絞って尋ねています。

八　翌日の説明で分かったこと

（1）の正答：イ

会議直前で詳しく書けなかったこと、締切の不一致、ほかに大きな問題はないという説明が示されています。アは問題の範囲を案内全体へ広げ、ウは既に修正済みとし、エは怒りを抑えたという事情を足しています。ここでも「そう説明したこと」と、内面の推測を分けます。

（2）の例： 案内本文とフォームの、どちらの日付が正しい申込締切なのか。

別解例： 実際の正しい締切日を、何の記録や担当者に確認すればよいか。

不一致が分かっただけでは、どちらをどう直すかは決まりません。「フォームが間違っている」など、本文にない正誤を補わないことが条件です。二つの記録を照らし合わせることを「照合」といい、次回でも扱います。

九　最初の受け取りを振り返る

解答例： 会議直前だったと分かり、怒っているのではという心配は薄れた。ただ、短い返事では急ぐ修正があるか分かりにくかったという印象は残った。

別解例： 修正点が実際にあったので、最初の緊張は少し残っている。木戸さんがどんな感情だったかは、なお決められない。

翌朝の説明を踏まえて、受け取り方が変わった点や残った点を示せれば成立します。最初の不安を「間違っていた」と取り消す必要はありません。

十　距離を選んで整理する

A の例： 確認済み＝締切に不一致があると木戸さんが説明した。／不明＝正しい締切日。／次の行動＝正しい日付を確認して本文とフォームをそろえる。

B の例： 確認済み＝後日に扱いを相談するという返事があった。／不明＝写真を使ってよいか。／次の行動＝今日中に利用の可否だけ先に確かめられるかを尋ねる。

B の「確認しました」は利用の許可と同じではありません。第一部第二回の〈確認・許可・可能〉にもつながります。メモは例と違っても、記録で確認できたこと、未確定のこと、必要な行動を分けられれば成立します。C は言葉を選ぶだけで終えてかまいません。

第十四回　違和感を急いで消さない

一　まず受け取る

正答はありません。忘れた、説明がずれた、理由はまだ決められない、など、最初の受け取りをそのまま残します。

二　二つの言葉を並べる

解答例： 前のメッセージ「次の日曜の読書会に持ってきてもらえる？」／当日の説明「いつでもいいって言っていたと思ってた。」

返却の時期を比べられる箇所を、本文の表記のまま抜き出します。「次の日曜の読書会に」と「いつでもいい」など、食い違いが読み取れる範囲でも成立します。依頼を真帆がどう記憶したかは、これだけでは決まりません。

三　確かめられることと未確定なこと

正答： 上から、確か・確か・確か・未確定・確か・未確定。

真帆が本を持参しなかったことと、どう説明したかは場面に示されています。真帆は、裕子が「いつでもいい」と言ったと思っていたと説明しています。その発言と、実際に裕子がそう言ったかどうかを分けて読みます。完全に忘れたのか、異なる意味に受け取ったのか、取り繕ったのかという理由は未確定です。

四　いま言えるところまで書く

解答例： 裕子は次の日曜の読書会に本を持ってきてほしいと頼み、真帆は了解と返した。当日、真帆は本を持参せず、いつでもよいと言われたと思っていたと説明した。返す時期の食い違いが生じた理由は、まだ分からない。

別解例： 裕子は次の日曜の返却を頼み、真帆は鞄に入れておくと返した。しかし当日、真帆は本を持ってこず、裕子がいつでもよいと言ったと思っていたと話した。前の連絡と当日の説明が食い違った理由は、まだ確かめられていない。

三文で、事前の依頼と返事、当日の出来事と説明、未確定の理由を分けます。「約束を破るつもりだった」「勘違いだった」と、理由を先に確定しないことが条件です。引用符を使わずに内容をまとめてもかまいません。

五　違和感が示しているもの

正答： ア

返却時期の依頼と説明が合わない箇所は、次に確かめる手がかりになります。イは悪意まで裏付けたとし、ウは理由が不明なことから食い違い自体の手がかりを消しています。エは貸し借りをやめることを唯一の解決にしていますが、この場面から行動を一つには固定できません。

六　記憶を確かめる問いと行動を決める問い

（1）の例： 前のメッセージでは「次の日曜の読書会に」と頼んでいるけれど、このやり取りをどう覚えていた？

（1）の別解例：このメッセージを見たとき、返す時期はいつだと受け取っていた？

（2）の例： 伊藤さんに渡す日を相談したいのだけれど、いつなら本を返せそう？

（2）の別解例：次にいつ本を受け取れるか、日を決めてもらえる？

一つ目は記憶や受け取り、二つ目は今後の行動を尋ねます。「なぜ嘘をついたの」とすると、理由を確かめる前に、嘘をついたと決めつけてしまいます。例の丁寧さや語尾をまねる必要はなく、相手との関係に合う言い方を選べます。

七　別の記録でも照合する

（1）の例： 確か＝準備メモと配布チラシで、開場時刻が三十分違っている。／未確定＝実際に案内すべき開場時刻と、二つが違った理由。

「変更していません」と担当者が返したことも、記録にある内容です。ただし、どちらの時刻が正しいかを指定していないので、その返事だけでは案内を統一できません。誰が書き間違えたか、後で変更したかなども未確定です。

（2）の例： 準備メモは午後一時、配布チラシは一時三十分となっていますが、来場者にはどちらの時刻を案内すればよいですか。

別解例： 二つの案内で開場時刻が違うので、正式な時刻と、直す必要のある案内を確かめてもらえますか。

食い違いを示し、案内に必要な情報を尋ねます。間違えた人を先に決めず、どの記録にそろえるかを確かめるところが、本の返却の場面と共通します。

八　見方を増やすことと感覚を消すこと

正答： エ

アは別の可能性から違和感を取り消し、イは違和感を説明の不正確さの証拠とし、ウは理由が未確定だと返却日も決められないとしています。

相手の意図が未確定でも、返却日を調整したり、今後の貸し出しの条件を伝えたりできます。関係をどう続けるかも、この問題の唯一の正答としては定めません。

第二部の終わりに

起きたことと、そこから受け取ったことの間には、
ときどき、すぐには埋まらない幅があります。

その幅を見つけても、最初の気持ちを捨てる必要はありません。
別の見方に気づいても、違和感を急いで消す必要はありません。

確かなことを確かめ、分からないことを分からないまま残し、
必要なら、確かめたいことを相手に尋ねる。
第二部でほどいた糸を、今度は相手とのやり取りの中でたどります。

□□■□ 第三部　言葉を交わす

第十五回　聞いてほしい？ 意見がほしい？

一　返答の中心を見分ける

正答： 上から、共感・聴く・助言・一緒に取り組む。

（1）は悔しさに近づく言葉、（2）は話を続けてもらう問い、（3）は方法の提案、（4）は一緒に作業する申し出です。（4）にも提案の働きはありますが、ここでは本人と一緒に動く点を中心にしています。言葉の働きを一つに固定する分類ではありません。

二　いま求めているもの

正答： エ

莉奈は出来事と引っかかりを話しましたが、聴いてほしいのか、意見や具体策がほしいのかまでは述べていません。何を求めているかは、話の続きを聞いたり、本人に尋ねたりして確かめられます。

ア・イは助言や共同作業を望むと補い、ウは今後も助言を望まないと広げています。「まだ述べていない」と「本人の中で決まっていない」も同じではありません。

三　決めつけずに返す

正答： ア

アは残っている引っかかりを受け取り、話を続けるか意見を聞くかを尋ねます。イは成功を保証しながら助言へ、ウは考えるのをやめる方向へ、エは会話を終える方向へ、莉奈の希望を確かめる前に決めています。毎回この問い方が必要ということではなく、今は返答の希望が読み取れない場面です。

四　希望が分かったあと

正答： イ

「一緒に見てほしい」「追加料金の条件がよく分からなくて」が根拠です。アは希望が示されたあとも比較を遅らせ、ウは必要な条件確認より先に契約を進め、エは一緒に比べる希望に応えていません。話を聞くことだけを、いつでも最善の応答とはできません。

五　相談する側から希望を伝える

アの例： 仕事を続けるか迷っているんだけれど、今日は結論を出さずに、少し話しながら整理したい。聞いてもらえる？

イの例： 写真講座を二つ見つけたんだけれど、一緒に日程と費用、内容を比べてくれない？　自分に合う方を考えたいんだ。

アは今は決めずに話すこと、イは比較を一緒に行うことが伝われば成立します。相談の希望は、途中で変えてもかまいません。希望がまだ分からない場合に、そのまま伝える言い方もあります。

第十六回　頼むとき、何を伝えるか

一　相手が判断するための情報

正答： ア・イ・ウ・エ・カ

確認箇所、期限、分量、期限の理由、難しい場合の返し方があれば、相手は作業の内容と負担を見積もれます。送り手が何度読み返したかは、今回の依頼を引き受ける判断には直接関係しません。理由や分量は、すでに共有している場合には省けることもあります。

二　丁寧さと明確さを比べる

正答： ウ

ウは分量と確認箇所、木曜午後三時までという期限、金曜会議で使う目的を示し、難しい場合は相談できます。アは期限と見る範囲が曖昧です。イは必要な情報があっても「必ず」として相談の余地を閉じ、エは依頼する側が絞るべき作業を相手の判断に預けています。丁寧語の多さや長さだけでは選べません。

三　必要な情報を残す

正答： ア・イ・ウ・エ・オ

日時、作業、目的、人数と所要時間の見込み、難しい場合の返答期限が必要です。ポスターの色と椅子の購入年は、今回の依頼を引き受ける判断にはつながりません。

四　地域での依頼を書く

解答例： 日曜の九時から九時半までの間に、倉庫の折り畳み椅子二十脚を集会室へ運んでもらえますか。十時からの企画会議のためで、もう一人と二十分ほどの作業を見込んでいます。難しい場合は、金曜日までに知らせてください。

別解例： 日曜日の十時から使う集会室の設営をお願いできますか。九時から九時半の間に、もう一人と倉庫の折り畳み椅子二十脚を運ぶ、二十分ほどの作業です。難しければ、金曜までに教えてください。

三文か四文で必要な五つの情報が伝われば成立します。「九時から」だけでなく九時半までの枠も残すと、引き受ける側が後の予定を考えられます。二十分は見込みであり、必ず二十分で終わるという保証にはしません。

五　遠回しな依頼を具体的にする

（1）の例： 何をどこへ出すのか。何時までに出すのか。

「資源ごみ」だけでは対象を特定できず、期限も書かれていません。亜希の予定をまだ確かめていないことも、引き受けられるかを決めるための不足です。圭の私的な予定を詳しく伝える必要はありません。

（2）の例： 明朝、玄関横の紙袋二つを八時までに集積所へ出せる？　難しければ今夜教えて。

（2）の別解例：明日は六時半に出るので、玄関横の紙袋二つを八時までに集積所へ出してもらえると助かる。都合が悪ければ、今夜のうちに別の方法を相談しよう。

対象・場所・期限が明確で、亜希の都合や返答の余地を残せば成立します。引き受けることを既定の事実にしません。

六　共有していることは省ける

正答： ア

前夜に対象・場所・分担を共有しているため、短く確認できます。イの再説明が常に悪いわけではありませんが、この設定では重複します。ウは変更の連絡を不要とし、エは変更の相談を認めていません。省略できるのは、相手も既に知っている情報です。

七　相手が知っていることに合わせて書く

（1）の例： 四月号の二ページ分について、開催日と申込先の電話番号を確認していただけますか。火曜日に印刷所へ渡すため、月曜日の正午までにお返しいただけると助かります。難しい場合は、確認できる範囲と返せる時刻をお知らせください。

初めて一緒に仕事をするため、対象や期限を共有済みとは考えずに書きます。確認箇所を「誤りがないか」と補っても、元の作業を広げなければ成立します。依頼から書く順序、目的から書く順序のどちらも可能です。

（2）の例： 例の会報は、月曜の正午までにお願いします。難しければ、確認できる範囲と返せる時刻を教えてください。

共有した内容を受ける言葉で対象を示し、今回の期限と返し方を残せば、短い依頼でも判断できます。

第十七回　読んだことを、自分の言葉で伝える

一　何を中心に述べる文章か

正答： イ

江戸の商業出版で木版が使われ続けたことを、増刷と仕組みの関係から説明しています。アは中心だった印刷法を逆にし、ウは目的による違いを技術全体の優劣へ広げています。エは、比較することで利点が見えるという本文の筋を消しています。

二　二つの仕組みを短いメモにする

（1）の例： 木や金属などの活字を並べ、印刷する面を組み立てる作業。

（2）の例： 活字＝並べ直して別の本に使える。／版木＝文字や絵の配置が残るため、同じ本を増刷する際に使える。

同じ「再び使う」でも、活字は文字を別の配列へ組み直し、版木は同じ印刷面を残して使います。「活字は使い捨て」「版木はどんな本にも使える」と取り違えないようにします。

三　要約に欠かせない情報を選ぶ

正答： ア・ウ・オ

アが説明する対象、ウがその仕組み上の利点、オが本文から得られる観点です。イの固有名は本文になく、エは本文と逆です。カは第五段落の留保を消しています。第三段落の組版の手順は、説明の詳しさに応じて省けても、二つの利点の違いまで消さないようにします。

四　二文にまとめる

解答例： 江戸の商業出版では、版木を保存すれば同じ本をあとから増刷できる木版印刷が、活字の使用後も中心だった。活字を別の本へ組み直せる便利さとは異なるこの利点から、印刷法は新旧だけでなく、何を繰り返し作るかとも関わって選ばれたと分かる。

別解例： 江戸では、同じ本を増刷する際に保存した版木を使えることが利点となり、活字の使用後も木版が商業出版の中心だった。別の本に組み直せる活字との違いから、技術の利点は新しさだけでなく、同じ本を繰り返し届ける目的とも結びつくと分かる。

木版の位置・増刷の利点・活字との違い・目的との関係を残します。「増刷できるから木版だけになった」とはせず、「とも関わる」などで一つの理由として扱います。二文は要点を分けるための条件であり、一文より常に分かりやすいという意味ではありません。

五　一文にまとめ直す

解答例： 江戸の商業出版で活字の使用後も木版が中心だった理由の一つに、版木を使った増刷のしやすさがあり、技術の利点は作る目的と関わっていた。

別解例： 江戸の商業出版で活字の使用後も木版が中心だったことは、版木を残して増刷できる利点と関わり、技術の価値を新しさだけでは決められないことを示す。

一文では組版の手順を省いています。残すのは本文を貫く関係です。第五段落の留保を示すために、考えられる理由をすべて挙げる必要はありませんが、「唯一の理由」「必ず」と強めないことが必要です。

六　短くしたときの変化を点検する

正答： エ

根拠の例： 第一段落は木版が「中心」といい、第五段落は「この理由だけで説明し尽くせるわけではない」と限定している。

中心であることは、ほかの方法がなくなったことと同じではありません。増刷の利点も、すべての出版社の選択を一つの原因だけで説明する根拠にはなりません。アは第二段落、ウは第三段落に沿う内容ですが、要約案のような過剰な一般化ではありません。

> 第 11 回の要約と比べる　第 11 回で残したのは、減光の観測だけでは原因が惑星だと決められないこと。ここで残すのは、増刷の利点が木版を使い続けた理由の一つだということです。

七　初めて知る人へ説明する

解答例： 活字は文字を並べ替えて別の本にも使えますが、ばらすと同じページを組み直す手間がかかります。版木なら文字や絵の配置を残せるため、同じ本を増刷する出版では利点があったのです。

別解例： 木版は文字や絵を板に彫る方法で、板を残せば同じ本をまた刷れます。活字は別の本に使えても、ばらした後は元の配列を組む仕事が要るので、繰り返し同じ本を作るときは木版にも利点がありました。

活字の便利さを否定せず、別の本へ組み直すことと、同じ本を再び刷ることを分けます。用語を知らない人に向けて「文字を並べ替える」「板に彫る」などを補えます。単に要約を長くするのでなく、疑問を解くために仕組みを示しています。

八　読み手の疑問に合わせる

解答例： 同じ本をあとから増刷するためです。版木には文字や絵の配置が残るので、保存しておけば、活字をばらした場合のように、同じページをもう一度組み立てる仕事をせずに刷れます。

別解例： 必要なときに同じ本を追加で刷れるよう、版木を残しました。板に文字や絵の配置も残っているため、保管するのは木材だけでなく、もう一度印刷するための形でもあったのです。

「増刷するため」という目的を先に伝え、配置を残すこととつなげれば成立します。第４・５回の「保存／保管」も読み返せます。版木をどこに収めるかに目を向けるなら保管、文字や絵の配置を再び刷れる形で残すことに目を向けるなら保存です。

第十八回　断るとき、どこまで話すか

一　四つの返答を比べる

正答： （1）B　（2）C　（3）D

Bは「難しいかもしれない」「また分かったら」と述べ、決まっている断りを未定のように見せます。Cは家族の通院など私的な内容まで説明しています。この場面の断りには「予定がある」で足り、本人が話したいなら、詳しく伝えてもかまいません。Dは実際の希望と可能な日があるときの代案です。

二　短い断りも成立する

正答： ウ

Aには感謝、行けない結論、予定がある理由があります。アは短い理由では結論が伝わらないとし、イは代案がないことから今後の意思を決めています。エも感謝を述べたことから、私事をすべて説明する義務を足しています。

三　言わない部分を残して伝える

（1）の例： 必要な結論＝その日の勤務を交代できない。／選べる内容＝外せない予定の詳しい中身。

（2）の例： 声をかけてくれてありがとう。その日は外せない予定があるため、勤務の交代は引き受けられません。早めに別の人へも相談してもらえると助かります。

（2）の別解例：その日の交代はできません。私用の内容は控えますが、今回は引き受けられないものとして調整してください。

交代できるかを相手が判断でき、本人が話したくない私事を詳しく伝えなくても成立します。感謝や謝罪の有無だけで正誤を決めません。正式な職場制度を説明する問題ではなく、この同僚への返答の範囲を考えています。

四　削っても中心を残す

解答例： お声がけありがとうございます。土曜の朝は予定があるため、今回は受付を引き受けられません。

別解例： 今回は受付を引き受けられません。土曜の朝は予定があり、戻れる時刻も決められないためです。

受付を引き受けられない結論と、予定がある理由を残します。親戚を迎えること、家の用事の内訳、繰り返す謝罪は省けます。返答が短くても、結論を「難しいかもしれない」へ戻したり、実行できない代案を加えたりしないことが条件です。

五　代案を示せる条件

正答： ア・ウ

どちらも、全体は引き受けられなくても、実際にできる範囲を示しています。イは会う意思がないのに約束し、エは紹介先がないのに保証しています。断る返事だけでも伝わります。代案は、実際にできることがあるときに添えられます。

六　結論が伝わらない返答

正答： C　待たせる言葉：「前向きに検討します」「もう少し待ってください」

検討や返答がまだ続くように見えます。本当に検討中なら同じ言葉が成立する場合もありますが、ここでは本人は断ると決めています。A・B は短くても、今回できないことは明確です。

七　関係の異なる場面で書く

アの例： 誘ってくれてありがとう。今回は行けません。別の日についても、今は約束できないんだ。

イの例： 今日中の資料作成は引き受けられません。期限に間に合わせる必要があるなら、別の方にも相談してください。

ウの例： お声がけありがとうございます。半年間の係はお引き受けできません。今回は担当に含めず進めてください。

二文か三文で、選んだ場面の結論が明確なら成立します。別の日を知らせる約束や、代わりの人を探す約束を、丁寧さのためだけに足す必要はありません。

第十九回　「分かる」と「賛成」は同じ？

一　四つを区別する

正答：（1）理解　（2）共感　（3）同意　（4）賛成

（1）は理由をつかみ、（2）は落ち着かない感覚に近づき、（3）は「土曜は混みやすい」という認識を共有し、（4）は提案を支持しています。日常語では境界が重なるため、ここでは各文の中心で分けています。

「同意」と「賛成」は実際には重なる語です。この回は辞書的な境界を絶対化せず、認識を共有することと、提案を支持することに分けて読んでいます。

二　一語だけでは決まらない

正答：エ

直人の「分かるよ」は、結衣の内容や感覚を受け取った可能性を示しますが、どこをどう受け取ったかは一語だけでは決まりません。アは理解の程度まで、イは感覚の一致まで、ウは自分の希望を変えたことまで補っています。

三　理解した点と異なる意見を伝える

正答：イ

直人が心配する理由を受け取り、結衣は候補から当日選ぶ立場を残しています。アは自分の希望を消し、ウは相手の楽しみ方を評価しています。エは直人も当日に決めたいという、本文と違う一致を作っています。

四　別の場面でも理解と異論を伝える

解答例：資料を読む人には、今より明るい方が見やすいという理由は分かります。一方で、私は休憩室には目を休められる明るさも残したいです。手元だけを明るくする方法も比べたいと思います。

別解例：資料を読むには明るい方がよいという考えは理解できます。ただ、私は今の落ち着いた明るさを残したいので、部屋全体を明るくすることには賛成できません。

甲の理由を正確に受け取り、乙の異なる立場が明確なら成立します。代案は必須ではなく、相手の納得を保証するものでもありません。

五　尊重は賛成と同じか

正答：ウ

理由の理解と、提案への支持は別に示せます。アは理解から賛成を必然とし、イは異論を持つことから理解を不要としています。エは共感を理由に違いを示すことを止めています。相手の理由を聞いても、自分の異論を取り下げる必要はありません。

第二十回　正しいことを、いつ言うか

一　最初に受け取ったもの

正答はありません。「途中で帰った人」「うまく進められなかった感じ」「今日はまず」など、気になった箇所をそのまま残します。後の検討によって、最初の受け取りを誤りとして消す必要はありません。

二　記録から確かめられること

正答： ア・イ・エ・カ

予定の合計は五＋二十五＋二十五＋五で六十分です。機器接続の八分、途中の質問、十八分の延長は記録にあります。ウは退室の理由を、オは質問が出たことから全員の理解を決めています。八分の接続時間を、そのまま十八分の遅れのすべてとはできません。

三　希望が分かるところと分からないところ

（1）の正答例：「今日はまず、少し聞いてもらってもいい？」

（2）の例： 次回案をいつから一緒に検討してほしいか。

（2）の別解例：明にどこまで助言や共同作業を求めているか。

（1）は発言の表記に合わせます。「今日はまず」が、今の会話の希望を示しています。（2）では、今後も助言を一切望まない、次回案を明に作ってほしい、などと補わないことが条件です。来週までに必要なことと、今すぐ取り組みたいことを分けます。

四　指摘と提案と評価を分ける

正答： 上から、記録に沿う指摘・記録に沿う指摘・根拠のない評価・根拠のない評価・改善の提案。

（1）（2）は予定や当日の記録から言えます。（3）は質問した人へ責任を集中させ、（4）は一度の教室から適性全体を決めています。（5）は検討可能な方法であり、実行済みの事実や唯一の解決策ではありません。

五　四つの返答を二つの面から読む

（1）の正答：まず聞く＝A・D　気持ちを決める＝C

A は残っている感じを受け取り、D は流れを聞くとともに、次回案を考える時期はあとで相談しようとしています。C の「参加者もきっと気にしていない」は記録では確かめられません。安心させる意図があっても、参加者の感情が分かったことにはなりません。

（2）の例： 予定に余白がない点に着目する根拠はあるが、それだけを原因と決め、機器の接続や途中の質問などの要素を落としている。

「予定を詰めたことだけが原因だと思う」は意見の形ですが、「だけ」で原因を一つに絞っています。B はすぐに助言をしているので、その時点で香奈が助言を求めているかも確かめたいところです。指摘のすべてを誤りや攻撃とする答えにはしません。

六　正しさと時機を分ける

正答： イ

妥当な指摘でも、伝える順序や相手の今の希望は別に考えられます。アは内容が正しければ必ず最初に指摘すべきだとし、ウは今は待つという選択を、後にも意見を伝えないことに変えています。エは順序への配慮が、内容の正しさまで保証するとしています。

七　最初の返答を作る

解答例： 準備した分、うまく進められなかった感じが残っているんだね。今日は、どのあたりから話したい？　まず聞いて、事実も一緒に整理したくなったらそうしよう。次回案は、いつ考えるかあとで相談しよう。

別解例： 時間を延ばしたことや、途中で帰った人のことが気になっているんだね。今は昨日の流れから話したい？　それとも、気になっている場面から聞く方がいい？　来週の次回案のことも、今日は少し聞いてから、取りかかる時期を一緒に考えよう。

三文か四文で、受け取り・今話したいことの確認・後の検討の余地があれば成立します。香奈が必ず落ち着くと保証したり、原因を先に一つにしたりする必要はありません。

八　時機が変わったことを読む

正答： ア

「今日は次回案を見てほしい」「何を変えたらいいと思う」と希望が明示されています。イの全員の感想、ウの原因の確定、エの提出の不要は書かれていません。前日と同じ記録も、求める応答が変われば助言の材料になります。

九　いま求められた助言を選ぶ

正答： エ

エは予定の合計を確かめ、時間配分と機器確認という検討可能な方法を並べます。アは半分にすれば必ず収まると保証し、イは退室の理由を決め、ウは改善の材料となる前回の記録を捨てています。提案の数だけでなく、根拠と相談できる形を見ます。

十　必要な指摘を含む返答を書く

解答例： 予定を足すと六十分ちょうどで、遅れを吸収する時間がないね。説明を少し短くして余白を作る案と、機器の接続を事前に確かめる案が考えられる。まずどちらを次回案に入れられそう？　試しに通してみて、質問時間も足りるか確かめよう。

別解例： 説明の途中にも質問が出たという記録があるね。次は途中に質問を受ける時間を設け、その分も含めて六十分の配分を組み直す方法はどうかな。説明を減らす案と比べ、内容を保ちやすい方を一緒に選びたい。

三文か四文で、確認できること・改善案・選ぶ余地を残します。機器接続や質問の時間が、それぞれ遅れの何分を占めたかは分かりません。提案を試し、所要時間を確かめる余地も残せます。

第二十一回　意見が違うとき、どう話すか

一　まず二つの意見を受け取る

正答はありません。最初にどちらへ近さを感じたかを残す問いです。「まだ決められない」でもかまいません。

二　共通する目的

正答： エ

利用しやすさを求める点は共通していますが、重視する使い方は違います。ア・イは一方の手段を共通目的にしています。ウは全員一致という条件を加えています。目的を共有することは、同じ使い方に賛成することと同じではありません。

三　記録にあることと判断を分ける

正答： 事実＝（1）（3）（5）　意見や判断＝（2）（4）（6）

席数・満席だった回数・寄せられた意見の件数が記録にあります。（5）は「集中しにくいと感じた人がいた」という意見の記録であり、全員が集中できなかったと示すものではありません。（2）（4）（6）は、その情報からどう使うべきかを考える判断です。

四　根拠が支える範囲

正答： ア

四件と三件は意見の件数で、全利用者に尋ねた結果とは書かれていません。同じ人が複数の意見を出したかも不明です。イは件数を全体の過半数へ広げ、ウは意見件数を利用者数と同じにし、エは意見の件数が少ない側の必要性を無視しています。

情報と理由の例： 会話を必要とする人が、ほかの曜日や部屋を使えるか。火曜夜を静かにした場合の影響を比べるため。

別解例： 集中しにくいという意見が、どの席や時間帯の利用から出たか。声や席を分ける案で改善しそうか確かめるため。

新しい調査結果を作るのではなく、どの判断に必要な情報かを結びつけます。すべての情報が集まるまで何もできない、と一律に決める必要もありません。

> 第９回に戻る　第９回の問四では「十回のうち八回」と、全体も分かります。ここで示されるのは寄せられた意見の件数です。二つの記録で、何を全体として数えられるかを比べてみましょう。

五　提案と理由を保って要約する

水野さんの例： 閲覧室が満席になることが多いため、火曜夜の多目的室を静かに使う時間とし、利用者が集中できる場所を前もって確保したいと提案している。

岡田さんの例： 夜に数人で話せる別の場所が少ないため、多目的室の会話できる利用を残し、声の大きさや席の分け方を工夫して調整したいと提案している。

選んだ人の提案と理由が残り、相手が言っていない範囲まで広げていなければ成立します。水野さんを「常に会話を禁止したい」、岡田さんを「静かな利用は不要」とはまとめません。第17回では、増刷の利点を理由の一つとして残しました。ここでは、賛否を述べる前に、相手が何を理由にどの範囲の変更を提案したかを要約します。

六　相手の意見を正確に受けとめ、異論を伝える

正答： イ

閲覧室が満席になることが多いという理由と、火曜夜に限る提案を受け取っています。後半は、夜に話せる場が少ないという懸念と、会話を残す工夫を示しています。アは「いつもすべて」と禁止の範囲を広げ、ウは未確認の案で全員が納得するとし、エは水野さんの内面を決めています。

七　ずれた異論を書き直す

対応の正答：ア＝①　ウ＝②　エ＝③

書き直しの例： 閲覧室が満席のことが多いから、火曜夜の多目的室を静かに使う時間にしたいのですね。夜に話し合える別の場所も少ないので、私は声の大きさや席の分け方を工夫して会話の場を残したいです。

別解例： 閲覧室の混雑を踏まえて、火曜夜を静かな時間にしたい理由は分かります。ただ、多目的室には交流の役割もあるので、私は火曜夜の会話をなくすことには賛成できません。

相手の目的・理由・提案範囲を正確に扱い、自分の異論を示す二文なら成立します。感情に触れること自体が誤りなのではなく、相手が示した理由や範囲を小さくしたり広げたりしないことが条件です。

八　二つの意見を踏まえて書く

水野さんを支持する例：二人とも、多目的室を利用しやすい場所にしたいと考えています。会話を残す側が、夜に話せる場所の少なさを重く見る理由も理解できます。それでも私は、火曜夜を静かな利用時間にする案を支持します。閲覧室が四回のうち三回満席で、集中できる場所を増やす必要があると考えるからです。ただし、会話する人がほかの曜日や場所を使えるかは、決める前に確かめたいです。

岡田さんを支持する例：利用しやすい部屋にしたい目的は、二人に共通しています。閲覧室の混雑から、集中できる時間を増やしたい理由も分かります。私は、交流の役割を持つ多目的室では、火曜夜にも会話できる利用を残す方を支持します。夜に話し合える場所が少ないという点を重く見るからです。ただし、席を分けるだけで声の問題を減らせるかは、試す前に確かめたいです。

決定を保留する例：二人とも、利用しやすい場所にすることを目指しています。私は今の記録だけでは、どちらの使い方を選ぶか決めずにおきたいです。静かな閲覧室の混雑も、会話できる別の場所が少ないという説明も、無視できないからです。まず、ほかに使える部屋や時間を調べ、席を分けた場合に声がどこまで届くかも確かめたいです。その結果を見てから、試す方法と期間を相談したいと思います。

四〜六文で、共通目的・異なる側の重点・自分の立場と理由・未確認のことや懸念が示されていれば成立します。保留する場合も、判断しない理由と次に必要な情報を示します。合意や中間案へ必ず到達させる問いではありません。

九　合意しないまま記録する

正答： ウ

二つの提案と理由を残し、結論は調査後に持ち越すと明記しています。アは合意と実施方針を作っています。イは両方の提案と未決定を残していますが、閲覧室の混雑と会話できる場所の少なさという別々の理由を共通の目的にまとめています。エは未決定であることを理由に大切な根拠を消しています。会議末のメモに、調査へ進むことと、利用方法が未決定であることが示されています。

第三部の終わりに

こちらが言い方を選んでも、相手がどう受け取るかは、その人にゆだねられています。

同じ内容でも、先に聞くか、尋ねてから言うか、今日は待つかで、届き方は変わります。

配慮しながら断ることも、理由を理解しながら反対することもできます。

二つの意見が並んだまま、すぐには結論が出ないこともあります。

その間は、言葉が足りなかったしるしとは限りません。

相手の言葉が残り、自分の言葉も消えず、もう一度考える余地がある。

その余地の中で、次は、自分の言葉を少しずつ育てていきます。

□□□■ 第四部　自分の言葉を育てる

第二十二回　思い出は、どこから始まる？

一　まず入口を受け取る

正答はありません。B の「羊羹」に目が向いた、D で器の形がそのあとどうなるか気になった、など、選んだ入口とそのきっかけを残します。

二　どこへ光が当たるか

正答：（1）A　（2）C　（3）B　（4）D

A はいつ何をしたか、C は講師の声、B は土の形、D は手と器の動きが先に届きます。続く文章で視点を変えることもできます。

三　入口から先を考える

正答：イ・エ

D は親指と縁の動き、C は講師の言葉から始まります。どちらも、そのあとの展開までは定めていません。アとウは、最初に選んだ入口から先の書き方を限定しすぎています。

四　要約から一場面へ近づく

解答例：指を置くと、土の冷たさが指の腹へ移った。回転台はゆっくり回り、指を離すと、土も一緒に遠ざかるように見えた。

別解例：器の縁が、片側だけ下がった。講師が湿らせた海綿を手渡してくれたので、私はそれを器の内側にそっと当てた。

一つ目は土の冷たさと回転、二つ目は縁の変化と海綿を使っています。選んだ細部が同じ場面の中でつながっていれば、動作を補っても成立します。

五　同じ場面の入口を変える

書き出し一の例：午後五時の鐘が鳴った。作業を終えた人たちが、木箱を軒下へ運び始めた。

書き出し二の例：手袋の親指が赤く染まっていた。手を広げると、木箱のトマトよりずっと水っぽい色だった。

一は音から作業の終わりへ、二は手元の色から収穫の感触へ入ります。違いを説明するときは、どちらが上手かより、先に何が見えるかを言葉にします。

六　題材との距離を選んで試す

イの例：時刻表の端が、風で支柱に当たって鳴った。帰りの欄を指でたどると、最後の一本に小さな星印が付いていた。

音と指の動きから、帰りの便を探す場面へ入った例です。何時に着いたかを説明して始めても成立します。選んだ題材の中で、最初に見せたいものと書き出しが結びついているか確かめます。

第二十三回　「好き」の理由は、あとから見える

一　気になった言葉を拾う

正答はありません。「低い音だけ」「途中で手を止めず」などに目が向くと、静けさにも、作業を続けられる心地よさにも気づけます。

二　具体的に何を書いているか

正答： B＝ア　C＝イ

B には音と流しの見え方、C には電話が少ないことと弁当箱を並べ続けられることが書かれています。ウの設備費用はどちらにもありません。

三　傘を気に入った手がかり

正答： イ

一は透ける光と雨粒の乾いた音、二は軽さ、まとめやすさ、玄関の箱への収まり方です。アの購入の経緯、ウの軽さの仕組みは出てきません。エは置き場所を示す文章と音を描く文章を逆にしています。

四　特徴から書いてみる

湯飲みの例： 指をかけると、胴の浅いへこみに親指が収まる。持ち上げても、厚い縁のところだけはすぐに熱くならない。

楽器の音の例： 低い音が止んだあとも、弦の震えが木の箱に残る。耳を近づけると、消えかけた音がもう一度戻ってくるように聞こえる。

その物や場面に結びつく具体的な特徴が、二文か三文で見えていれば成立します。実用上の理由も、感覚に関わる理由も書けます。

五　好きという言葉を戻す

湯飲みの例： 急いでいる朝にも手になじむところが好きだ。

楽器の音の例： 音が止んでからも、しばらく耳を澄ませていたくなる。

前の文を受けて好みの中身が見えれば成立します。書いてから理由に気づくことも、うまく一つには絞れないこともあります。

第二十四回　感じに近い言葉を探す

一　目が向いたところを比べる

正答例： 色の際立ち＝「鮮やかな朱色」　光り方＝「鈍く光っている」　場所の様子＝「ひっそりとしている」

A は傘、B は手すり、C は路地を描いています。「鮮やかな朱色の傘」「手すりは鈍く光っている」など、何をどのように描いているかが分かる範囲で抜き出してもかまいません。

二　色と光の言葉を分けて読む

正答： ウ

「鮮やか」は朱色の目立ち方、「鈍く」は手すりの光り方にかかります。「淡い青」は色合いを示し、空の面積や光量までは決めません。アは意味を狭めすぎ、イとエは語がかかる対象を取り違えています。

三　一語を替えて読み比べる

朱色の例： 「鮮やかな」では絵の中で色が際立つ感じがあり、「濃い」では色そのものの強さや深さに目が向く。

路地の例： 「静かだ」は音や動きが少ない様子を広く表せる。「ひっそり」には、人目につかず、辺りに気配が少ない感じも重なる。

色が濃く、同時に鮮やかに見えることもあります。「静か」と「ひっそり」も重なります。この場面での焦点の違いを説明できれば成立します。

四　言葉に合う描写を選ぶ

正答： エ

エは、人影のない路地と壁に寄りかかる傘という細部を補って、「ひっそり」とした気配を伝えています。アは段の数、イは色の対比、ウは手すりの反射を中心にしています。実際に音がなかったと絵だけから確定する問いではありません。

五　絵の一角を描く

解答例： 石段の上で、朱色の傘だけが鮮やかに浮かんでいる。その向こうの空は淡い青で、段の端から空まで目を移すと、赤い丸がしばらく目の奥に残るように見える。

別解例： 軒下に、畳んだ傘が一本ある。ぬれた布の先が石に触れていて、手すりには鈍い光が残っている。誰かがさっきまでそこにいたような感じがする。

一つ目は色の対比、二つ目は光と物の気配に目を向けています。別解で布の先が石に触れる様子は、場面に合うよう想像で足した細部です。「誰かがさっきまで」は描写から受け取った感じとして書いています。

第二十五回　借りてきた言葉、自分の言葉

一　標語の働きを読む

正答： ア

「余白」は、朝の暮らしの中に一息つける時間があるという印象を伝えます。営業時間、受け取り時間、過ごせる時間の長さは、標語だけからは分かりません。

二　利用を判断するための情報

正答： ア・イ・エ

営業中か、待つ時間があるか、持って行けるかを確かめます。「五分ほど」は目安です。店内で飲む場合には、席数も判断に関わります。

三　広く使える言葉の中身を確かめる

正答：「人とのつながりを大切にしながら」「自分らしく成長していきたい」

「人とのつながり」「自分らしく成長」など、何を指すかを確かめられる範囲の抜き出しも成立します。月に一度の参加や質問の用意は、その人が示したい具体的な行動です。

四　書き手の情報に沿う表現

正答：イ

参加の頻度、初参加の人への質問の用意、聞くことを大切にする姿勢が残っています。アは自分の意見を伝える方向へ、ウは意見をまとめる係へ、エは質問を受けて先に説明する方向へ内容を変えています。

五　抽象語に具体的な中身を添える

解答例：人とのつながりを大切にしたいと思い、月に一度、地域の読書会に参加しています。初めて来た方が話しやすいよう、質問を二つほど用意し、答えを急がずに話を聞くようにしています。

「つながり」が、参加や人の話を聞くことと結びつけば成立します。三点をすべて同じ順序で入れる必要はありません。

六　言いたい範囲を保つ

正答：ウ

紙を残す提案と、掲示で予定を知る住民がいるという理由を保っています。アの利用者減少、イのウェブへの一本化、エの掲示場所の増設は、この書き手が示した内容を越えています。

短い標語の例：紙でもウェブでも、必要な人へ届く案内を。

同じ考えを会議に出すときは、ウのように何を残すかと理由を示します。

七　自分が伝えたい範囲へ整える

アの例：分からない点は早めに尋ねます。引き受けた作業は、期限までに終えられるよう進めます。

イの例：私にとって安心できる修理店です。入口に段差がなく、直す前に費用の見込みを説明してもらえます。

アでは「何事にも挑戦」を、本人が心がける二つの行動に替えています。イでは「安心」を残して、出入りのしやすさと費用の見通しを添えています。語の選び方と、読み手に伝えたい内容が合えば成立します。

第二十六回　まだ分からないことを書く

一　最初に残ったもの

正答はありません。壁の白い跡、返却口の音、鞄を確かめる手など、読み終えて残ったものを自分の言葉で記します。

二　本文に書かれていること

正答： ア・ウ・エ

新館には段差がなく、書き手は前より楽だと感じ、旧館の文字は外されています。書き手は不便さへ戻りたいとは述べていません。また、旧館へ歩いた理由を返却口の音一つに決めていません。

三　同時にある感覚を読む

（1）の例： 新館では段差がなく、利用しやすくなったと感じている。その一方で、もう通らない入口や、そこへ通った日々に関わる何かを惜しく思っている。

（2）の正答：「懐かしいとは思う。けれど、戻りたいわけではない。」

二つの感じが同時にあります。「懐かしい」は、以前の不便さも取り戻したいという希望とは限りません。抜き出しでは第四段落の句読点も保ちます。

四　言い切れる範囲

正答： エ

第二段落では新館の方が楽だと述べ、第四段落では建物、道順、返却口の音を候補として残しています。アは懐かしさから希望を決め、イは惜しさを消し、ウは既に述べた感じまで未確定にしています。

五　結びの働きを比べる

正答： A＝②　B＝①　C＝③　D＝④

A は「大切なのだと分かった」と教訓を示します。B は惜しんでいるのは道順かもしれないと考え、C は何を決められないかを言葉にします。D では信号、手、窓へ戻り、読み手が場面にとどまります。

六　付け足した結論の強さを読む

正答： ア

追加段落は「学んだ」「大切だ」「成長していきたい」と述べ、迷いに向き合っていた語りに教訓を与えます。設備や場面の細部を補う文ではなく、惜しさの候補を増やしてもいません。本文に沿う結びかどうかは、それまでの場面や語りがその判断を支えるかで考えます。

七　結びを二つ作り、比べる

一の例： 惜しいのは、返却口に本を落として、あの音を待つわずかな間だったのかもしれない。

二の例： 信号が青になった。私は鞄の口を閉じ、窓に映る空を見た。

比較の例： 一では音を待つ時間に目を向けたが、建物や道順も惜しいのかは、分からないままにした。

考えに仮の輪郭を与える結びも、具体的な場面へ戻る結びも成立します。本文の出来事に無理なくつながり、書き手自身にも分からない気持ちを一つに決めていないかを見ます。

八　実用の記録でも範囲を分ける

起きたこと： 金曜正午に送る予定だった。原稿は土曜午前十時に届き、入稿は月曜へ延びた。

まだ分からないこと： 原稿が遅れた理由。

次に確かめること： 原稿がいつ仕上がり、どの段階で受け渡しが遅れたのかを、美奈に尋ねる。

理由を未確定にしたまま、到着時刻と日程への影響は書けます。理由がまだ分からないことから、人物の意図を推測したり、日程の確認を省いたりする必要はありません。

九　距離を選んで書く

アの例： 問七の一の例では、返却口の音に目を向けたが、何を惜しむかを音だけに決めていない。

イの例： 椅子を移したら、机の周りは広くなった。それでも立ち上がるたび、椅子のあった方を少しよける。前の置き方に戻したいのかは、まだよく分からない。

ウの例： 部屋は広くなったのに、椅子のあった場所だけが近い。窓から離れたそこへ、午後の薄い色が残る。

エは本文の言葉や場面に印を付ければ完了です。イ・ウでは、異なる二つの感覚が残る形を選びます。個人的な経験の深さや、書いた分量で優劣を付けません。

第二十七回　削ると見えるもの

一　重なっているところを見つける

正答例： 動き＝「腰を下ろして」と「座った」　古さ＝「古くて年月を感じさせる」と「長い年月のために古び」

抜き出す長さには幅があります。腰を下ろす動き、長い年月による古さを、それぞれ重ねている箇所の組であれば成立します。

二　三つの削り方を比べる

正答： A・B

比較の例： A は遠くでボールがはねる動きを残し、B は光を残したいという書き手の気持ちへ寄せている。

A と B は「淡く滑らかに」を残しています。C の「光っていた」からは光の有無は伝わりますが、反射の感じは薄れます。A と B のどちらを選ぶかは、周囲の気配と書き手の感じ方のどちらを残すかによります。

> 同じ語を別の場面で　第 24 回の「淡い青」は色合い、ここでの「淡く光る」は光り方を表します。「滑らかに」を取ると、表面の様子はどこまで伝わるでしょうか。

三　一語を削ったときの変化

正答： ウ

「なぜか」は、光を残したい理由を語り手がうまくつかめていないことを伝えます。削っても光の小ささ、誰が思ったか、残したいという気持ちは文に残ります。

四　残したい細部を選んで整える

光を中心にする例：古い木のベンチに腰を下ろした。ひびの入った板の右端だけが、淡く滑らかに光っていた。私はなぜか、その光を残したかった。

気配を中心にする例：午後の公園で、古いベンチに座った。右端が淡く光っている。遠くでボールが一度はね、葉が揺れた。

「淡く滑らかに」を残せば、ひびのある面との違いを伝えられます。「一度」を残せば、音が続かず、間ができる感じを伝えられます。減らした量と、残した文の働きは別々に確かめます。

第二十八回　自分の言葉で、小さく結ぶ

一　題材を選ぶ

正答はありません。身近な物でも架空の人物でも、細部をいくつか選び、そこから文章を組み立てられれば成立します。

二　使えそうな言葉を集める

台所ばさみの例： 夕食後、オレンジ色の柄、黒ずんだねじ、刃を外して布巾へ置く動き、十二年使ったこと、買い替える時期。

紗江の例： 閉店する時計店、七分進んだ時計、店主の「まだしばらく使えます」、ブレーキの音、声をかけなかったこと。

一つの欄に複数あっても、空欄があってもかまいません。集めた要素から、中心に関わるものを選びます。

三　残すものと、入れないもの

台所ばさみの例： 毎日の動きに合うことを残す。買った店と値段は今回は入れない。

紗江の例： 時計が外されたあとで、腕時計を見る動きを残す。閉店する理由や、紗江の気持ちにどんな名前をつけるかは、決めないままにする。

四　書き出しを二つ試す

書き出し一の例： オレンジ色の柄の台所ばさみを、十二年ほど使っている。

書き出し二の例： 洗った二枚の刃を、布巾の上で交差させて置く。

一は長く使ってきた物へ、二は手入れの場面へ入りやすい形です。同じ題材で何を先に見せるかが変わります。

五　書き出しと結びを考える

解答例： 一を選ぶ。年数と物を示したあと、よく使うときの動きと、洗い方を中ほどに書く。最後は、今朝、布巾に刃を置いた場面へ戻る。

見通しは、初稿で試すためのものです。書き進めて中心が移ったときは、入口や結びを選び直せます。

六　初稿を書く

以下は、題材と結び方の異なる二つの文章です。必要な場面を選び、初めから終わりまで読めるよう、どう組み立てているかを確かめます。

台所ばさみ

オレンジ色の柄の台所ばさみを、十二年ほど使っている。刃をつなぐねじの周りは黒ずみ、柄にも細い傷がある。特別よく切れる品ではない。それでも、海苔の袋を開け、青ねぎを鍋の上で切り、宅配の箱のひもを外すところまで、台所で必要な動きのほとんどをこれ一本で済ませてきた。

このはさみは、左右の刃を外して洗える。鶏肉を切ったあとも継ぎ目に水が残りにくく、片手で引き出しから取り出せる重さもよい。夕食の支度で鍋が沸き始めてから、別の道具を探さなくてよいことが、私には大きい。

先月、開くたびに少し引っかかるようになった。買い替えるつもりで店へ行き、軽いものを二本試したが、その日は何も買わなかった。帰宅してねじの周りを洗い、食品用の油をほんの少し差すと、乾いた音が戻った。思い出が深いから手放せない、というほどではない。安全に使えなくなれば替えると思う。

ただ、今朝も洗った二枚の刃を布巾の上で交差させ、柄を流しの方へ向けて置いた。明日の朝には乾いている。

本文 418 字（段落頭の空白を除く）

日々の使い方を中心に書き、洗いやすさと、買い替えるかもしれないことにも触れています。結びでは、刃を布巾に置く場面へ戻ります。

七分進んだ時計

水曜日の六時十三分、紗江は商店街の時計店の前に着いた。店頭の丸時計は六時二十分を指している。いつも七分進んでいるので、バスが来たわけではないと分かる。四年間、毎週同じようにその差を見てきた。

ガラス戸には「四十七年間ありがとうございました」と書いた紙が貼られ、シャッターは半分まで下りていた。紗江がこの店に入ったのは一度だけだ。止まった腕時計を渡すと、店主は電池を替え、「これなら、まだしばらく使えます」と言った。代金を払い、すぐ店を出た。それ以上の話はしていない。

六時十八分ごろ、店主が踏み台を出し、丸時計を壁から外した。紗江は声をかけようかと思ったが、何を言うのかは浮かばなかった。閉店が惜しいのか、バスを待つ目印がなくなるのが困るのか、自分でも決められない。スマートフォンでも時刻は分かるし、腕時計も動いている。

通りの角からブレーキの音がした。紗江は外された丸時計ではなく、自分の腕時計を見た。六時二十分だった。バスへ乗る前に一度振り返ると、時計のなくなった壁は、思っていたより白かった。

本文 446 字（段落頭の空白を除く）

与えられた場面から、時計を見ていた年数や外した時刻を補った創作例です。紗江の気持ちは一つに決めず、最後は時計がなくなった壁へ目を向けています。

七　残す箇所と直す箇所

「台所ばさみ」なら、洗った刃を置く結びを残し、漠然と「便利だ」としていた箇所を書き直す、という選び方ができます。中心を伝えるうえで今の文が果たす働きを見ます。

八　一か所以上を推敲する

動きで中身を示す例

初稿の一部： 長く使っていて愛着があり、何を切るにも便利なので、このはさみが好きだ。

推敲後の一部： 海苔の袋を開け、青ねぎを鍋の上で切り、宅配の箱のひもを外すところまで、台所で必要な動きのほとんどをこれ一本で済ませてきた。

三つの動作で「便利」の中身を示しました。第 23 回と第 25 回の練習がここで使えます。

気持ちを一つに決めずに書く例

初稿の一部： 時計店が閉まり、紗江は寂しかった。しかし、変化を受け入れて前を向こうと思った。

推敲後の一部： 閉店が惜しいのか、バスを待つ目印がなくなるのが困るのか、自分でも決められない。

推敲したのは第三段落です。閉店と、待つ目印がなくなることの両方を残し、紗江の気持ちを一つに決めていません。結びでは、紗江が時計の外れた壁を見る場面へ戻ります。

> **結びを読み返す**　第 7 回では、白いカップの青い線にたまる光を見て、第 26 回では、返却する本が鞄に残っていないか確かめて結びます。結びに出てくる物や動作を比べてみましょう。

九　書き上げた文を確かめる

中心を支える細部があり、選んだ結びや推敲の理由が見えれば成立します。

紹介の例： 十二年ほど使った台所ばさみについて書きました。洗いやすさや取り出しやすさを、夕食の支度の中で続く動きから伝えました。

紹介では、第 17 回のように読む相手を考えて要点を選びます。

第四部の終わりに

言葉を選び直せる場所

ここまで、二十八回の稽古で、言葉を読み、考え、書いてきました。何気なく使う一語に立ち止まり、出来事と受け取りをほどき、相手に何から伝えるかを考え、最後に短い文章を一つ結びました。

書き終えた文章は、自分の言葉の完成品ではありません。同じ経験でも、明日なら別の場面から始めるかもしれません。相手や目的が変われば、詳しく話すことも、短く答えることもあります。残した一文を、あとから動かしたくなることもあります。

言葉にしたことで、初めて見える輪郭があります。一方で、まだ名前のつかない感じ、いくつかの言葉が並んだままの考え、今は書かずにおくことも残ります。どちらかだけを、正しい終わり方にする必要はありません。

自分の言葉とは、特別な言い回しを手に入れることではなく、そのときの経験、相手、時機に照らして、無理のない表現を選ぶことです。必要なら、その選択はもう一度やり直せます。

これから言葉に出会ったときも、すぐに決めずに眺め、必要なだけ分け、どこで使うかを考え、残したい形へ育てていく。その途中には、言葉になったものと、まだならないものの両方があってよいのだと思います。

参考資料と本文について

第一部の参考資料

第四回の文章は、文化財の保存と「保存」「保管」の意味に関する次の資料を参照し、本教材のために執筆しました。参照日はいずれも 2026 年 11 月 8 日です。

文化財の保存

東京国立博物館「文化財を守る 保存と修理 予防」

https://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=132&lang=ja

照度や展示期間の調整、適切な展示ケース、温湿度の管理により、展示と保存を両立する考え方を参照しました。

国立国会図書館「温湿度管理」「照明」

https://www.ndl.go.jp/preservation/collectioncare/humiditycontrol

https://www.ndl.go.jp/preservation/collectioncare/lighting

温度や湿度、光の管理が、紙などの図書館資料の傷みを抑えることを確認しました。

言葉の意味

小学館 デジタル大辞泉「保存」「保管」 コトバンク掲載

https://kotobank.jp/word/保存-11858

https://kotobank.jp/word/保管-8782

保存は状態を保っておくこと、保管は預かった物を傷つけたり失ったりしないよう管理することを含みます。本文では、両者の重なりを残しながら、具体的な場面での重点を説明しました。

学習用の場面について

博物館で地図を扱う場面、会話、作業記録、施設案内、描写、随筆、解答例は、学習用に構成したものです。

第二部の参考資料

第十一回の文章は、惑星を探す観測方法について、次の資料を参照して執筆しました。参照日はいずれも 2026 年 11 月 8 日です。

恒星の減光と惑星の大きさ

国立天文台 岡山天体物理観測所「晴天のスーパーアース？―低質量の太陽系外惑星 GJ3470b の大気を初めて観測―」の「トランジット太陽系外惑星」。

https://www.nao.ac.jp/study/oao/science/201306_gj3470b.html

惑星が恒星の光の一部を遮ると明るさが下がり、暗くなる割合が惑星の大きさの手がかりになることを確認しました。

周期とほかの原因の検討

NASA Science “10 Steps to Confirm a Planet Around Another Star”

https://science.nasa.gov/universe/exoplanets/10-steps-to-confirm-a-planet-around-another-star/

周期的な減光が周回する惑星の手がかりになること、減光には惑星以外の原因もあり、ほかの観測などと照らして検討することを確認しました。

NASA Science “Know the Star, Know the Planet”

https://science.nasa.gov/universe/stars/know-the-star-know-the-planet/

惑星の大きさを求めるには恒星の大きさが必要であることと、恒星の暗い部分が自転に伴って見え隠れすることで明るさが変わることを確認しました。

学習用の場面について

会話、時系列メモ、地域行事の記録、観察会の回数、観測速報案、地域展示会の資料、解答例は、学習用の架空の素材です。

第三部の参考資料

第十七回の文章は、木版と活字の仕組み、江戸の商業出版について、次の資料を参照して執筆しました。参照日はいずれも 2026 年 11 月 8 日です。

木版と活字の仕組み・江戸の商業出版

国立国会図書館 第 34 回関西館資料展示「ブレイク刷るー！」の「第 1 章 近世以前の印刷」。

https://www.ndl.go.jp/event/exhibitions/kansai_202509

ページ全体を彫る木版の仕組み、活字の使用後も近世の出版で木版が主流であったことを確認しました。

『国立国会図書館月報』735・736 号（2022 年 7・8 月）9 頁「整版と古活字版」。

https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_12300245_po_geppo220708.pdf?contentNo=1

文字や絵を彫る版木と、活字を用いる印刷の違い、活字を組み直す必要と増刷の関係を確認しました。

国文学研究資料館「和書のさまざま」の「古活字本と整版本」。

https://www.nijl.ac.jp/etenji/washoRINNE/exhibition/4-1/index.html

同じ著作が活字と整版の両方で出版された例もあり、活字の登場によって木版がすべて使われなくなったわけではないことを確認しました。

学習用の場面について

会話、依頼と断りの例、教室や交流館の記録、解答例は、学習用の架空の素材です。

第四部の絵「雨上がりの石段」と作文の場面は、学習用の架空の素材です。